

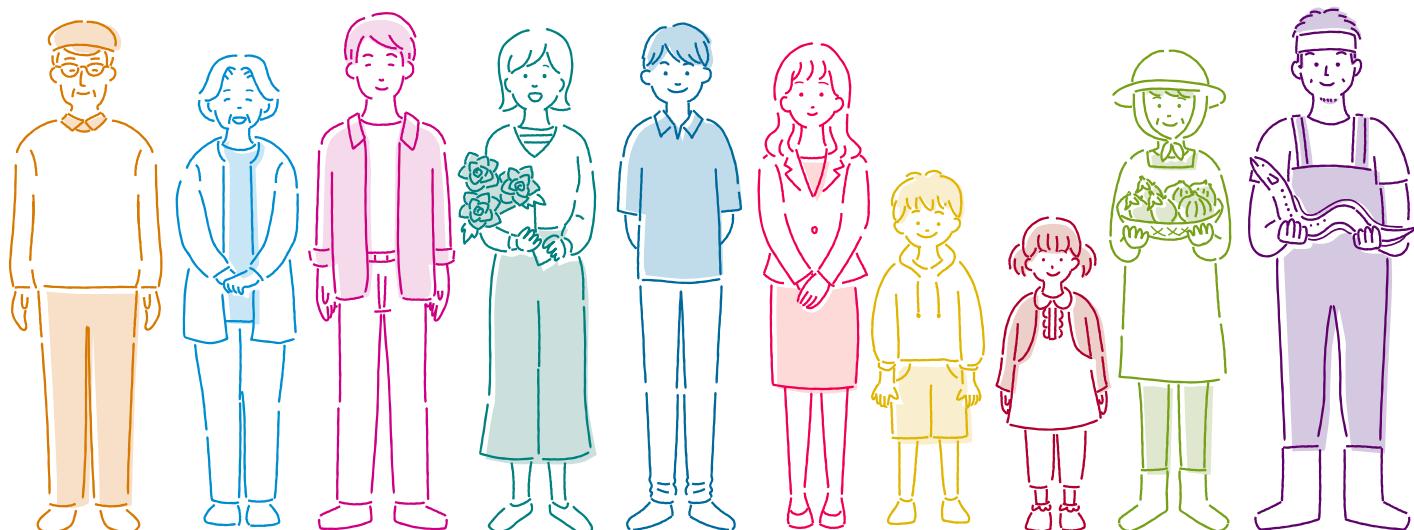
第6次泉南市総合計画

2023 ▶ 2032



かんじる つながる ひろがる

住人十色のまち せんなん



第6次泉南市総合計画

2023 ▶ 2032



かんじる つながる ひろがる
住人十色のまち せんなん

策定にあたって

～市長インタビュー～

泉南市の10年後の未来を創造して
「第6次泉南市総合計画」を策定します。
持続可能なまちづくりを目指し
つよくしなやかな泉南市へ
市民の皆様とともに泉南市を築いてまいります。

令和5年6月

泉南市長 山本優真



Q 泉南市内のお気に入り
スポットはありますか？

A 泉南市農業公園「花咲きファーム」内にあるイングリッシュローズガーデンです。世界有数の広さで、たくさんの種類のバラが楽しめる「映える（ばえる）」スポットです。ローズガーデンにある店舗でローズグッズをゲットしたり、品種ごとに異なるバラの香りを楽しむのもおすすめです。その他にも海辺の「映える（ばえる）」スポットとして、SENNAN LONG PARK もおすすめです。関空を眺めながら飲むコーヒーは最高ですよ！

Q 市長にとって「ええやん」と
思える泉南市の魅力は何ですか？

A まずは「人」ですね。まちに出ると気軽に皆さんが声をかけてくれます。本当に魅力的な方とたくさん出会って毎日刺激をもらっています。ちょっと都会でほどよく田舎の「暮らし」の中で感じる魅力や、泉南市の海・山・空などの「自然」、歴史ある街道や遺跡などの「文化」の魅力も含めて常に新しい発見があります。全国に泉南市の「ええやん」を発信することが、私の役割の一つだと思っています。

Q これからのまちづくりで力を
入れたいことは何ですか？

A 住んでいる人が「幸せ」を実感できるまちにしたいですね。自然が豊かで交通の利便性が高いといった強みに加え、便利で市民の暮らしの満足度が高い、「住み続けたい」と思えるまちを目指します。それと私も子育て中ですので、子育てを楽しめるまちになるよう、当事者の目線で子育てや教育には特に力を入れていきたいですね。また、関西国際空港のゲートウェイであることをいかして、企業誘致や投資を促進するなど経済活動の好循環の実現により、持続可能なまちを目指していきます。

Q 市長から市民の皆さんへ
メッセージをお願いします。

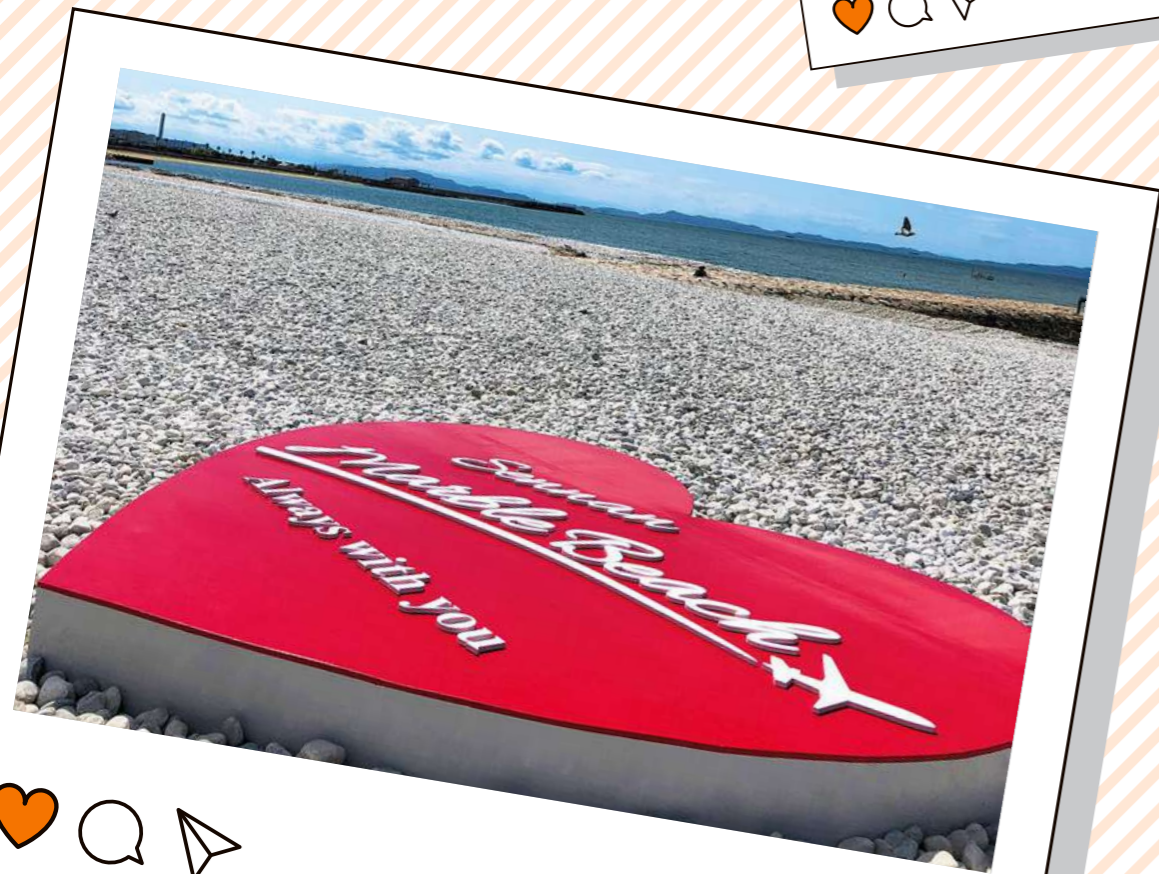
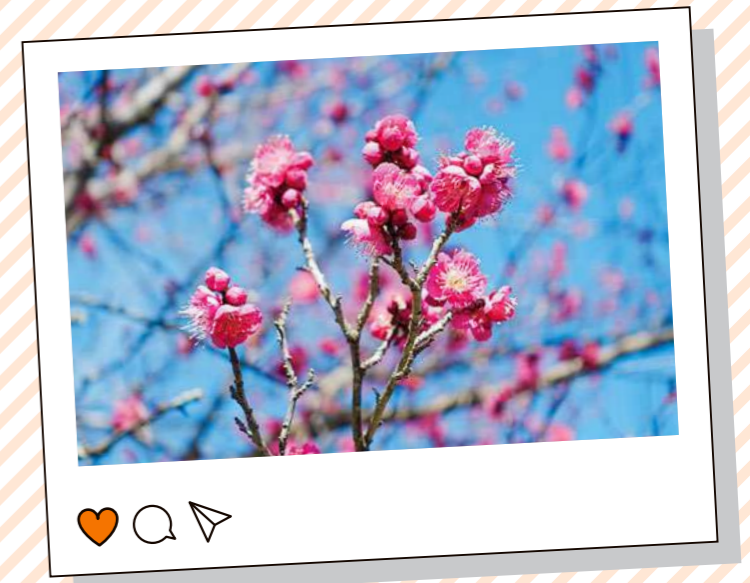
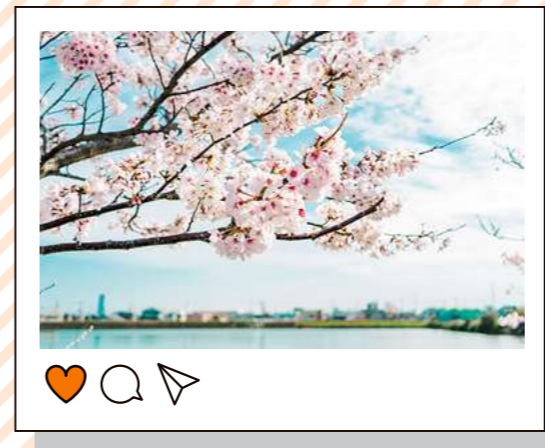
A 泉南市で過ごしていると「ええやん」と思う瞬間がたくさんあります。ひょっとしたら、私も、市民の皆さんも気づいていない魅力がまだまだたくさんあるかもしれません。そんな魅力を市民の皆さんと掘り起こしたり、さらに磨き上げていきたいと思っています。私と一緒に新しい泉南市のまちづくりを楽しみましょう。

泉南市には

ええやん

が

いっぱい!



第1部 序論	7
1 計画策定の趣旨	8
2 計画の構成・期間	8
3 計画の策定体制	9
4 社会的潮流	10
5 泉南市の現状と課題	12
第2部 基本構想	33
1 まちづくりの視点	34
2 目指すべき将来像	36
3 まちづくりの方向	42
第3部 基本計画	47
基本計画の見方	48
分野別政策1 「ひと」を育てる・輝かせる	50
施策1 人権尊重・平和・多文化共生	50
施策2 男女平等参画・女性活躍	52
施策3 子育て支援	54
施策4 就学前教育・学校教育	56
施策5 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成	58
施策6 歴史・文化	60
分野別政策2 「しごと」を生み出す・にぎわいを創出する	62
施策7 農業・漁業	62
施策8 商工業	64
施策9 観光	66
施策10 雇用	68
分野別政策3 「くらし」を守る・快適にする	70
施策11 防災	70
施策12 防犯・交通安全・消費者トラブル対策	72
施策13 環境保全・脱炭素・エネルギー	74
施策14 道路・交通	76
施策15 下水道・生活環境・住まい	78
分野別政策4 「健幸」を築く・つながりをひろげる	80
施策16 医療・健康	80
施策17 地域福祉・困窮者対策	82
施策18 高齢者福祉	84
施策19 障害福祉	86
総合的政策 「しくみ」をつくる・運営する	88
施策20 協働・コミュニティ	88
施策21 シティプロモーション	90
施策22 情報政策（DX）	92
施策23 行財政運営	94
第4部 資料編	97

第1部 序論

第1部 序論

1 計画策定の趣旨

泉南市では平成25（2013）年に第5次泉南市総合計画を策定し、「豊かな環境・支えあい 人を大切にする泉南市～みんなで夢を紡ぐ 生活創造都市～」の実現に向け、子育て・教育環境の充実や地域共生社会の構築、総合戦略に基づく地方創生の取組を市民の参画と協働を重視しながら進めてきました。

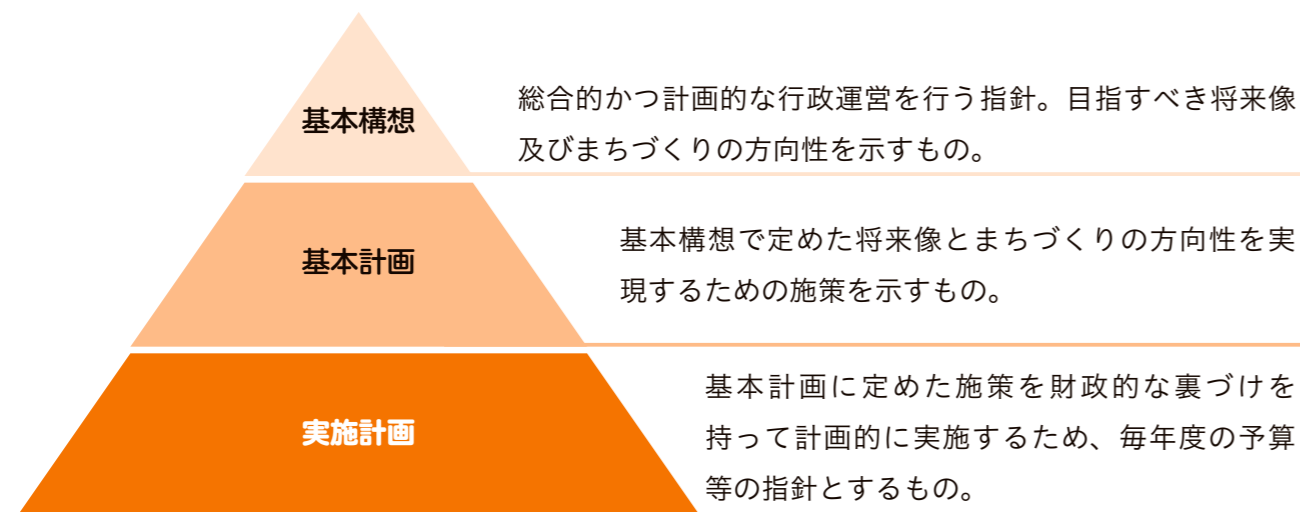
この間、人口減少・少子高齢化、地震や豪雨、台風等の災害への不安の高まり、新型コロナウイルス感染症対策による新しい生活様式の実践やデジタル化の加速等、社会経済情勢は変化しており、市民ニーズや行政に求められる役割も大きく変化しています。

こうした状況を踏まえ、泉南市が市民にとって「いつまでも住み続けたいまち」であるために、暮らしの満足度を高め、幸せを実感できるまちを市民と共に築いていくことで、定住による人口減少を食い止め、持続可能なまちを目指すことが必要です。

本市ではそれらを踏まえ、市民と行政が共有できるこれからのまちづくりの指針として、令和5（2023）年度をスタートとする第6次泉南市総合計画（以下「本計画」という。）を策定します。

2 計画の構成・期間

▶ 計画の構成

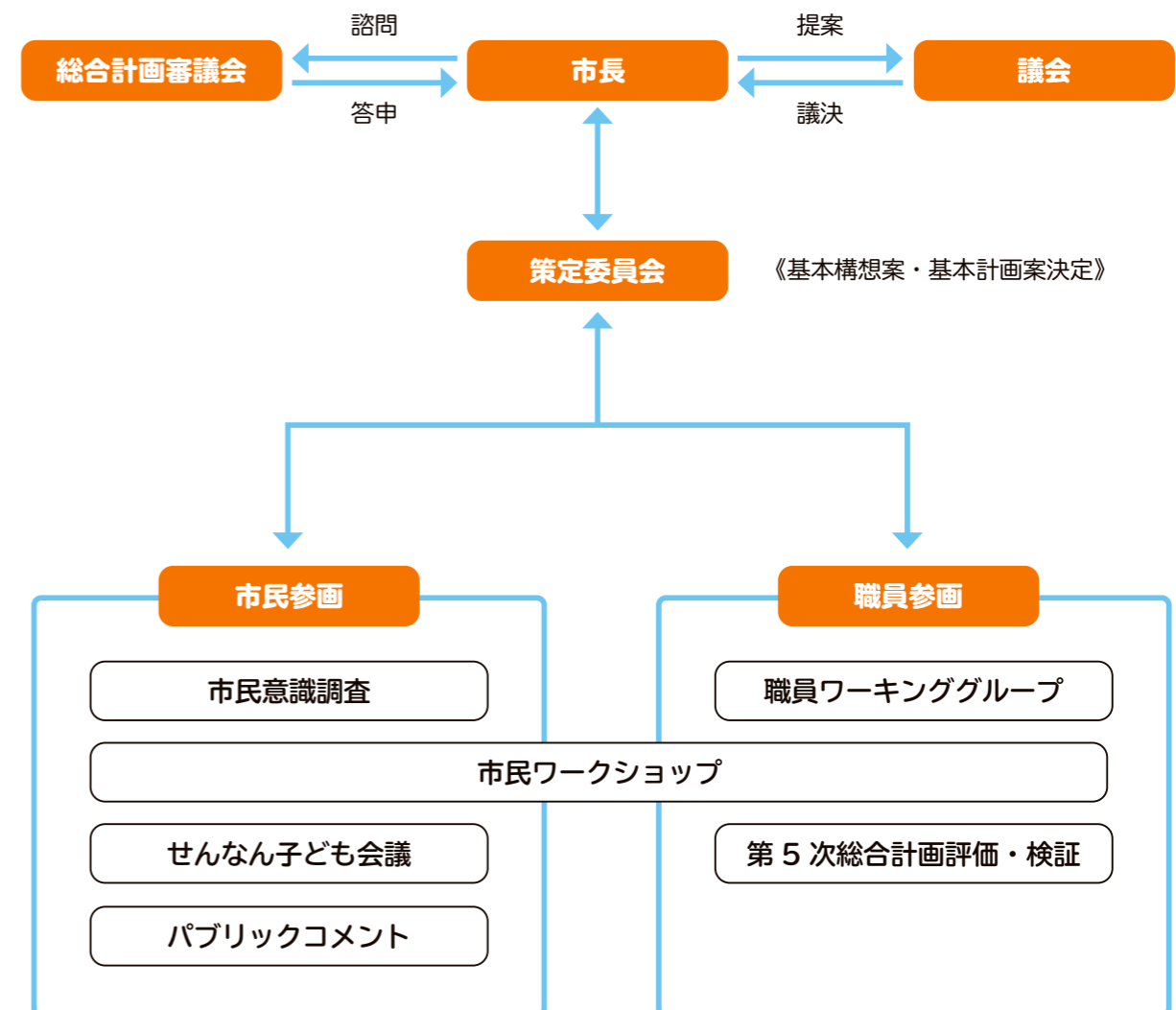


▶ 計画の期間

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
				基本構想					
				基本計画					
実施計画			実施計画			実施計画			

3 計画の策定体制

本計画は、市民意識調査や市民ワークショップ等、市民の皆さまからの意見・アイデアを参考にしながら、行政内部の委員会等で計画内容を取りまとめ、総合計画審議会において審議し、市議会で議決をいただくなど、協働により策定しました。

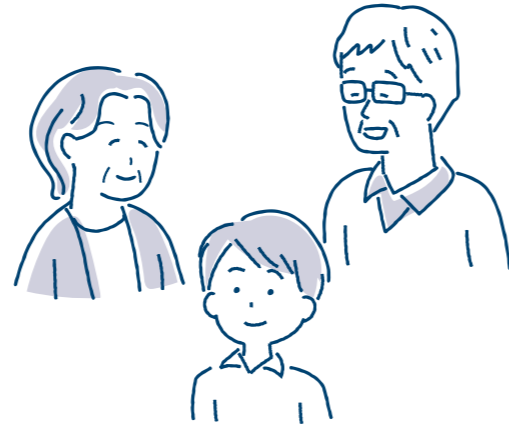


4 社会的潮流

これからのまちづくりを考える上で、本市に影響を及ぼすと考えられる全国的な社会の潮流について整理します。

人口減少、少子高齢化の進行

- 日本の人口は令和35（2053）年に1億人を下回ると推計されている。
- 令和7（2025）年には団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達する。
- 各自治体で移住・定住促進や関係人口・交流人口増加に向けてまちの魅力を向上させ、発信する取組が進められている。



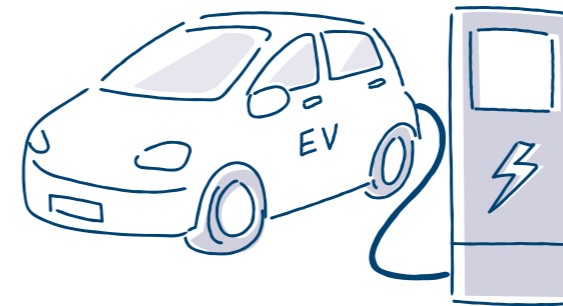
技術革新による時代の変化

- ロボットや自動運転等の技術革新の進展により産業構造が転換し、労働力不足を補う可能性がある。
- デジタルトランスフォーメーション（DX）※の推進により、さらに便利で安全・安心なまちづくりが期待される。



安全・安心への意識の高まり

- 自然災害が激甚化・頻発化し、暮らしの安全確保が大切な要素となっている。
- 防災・減災には自助・共助・公助の取組とともに、デジタル化や地域防災力を高めるハード・ソフト一体の取組が必要とされている。
- 感染症対策や健康への意識が高まっており、感染リスクを抑えつつ生産性を向上する「新しい生活様式※」が必要とされている。



脱炭素社会※に向けた取組の推進

- 国では温暖化への対応を成長機会と捉え、脱炭素化による「経済と環境の好循環」の創出を目指している。
- 行政活動はもちろん、民間の事業活動や市民生活でも脱炭素社会に向けた取組の推進が求められている。

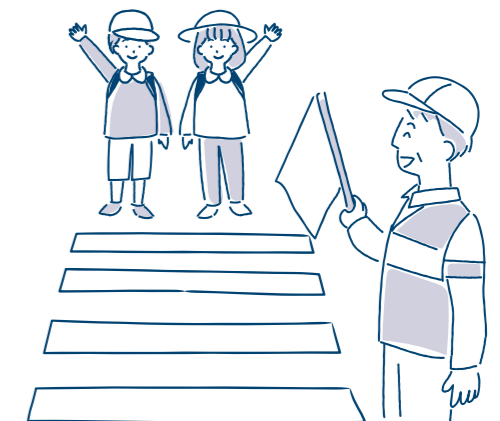
持続可能な地域づくりの推進

- 持続可能な開発目標 - SDGs※は「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指している。
- SDGsは、経済、社会、環境を巡る幅広い課題への国際社会の目標としてあらゆる主体の取組が求められている。



協働のまちづくりの必要性の高まり

- 人口減少や人口構造の変化、自治会加入率の低下等により地域コミュニティの活力が低下している。
- 見守りや近隣の助け合い等、地域のつながりの大切さが再認識され、市民参画・協働のまちづくりが求められている。



※新しい生活様式：感染症の拡大を防止するため、厚生労働省が公表した行動指針。日常生活（移動、買物や食事、働き方）で実践すべきこととして、3密（密集・密接・密閉）の回避や、テレワーク、オンライン会議等が公表された。

※SDGs：17の目標、169の達成基準、232の指標からなる持続可能な開発のための国際的な開発目標。

※デジタルトランスフォーメーション（DX）：情報通信技術の浸透により、人びとの生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。

※脱炭素社会：地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会のこと。国では「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言し、再生可能エネルギーの拡大や省エネルギーの促進等に取り組んでいる。

5 泉南市の現状と課題

(1) 地勢と特徴

大阪都心部から40～50kmにあり、北西部は大阪湾に面し、海、山の豊かな環境に恵まれています。市域には関西国際空港の約3分の1を含み、鉄道・高速道路による広域的な交通アクセスに優れ、りんくうタウンにはショッピングセンターが立地するほか、製造・加工関係の事業所等が集積しています。

広域交通アクセス

- 関西国際空港まで最短15分の良好なアクセス
- 市内4駅（JR 阪和線 和泉砂川駅・新家駅、南海電鉄 南海本線 樽井駅・岡田浦駅）、高速道路（阪和自動車道 泉南IC）による大阪、和歌山方面とのアクセス



教育・子育て支援

- 地域子育て支援センターやママサロン等、子育て家庭の交流・相談の場が充実
- 子どもの医療費助成等、妊娠・出産・医療等、様々な制度による支援
- 公立、私立合わせて保育所（園）・認定こども園8か所、幼稚園3か所



生活環境・産業

- 泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）や泉南市農業公園「花咲きファーム」等のレジャー施設
- りんくうタウンのショッピングセンター等、便利な買い物場所
- 航空貨物や機内食等、空港関連産業、繊維産業や製造業等



地域づくり

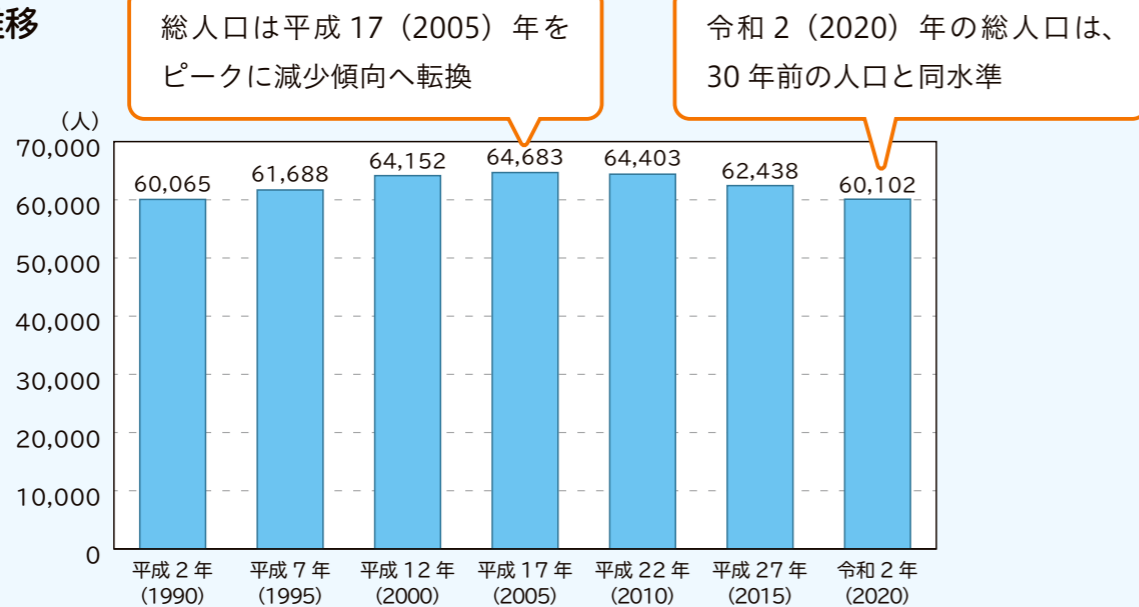
- 地域住民と行政の協働による地域の新たな交流・つながりの再生
- 子どもから大人まで安心して暮らすことができる地域共生社会の実現に向けた取組

(2) 統計からみる現状

人口や産業、財政状況等に関する経年的な統計データから泉南市の現状を整理します。

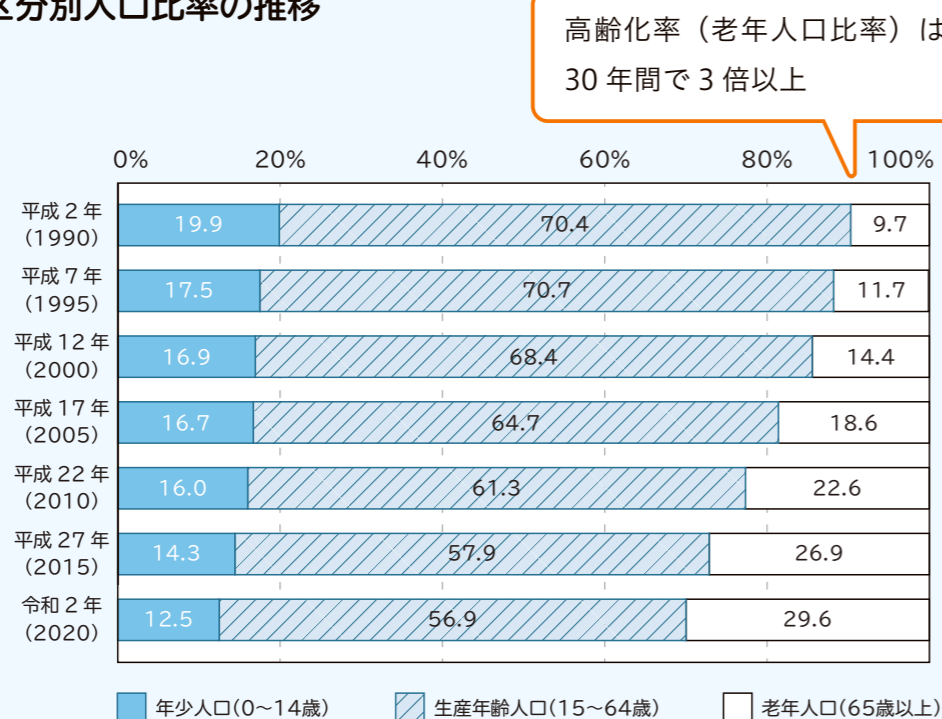
①人口の状況

■人口の推移



資料：国勢調査

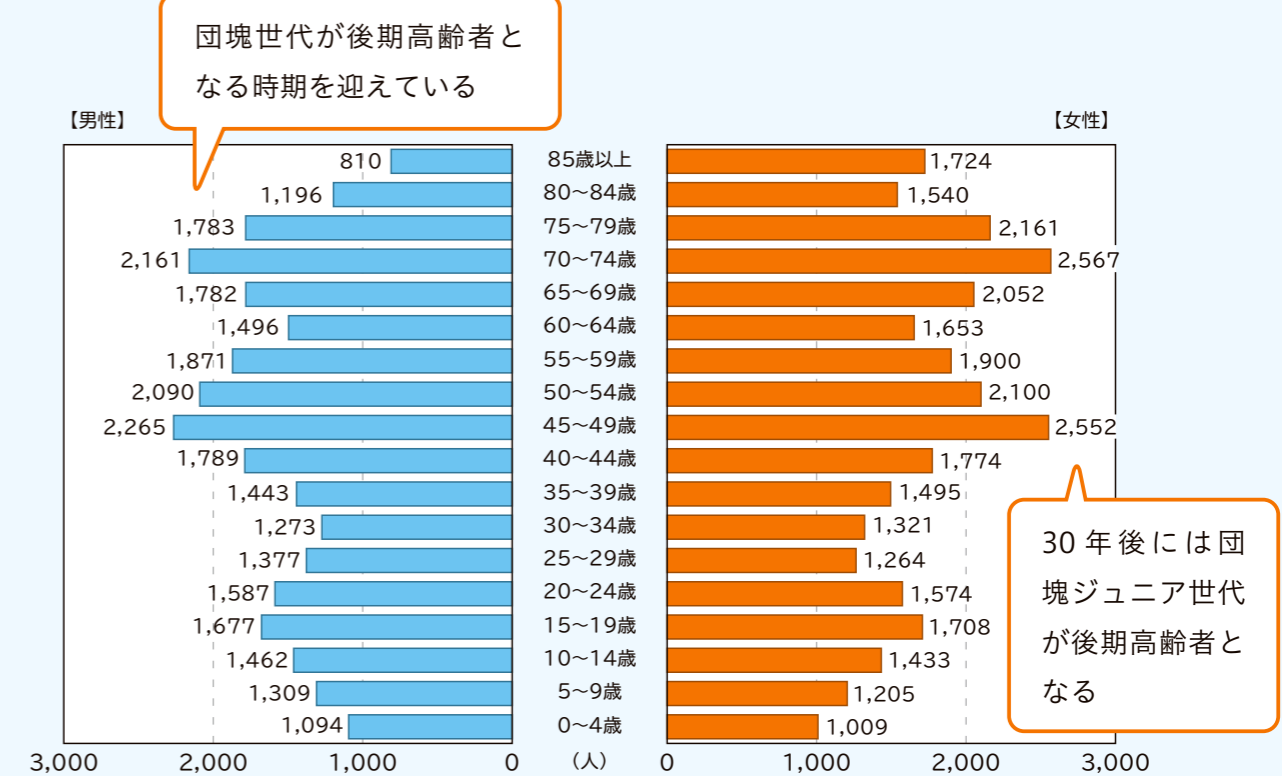
■年齢3区分別人口比率の推移



※年齢不詳を含むため、割合の合計は100.0%にならない。

資料：国勢調査

■人口ピラミッド(令和2(2020)年)



資料：国勢調査

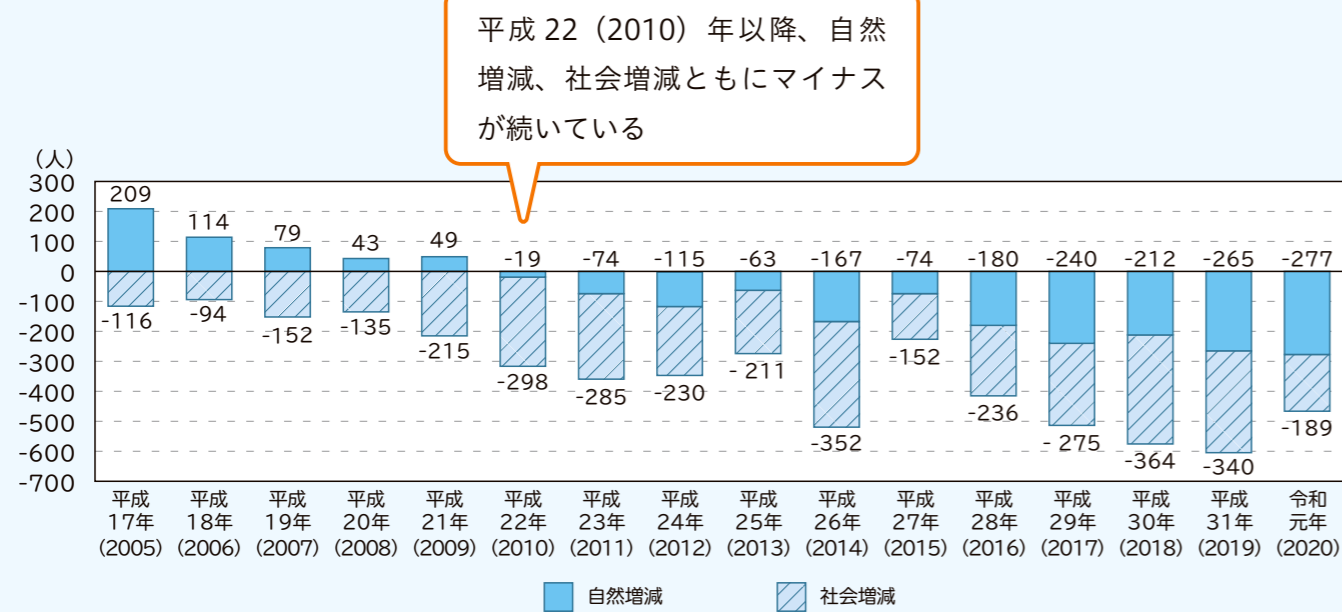
人口に関する現状のまとめ

- 総人口(国勢調査)は平成17(2005)年の64,683人をピークに減少に転じ、令和2(2020)年では約60,000人と15年間で約5,000人減り、30年前の人口と同水準になっている。
- 年少人口の割合は、平成2(1990)年で約20%だったものが令和2(2020)年では12.5%となっており、反対に高齢化率は約10%だったものが30%にまで上昇しており、人口構造が大きく変化している。
- 人口ピラミッドでは、15~24歳と比べ、25~34歳が少なくなっており、進学・就職等による若年層の流出の影響がうかがえる。
- 団塊世代が75歳以上を迎える時期となっており、要介護認定者等、支援を必要とする人が増えることが予測される。また、団塊ジュニア世代の45~49歳が多く、約30年後にも同様の課題に備える必要がある。

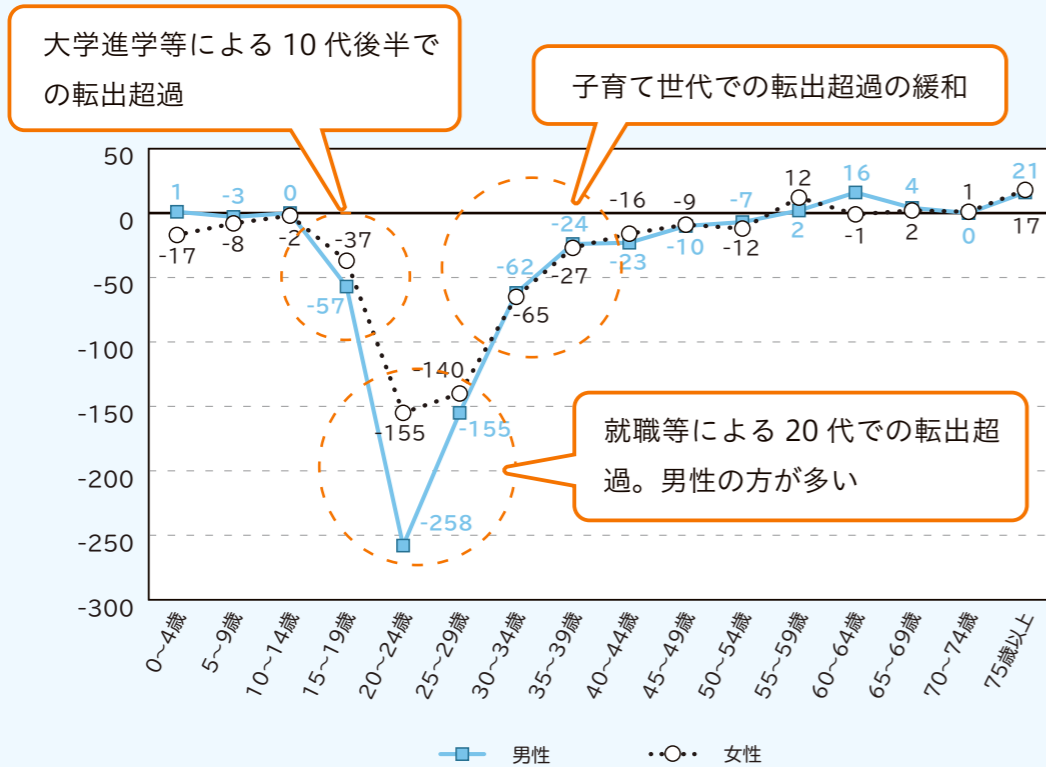
人口減少をできるかぎり緩やかにするとともに、これからの人口規模・人口構造に応じたまちづくりが必要
人口減少の中でも子ども・若者の割合を保持していくためのまちづくりが必要

②人口動態の状況

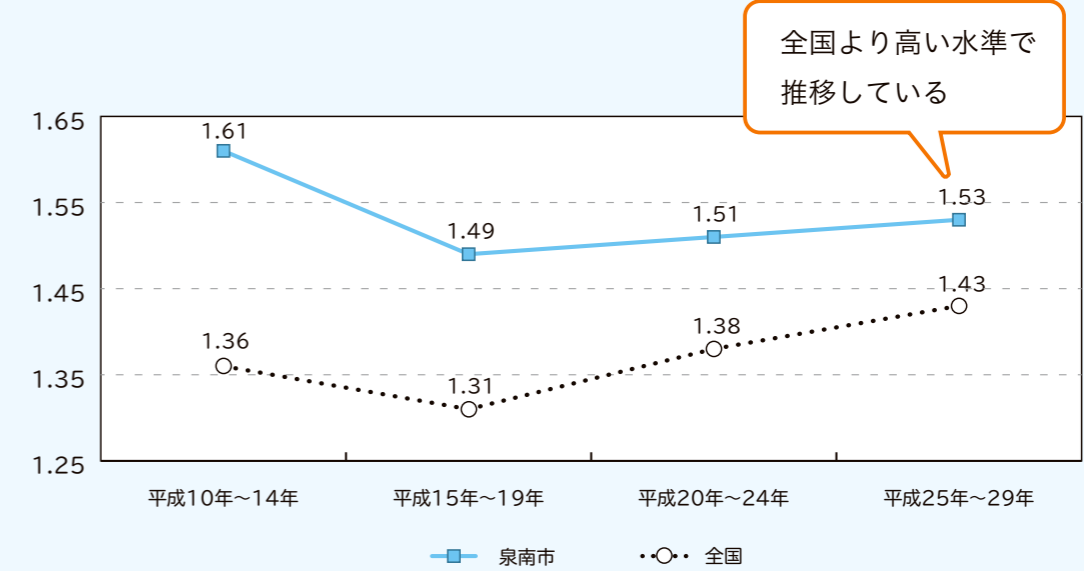
■自然増減・社会増減の推移



■転入超過・転出超過の年齢構成 (令和元 (2019) 年)



■合計特殊出生率*



人口動態に関する現状のまとめ

- 平成 22 (2010) 年以降、人口の自然増減、社会増減共にマイナスが続いており、ここ数年では自然減が増加傾向となっている。
- 転出超過は 20 ~ 24 歳で最も多く、就職等による流出が大きいことがうかがえる一方、30 代では転出超過が緩和している。
- 合計特殊出生率は全国より高い水準で推移しているが、希望出生率*である 1.80 から下回っており、子どもを産み、育てたい人が希望する子どもの数と実際の出生数がかい離している。

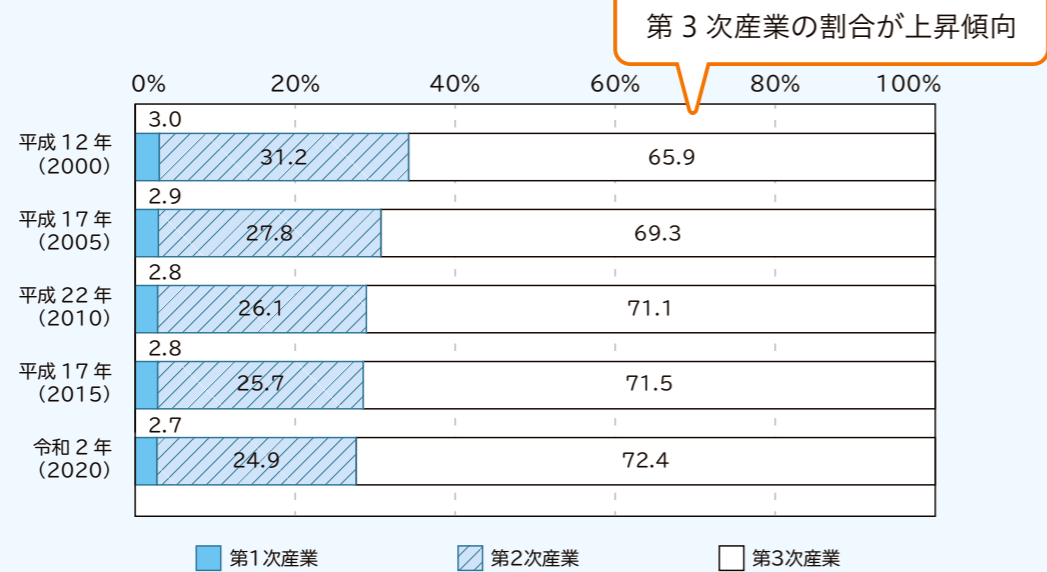
若い世代が住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりが必要
子どもを産み、育てたい人の希望をかなえる支援や環境づくりが必要



*合計特殊出生率：15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。1 人の女性が一生の間に出産する平均の子ども数とみなされる。
*希望出生率：若い世代の結婚や出産の希望がなかったときの出生率の水準。国の実施した調査の結果から、夫婦が予定する子どもの数 (2.07 人) に離婚等を勘案し、1.80 と想定している。

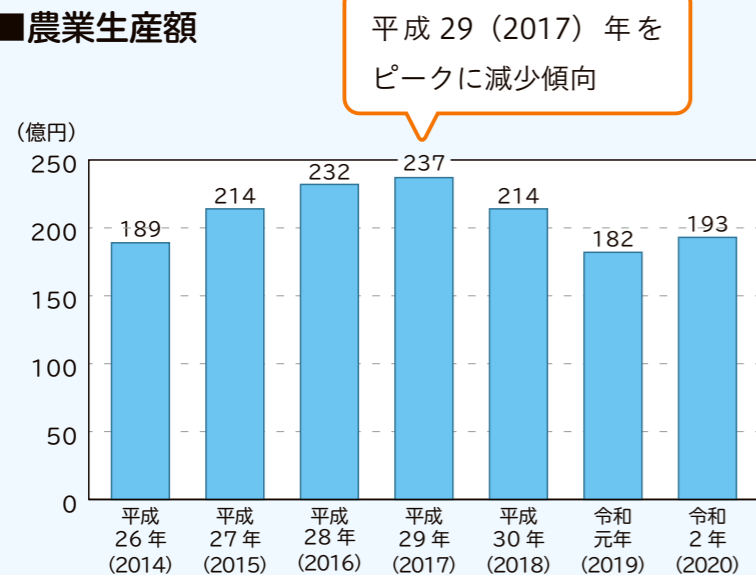
③産業の状況

■産業構造（就業者割合）



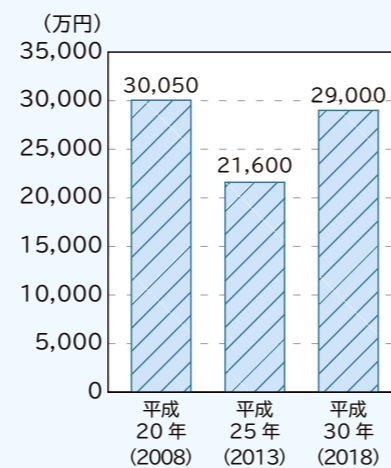
資料：国勢調査

■農業生産額



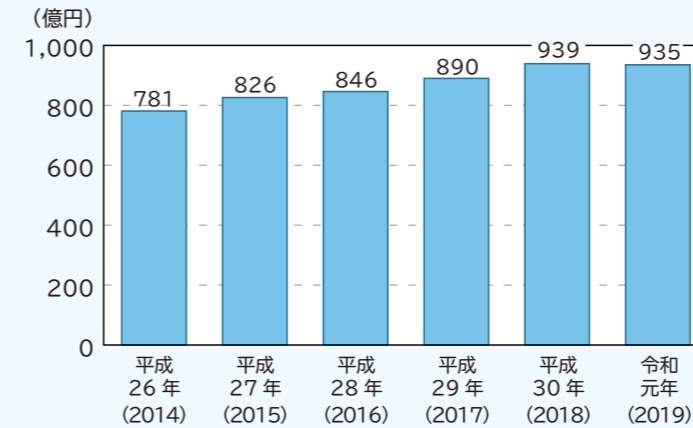
資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

■海面漁獲物等販売金額



資料：農林水産省「漁業センサス」再編加工

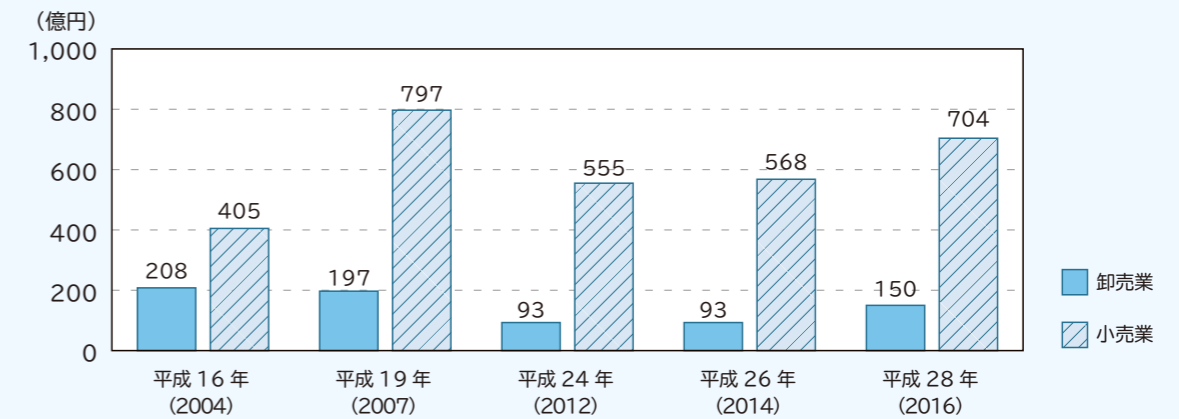
■製造品出荷額



本市の製造業の主な産業分類は「食品製造業」「繊維工業」「プラスチック製品製造業」で、製造品出荷額は増加傾向が続いている

資料：経済産業省「工業統計調査」
総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

■商品販売額



資料：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

産業に関する現状のまとめ

- 産業別の就業者数では第3次産業の割合が上昇し続けており、第2次産業の割合が低下している。
- 農業生産額は平成29(2017)年をピークに減少傾向となっている一方、製造品出荷額は増加傾向となっている。
- 海面漁獲物等販売額、商品販売額は年によってばらつきが大きい。



農業生産額は減少傾向にあり、担い手の確保と共に、ブランド化などによる付加価値の創造と生産性の向上を図ることが必要

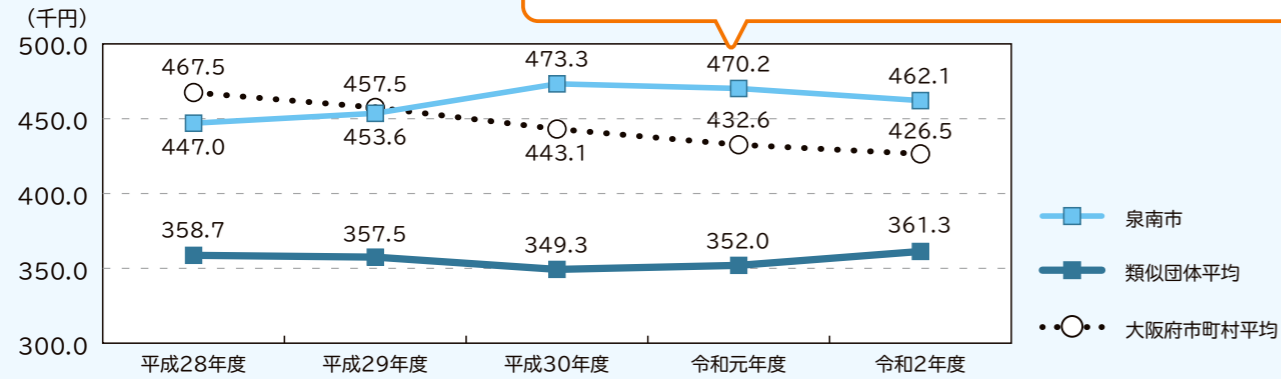
従事者割合は低下しているものの、本市の産業の中では製造品出荷額が大きく、雇用の場の確保の観点からも企業誘致や事業者への支援が必要

※第1次産業：農業、林業、漁業等。
※第2次産業：製造業、建設業、鉱業等。
※第3次産業：商業、金融業、不動産業、運輸通信業等。

④市の財政状況

■市民一人当たりの借金（市債）

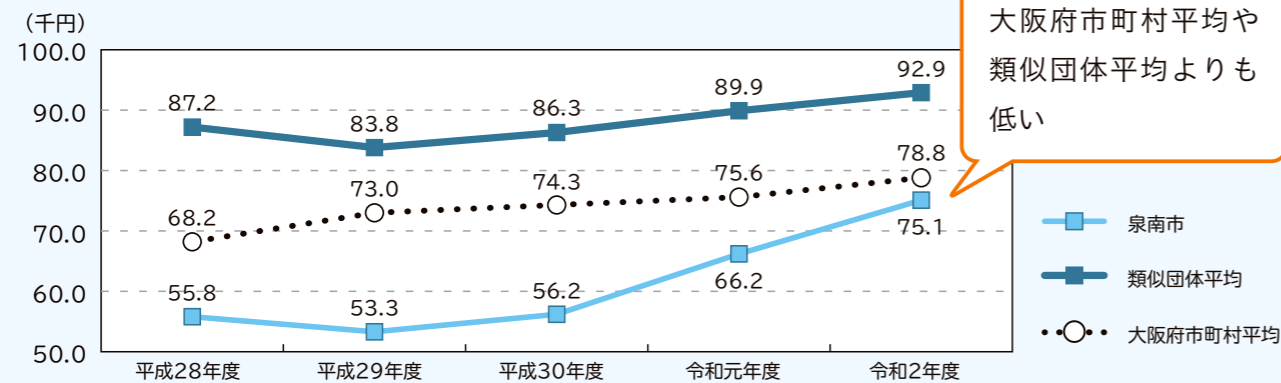
平成 30（2018）年度以降、減少に転じているが、大阪府市町村平均や類似団体[※]平均よりも高い水準で推移している



資料：大阪府 市町村なんでもランキング

■市民一人当たりの貯金（基金）

改善傾向にあるが、大阪府市町村平均や類似団体平均よりも低い



(3) 市民ニーズ

定住意向や、施策に対する満足度、重要性等、これからのまちづくりの方向等、泉南市民のニーズから見える現状の一面として整理します。

①市民意識調査結果概要

調査対象者

- 市民** 3,000人（市内在住の18歳以上の市民から無作為抽出）
- 小中学生** 市内小中学校に通学している小学校5年生、中学校2年生全員

調査方法

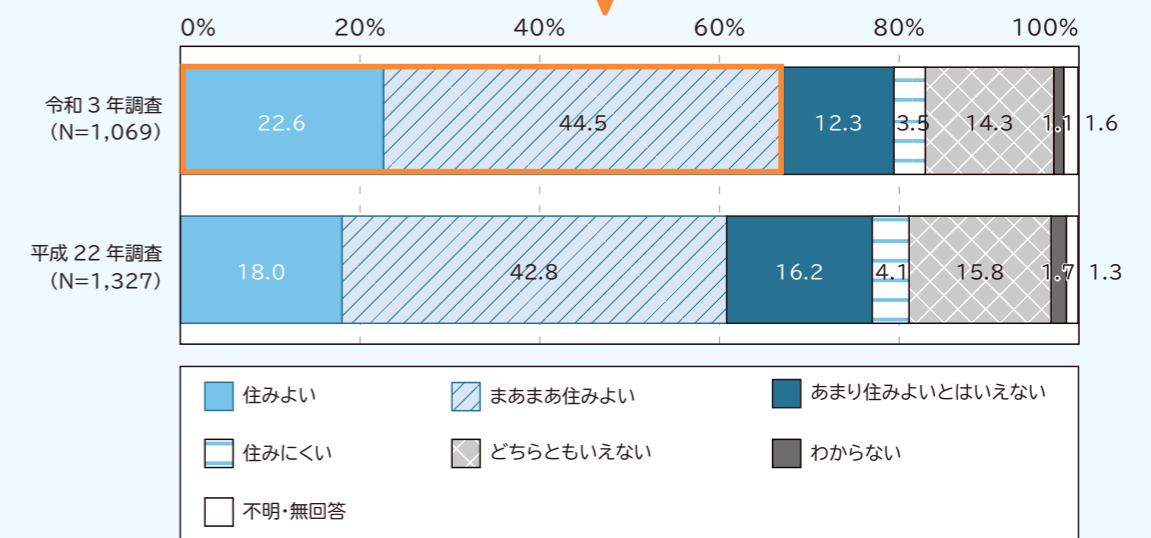
- 市民** 調査票による本人記入方式（郵送配布・回収、WEB回答）
- 小中学生** 学校を通じたWEB回答

	配布数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 (B/A)
市民	3,000	1,069	35.6%
小中学生	1,112 小5:567 中2:545	968	87.1%

■泉南市の住みやすさ

市民

『住みよい（「住みよい」と「まあまあ住みよい」の合計）』は67.1%と、10年前よりも6.3ポイント増加



財政に関する現状のまとめ

- 市民一人当たりの借金（市債）は減少傾向、市民一人当たりの貯金（基金）は増加傾向と、財政状況は改善に向かっているものの、大阪府市町村平均、類似団体平均と比較して、厳しい状況が続いている。

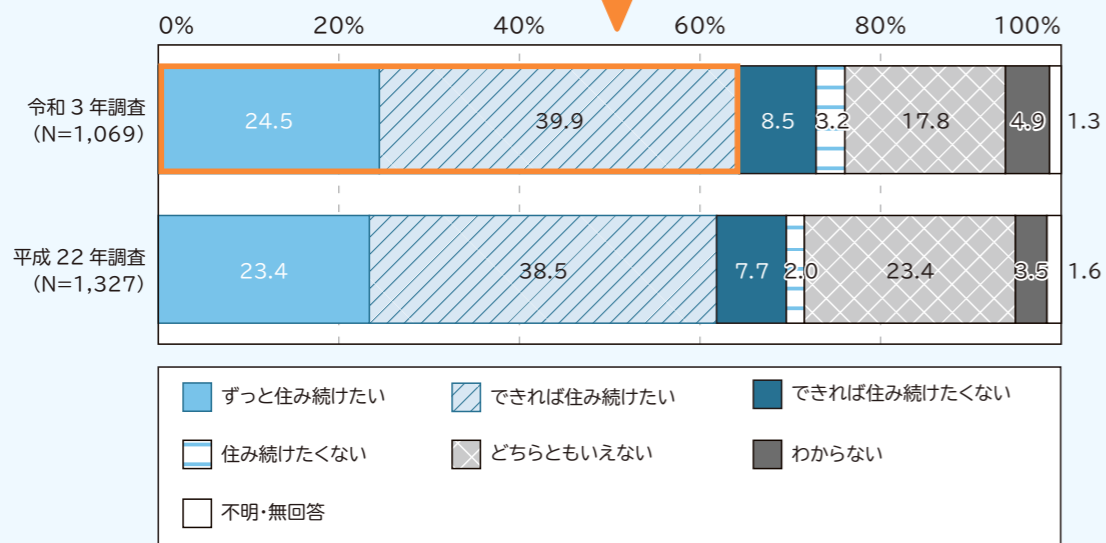
➡ 人口減少が続く中で、計画的な行財政運営や、自主財源の確保による財政の健全化が必要
 公共施設の統廃合、複合化などを行い、財政負担の平準化や事業の選択と集中が必要

※類似団体：人口と産業構造により設定された類型により、全国の市区町村を大都市、特別区、中核市、特例市、都市、町村ごとに団体を分別したもの。

■泉南市への定住意向 市民

市民

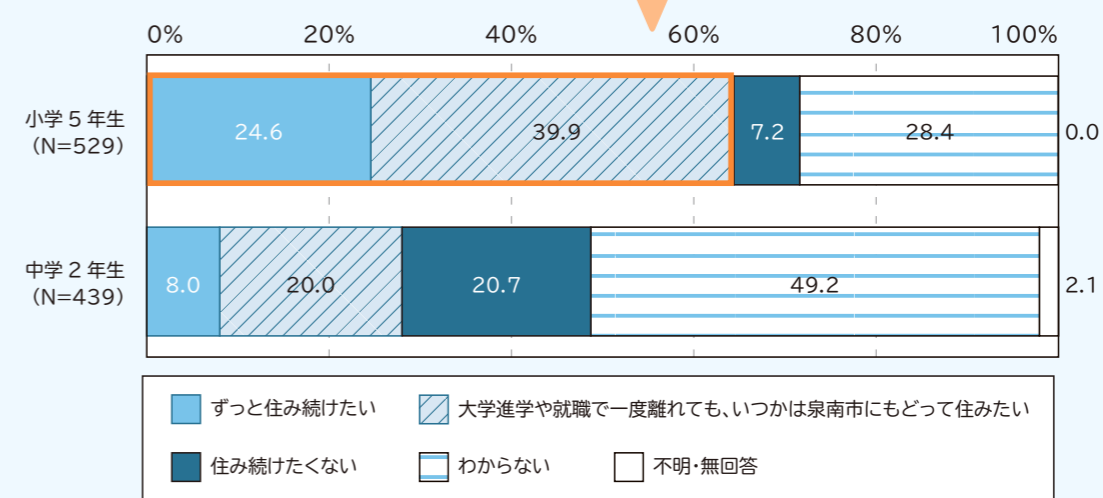
『住み続けたい（「ずっと住み続けたい」と「できれば済み続けたい」の合計）』は64.4%と10年前よりも2.5ポイント増加



■泉南市への定住意向 小中学生

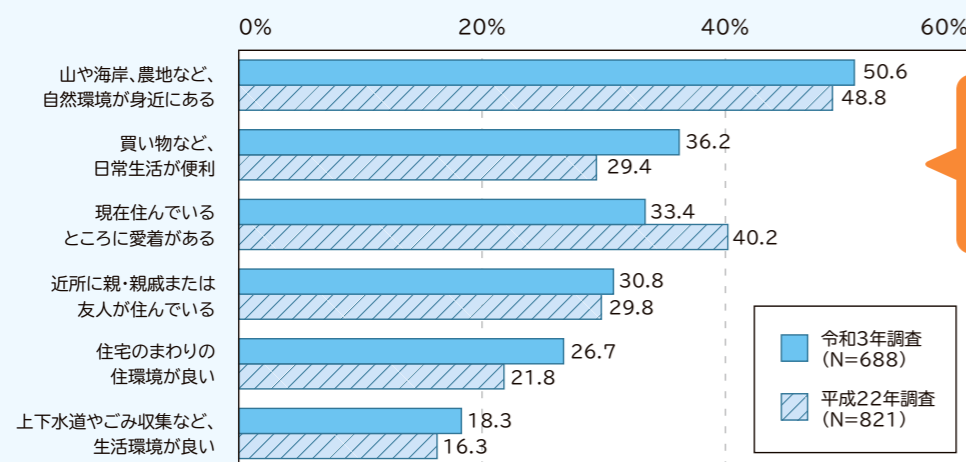
小中学生

小学生では『住み（続け）たい』が64.5%と大人と同程度だが、中学生では28.0%と顕著に低い



■住み続けたい理由の上位項目 市民

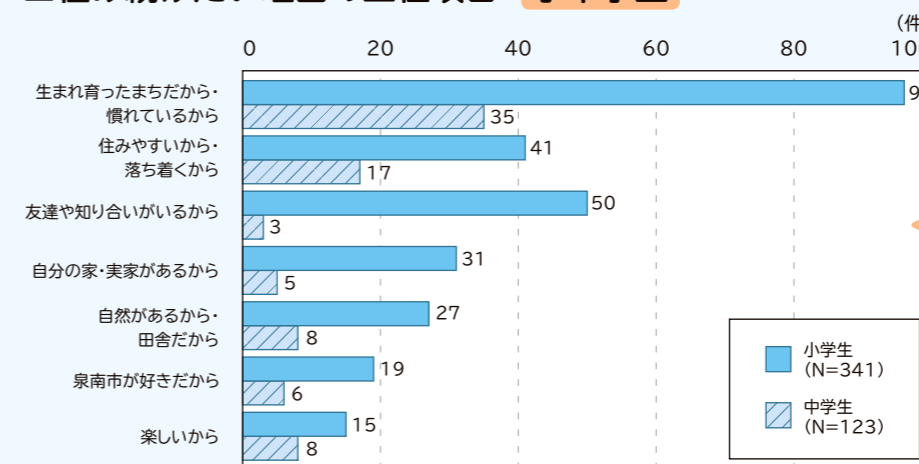
市民



自然環境や日常生活の便利さ、住んでいる地域への愛着の割合が高い

■住み続けたい理由の上位項目 小中学生

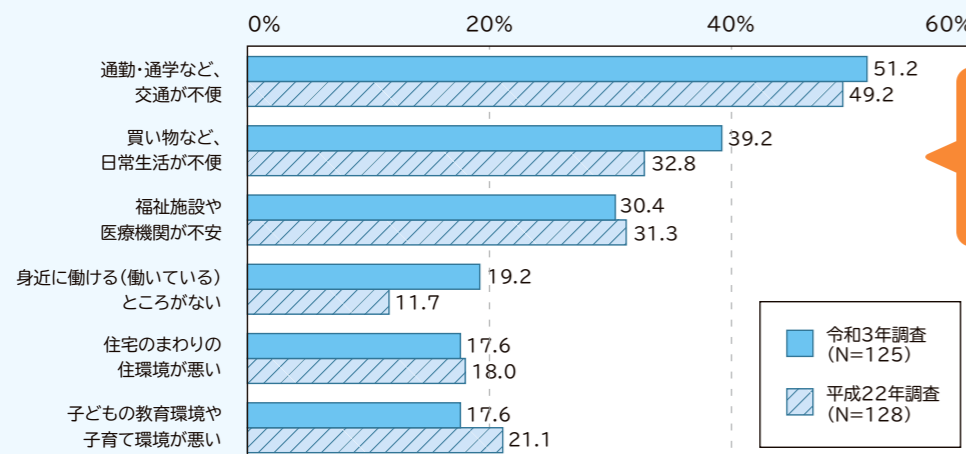
小中学生



小学生では生まれ育ったまちへの愛着や、人間関係から住み続けたいとの回答が多い

■住み続けたくない理由の上位項目 市民

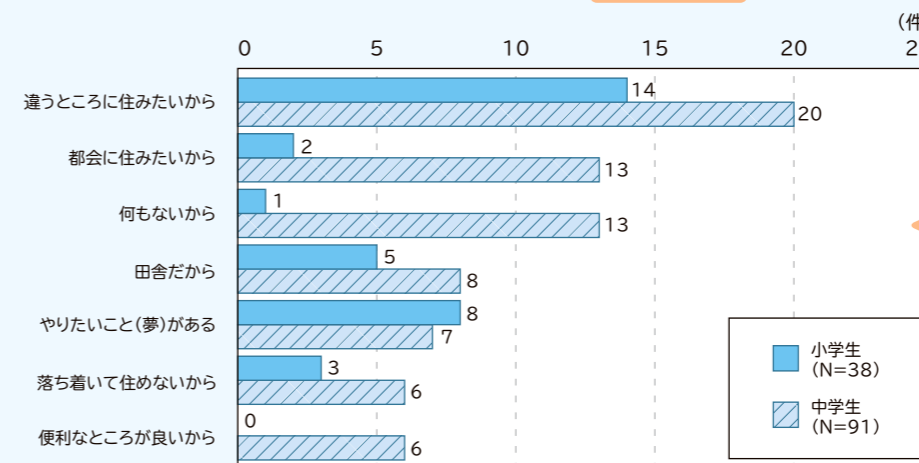
市民



交通や買い物、福祉・医療などへの不満や不安の割合が高い

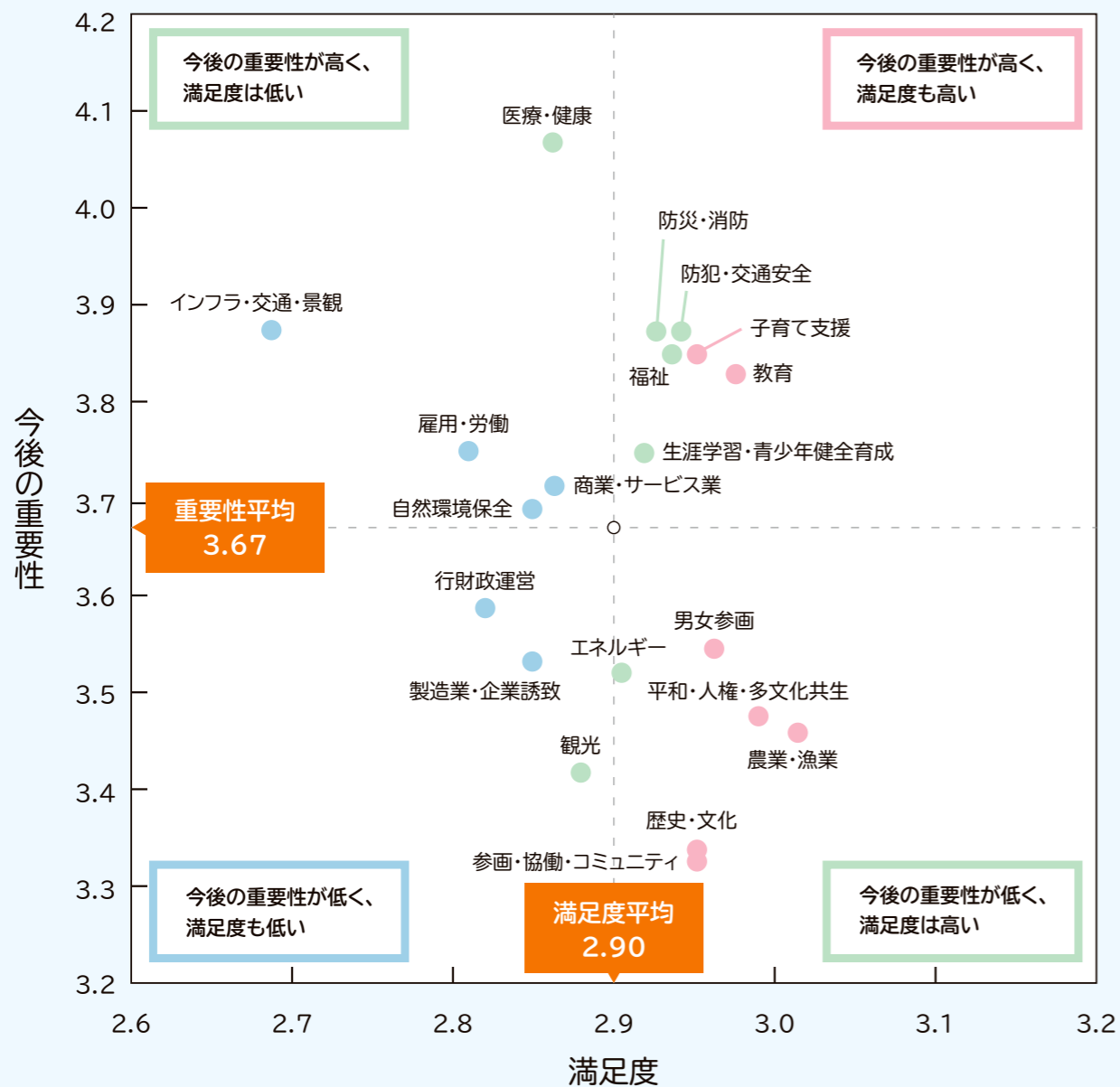
■住み続けたくない理由の上位項目 小中学生

小中学生



中学生では都会や便利な暮らしへの憧れから、住み続けたくないとの回答が多い

■施策の満足度・重要性の相対的な位置づけ



(満足度について「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の回答各1件につき、それぞれ5点・4点・3点・2点・1点とし、件数との積を求め、これらを総件数で割った加重平均点数を算出。重要性について「重要」「やや重要」「普通」「あまり重要でない」「重要でない」の回答各1件につき、それぞれ5点・4点・3点・2点・1点とし、件数との積を求め、これらを総件数で割った加重平均点数を算出。)

■施策の満足度の相対的な位置づけの変化

	平成 22 年調査 (全 45 項目)	令和 3 年調査 (全 20 項目)
上位項目	<ul style="list-style-type: none"> ○消防・救急体制の充実 ○広報・広聴の充実 ○生涯スポーツの振興 ○水産業の振興 ○歴史的資産の保全と活用 ○環境問題への取り組み ○防犯対策の充実 ○人権尊重社会の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○水・緑の保全と活用 ○地域福祉の推進 ○公共交通機関の整備と交通安全対策 ○男女共同参画社会の実現 ○ボランティア団体・NPOとの協働 ○障害者福祉の充実 ○多文化共生社会の実現
中位項目	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援の充実 ○情報基盤の整備 ○農林業の振興 ○青少年健全育成の推進 ○生涯学習推進体制の充実 ○防災体制の強化 ○都市景観の創出 ○市民文化活動の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費生活の充実 ○高齢者福祉の充実 ○保健・医療の充実 ○公園・緑地の整備 ○国際交流等の推進 ○市民参加の推進 ○観光・レクリエーションの振興
下位項目	<ul style="list-style-type: none"> ○商業の振興 ○生活保護制度の適切な運用 ○行政運営の活性化 ○広域行政の推進 ○良好な住環境の整備 ○河川・上下水道の整備 ○保険・年金の充実 ○工業の振興 ○市街地の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり ○労働生活の充実 ○道路の整備 ○健全な財政運営 ○幼児教育・義務教育の充実 ○広域交流軸の形成と拠点地区の整備

※平成 22 年調査と令和 3 年調査では、設問項目を整理しているため、全項目を上位・中位・下位に区分して、関連が深いと思われる項目の位置づけの移動に着目して比較している。

市民意識からみる現状・第5次総合計画の総括

《定住意向について》

- 泉南市は『住みよい』と回答した人は67.1%と10年前と比べ多くなっている。
- 市民の『住み続けたい』理由は、自然環境や日常生活の便利さに関する項目が多く、特に（堺阪南線より）海側の地域に住んでいる人では買い物などの便利さを感じている人が多い。
- 市民の『住み続けたくない』理由は、交通や買い物、福祉・医療施設の利用などの利便性に関する項目が多く、特に（国道26号より）山側の地域に住んでいる人では買い物などに不便を感じている人が多い。
- 小学生ではまちへの愛着から『住み続けたい』が多いのと比べ、中学生の『住み続けたい』が顕著に低く、その理由をみると、都会や便利な暮らしへの憧れがうかがえる。



日常の移動や買い物、通院など、生活利便性の確保が定住意向に与える影響が大きくなっており、安心して住み続けられる環境づくりが必要
泉南市に対する誇りや愛着の醸成による、将来的な流出抑制、Uターン促進が必要

《施策満足度が高い項目について》

- 10年前と比較して、「教育」「参画・協働・コミュニティ」「子育て支援」について、満足度の相対的な順位が向上している。
- 子育て支援事業の充実や、教員の指導力向上や教育施設の保全、登下校の見守りなど安心して教育を受けられる環境づくりなど、子育て・教育への取組の成果がうかがえる。
- 市民が主体的に参画するまちづくりに向け、行政情報の周知や、各種イベント・講座の開催など、市民協働のきっかけづくりとなる取組の成果がうかがえる。



特に若年層が住み続けたいまちとなるため、子育て・教育の充実を図る取組のさらなる強化が必要
市民協働に関する取組が地域に定着しつつあり、参画の場の確保だけでなく、市民公益団体等の主体的な取組への推進が必要

- 10年前と比較して、「農業・漁業」「平和・人権・多文化共生」「男女参画」「歴史・文化」について、満足度の相対的な順位が高いまま推移している。



特産品や歴史・文化資源の有効活用や、若い世代を含めた人権意識の浸透や、地域における男女参画・女性活躍などに取り組むことが必要

《施策満足度が低い項目について》

- 10年前と比較して、「福祉」「防犯・交通安全」「防災・消防」「エネルギー」「自然環境保全」について、満足度の相対的な順位が低下している。
- 高齢化の進行により、保健・医療・福祉に関するニーズが高まっていることがうかがえる。
- 大規模自然災害の発生や犯罪や交通事故への不安など、安全・安心を求めるニーズが高まっていることがうかがえる。
- SDGsや脱炭素社会などの国際的な動向を踏まえ、地球にやさしい暮らし方を求めるニーズが高まっていることがうかがえる。



医療や福祉サービスの充実を図るとともに、地域の支え合い、助け合いにより誰もが自立した生活を継続できる地域共生社会づくりの推進が必要
ハード、ソフト両面から、災害に強い安全・安心なまちづくりや犯罪や交通事故の発生を未然に防ぐ地域づくりが必要
市民が大切にしている良好な自然環境の保全や、市民生活や企業活動を通じたエネルギー対策が必要

- 10年前と比較して、「商業・サービス業」「製造業・企業誘致」「雇用・労働」「インフラ・交通・景観」「行財政運営」について、満足度の相対的な順位が低いまま推移しており、『住み続けたくない』理由とも共通している。



多様な働く場の確保、安定的な行財政運営に取り組むことが必要



②市民ワークショップ結果概要

市民（16名）と市職員（18名）が参加した「まちづくりワークショップ」では、まちづくり分野ごと5つのグループに分かれ、これからの泉南市のまちづくりについて話し合いました。（市民は市民意識調査回答者のうちワークショップ参加希望者から選出。）

■市民の想い、意見



■グループごとに検討した目指す姿

グループ	目指す姿
産業グループ (農業、漁業、商工業、雇用等)	自然と産業の共存
福祉・健康グループ (高齢者福祉、障害福祉・子育て、地域福祉、保健・医療等)	枠を越えた 人と人との交流
住環境・教育・歴史グループ (学校教育、生涯学習、スポーツ、歴史・文化、都市整備、移住・定住等)	人が育ち、住みつづけたいまち
防災・防犯グループ (防災・防犯、消防・救急、消費生活等)	地域力をいかした安全安心な町づくり 共に守ろう！ずっと住み続けたいまち、せんなん！
観光・自然環境グループ (観光、自然環境等)	市民全体で仕掛ける観光まちづくり



③せんなん子ども会議結果概要

『泉南市子どもの権利に関する条例』の第5条で定められた、子どもたち（小学4年生～18歳）が集まるせんなん子ども会議では、10年後の泉南市を想像しながら、子どもたちが主体的に話し合い、「未来新聞」を作成しました。

■子どもたちの想い、意見

理想の泉南市

みんなに幸せがある泉南市

みんなが楽しくすごせる泉南市

みんなが仲良くなれる泉南市

地震や災害があったときに同時に知らせてほしい

安心・安全のこと

火事を少なくしてほしい

横断歩道があるところに信号をつけてほしい

楽しいところをいくつもつくってほしい

コロナがなくなって幸せのある世界に

みんな元気・笑顔がみせられる泉南市

今の平和が続いてほしい

東小学校のような自然豊かな学校を増やしてほしい

学び・遊びのこと

大きい公園を増やしてほしい

■子どもたちが描いた泉南市の未来の姿

- 先端技術を活用したロボット等が生活に浸透し、より便利で快適に、犯罪や交通事故の危険性も少なく安全なまちになっている。
- バリアフリー化や各種支援制度充実により、子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず誰一人取り残さない社会が実現している。
- カーボンニュートラル実現や再生可能エネルギー導入等、環境に配慮した暮らし方が浸透し、身近に緑を感じられ、自然と共に暮らせるまちとなっている。
- 子どもと地域のつながり、人と人との交流等、ぬくもりある人間関係が構築された地域コミュニティが形成されている。
- 身近な買い物場所（方法）が確保され、多様なレジャーや交流を市内外で楽しむことができるなど、みんなが幸せを感じられるまちとなっている。
- まちづくりには子どもをはじめ市民が関わり、遊び場や憩いの場がデザインされるなど、市民協働・公民連携が進んでいる。
- 子どもの安全、健やかに育つ環境が確保され、希望する仕事を見つけたり、可能性を高めるサポートが充実し、活躍する人材が育つ環境となっている。



第 2 部 基本構想

第2部 基本構想

1 まちづくりの視点

本市のこれからのまちづくりを効果的に進めるため、次の3つの視点を持って取り組みます。

視点1

みんなでつくり、共に進めるまちづくり

《市民協働、公民連携等》

まちづくりは行政のみが担うものではありません。市民や企業の主体的な参画のもとに地域課題を解決し、地域をより暮らしやすく、住み続けたいと思えるまちづくりが必要です。これまでも多様な市民活動や民間による開発などにより、いまの泉南市が形成されてきました。

泉南市に関わるすべての人びとが、それぞれの役割と責務を認識・尊重することで、あらゆる機会を通じて市民協働や企業など民間との公民連携が行われる「みんなでつくり、共に進めるまちづくり」を展開していきます。



視点2

地域資源の力を引き出すまちづくり

《人、自然、歴史、文化、産業、観光等》

これまでの泉南市の発展や成長には、関西国際空港やりんくうタウンの整備、住宅団地の開発などが貢献してきました。人口が減少に転じている中で、まちの活力を維持していくためには、これまでの成果を活用しながら、あらためて自らの有形無形の財産や特徴を見つめなおし、独自の魅力として磨きあげていくことが重要です。

泉南市に住む人・働く人・学ぶ人などの「人財」をはじめ、自然・風土、歴史・文化、産業、観光など、足元の地域資源の力を見極め、これらを有機的に結びつけながら、「地域資源の力を引き出すまちづくり」を展開していきます。



視点3

新しい時代を見据えたまちづくり

《ポストコロナ、DX、SDGs、脱炭素等》

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動や個人の行動・価値観が変容し、テレワークやオンライン授業など、あらゆる場面でデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速するなど、先端技術の活用が進んでいます。泉南市においてもこうした機運を捉え、官民共に効率的・効果的なまちづくりにつなげる必要があります。また、地球環境への配慮は国際社会共通の責務となっており、海・山の自然に恵まれた泉南市においても、先人から受け継がれてきた大切な資源を守り、いかすため、身近な暮らし方から改善を図っていく必要があります。

ポストコロナ社会への対応や、DXの推進による生活利便性や産業における生産性の向上、SDGsや脱炭素の実現に向けた取組など、「新しい時代を見据えたまちづくり」による、持続可能な地域社会の構築を展開していきます。



2 目指すべき将来像

(1) まちづくりの軸

市民や企業、関係機関、行政等まちづくりの担い手が共有できるまちづくりの軸と本市が目指すべき10年後の将来像を次の通り設定します。



これからの泉南市が 目指すまちづくりの軸

人口減少・少子高齢化が進む中で、これからのまちづくりにおいては、人口増加を目指すことを前提とした取組は効果的とは言えません。そのため、住んでいる人の幸せを最大限に高めるとともに、時代に合わせた改革で次代に引き継ぐことができる強くしなやかなまちづくりを念頭に置き、コンパクトシティ化や学校再編、公共施設の削減等、人口構造に合わせたまちづくりや、公民連携や先端技術の活用等、時流に即したまちづくりを進めることで、市民の暮らしの満足度が高い、「住み続けたい」と思えるまちを目指します。

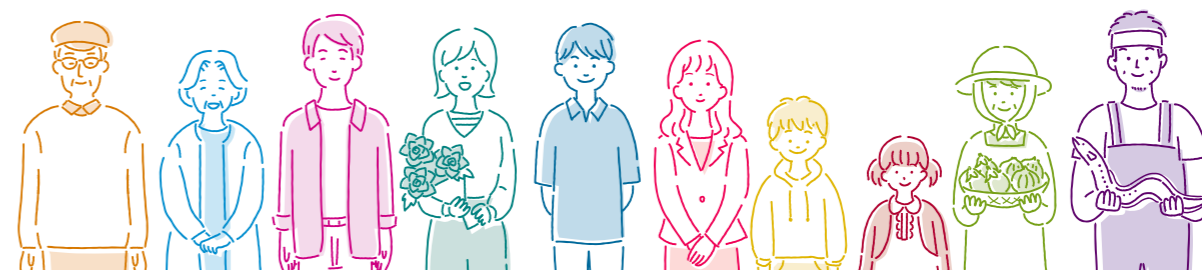
また、関西国際空港のゲートウェイという立地をいかし、企業誘致や投資を促進するなど経済活動の好循環の実現を目指すとともに、泉南市の魅力を積極的に市内外に発信していくことで、持続可能なまちを目指します。



(2) 10年後の将来像



かんじる つながる ひろがる
住人十色のまち せんなん



第6次泉南市総合計画では、本市に関わるすべての人がそれぞれにとっての幸せをみつけられるような、笑顔あふれるまちづくりを進めます。

「こんなところがあったんや」、「こんなことやってるんや」、「こんな人がいてるんや」=「ちよっとええやん なかなかええやん」と気づき、感じることで「泉南市っていいまちかも」というまちへの親しみや希望が生まれます。そして、本市を愛する人が集い、つながることで、また新たな「ええやん」が生まれます。

そんな「ええやん」がまちじゅうにあふれ、さらにひろがってほしい。市民や訪れた人が「ええやん」と感じる本市の海、山等の自然からの恵みや、人のやさしさやぬくもり、さらには新たな魅力を創出し、磨きあげることで、誰もが自分にとっての幸せを選べるまちにしたい。

10年後、20年後には「めっちゃええやん」と自信を持って言えるまちになることを目指し、本計画における将来像を「ちよっとええやん なかなかええやん ～かんじる つながる ひろがる 住人十色のまち せんなん～」とします。

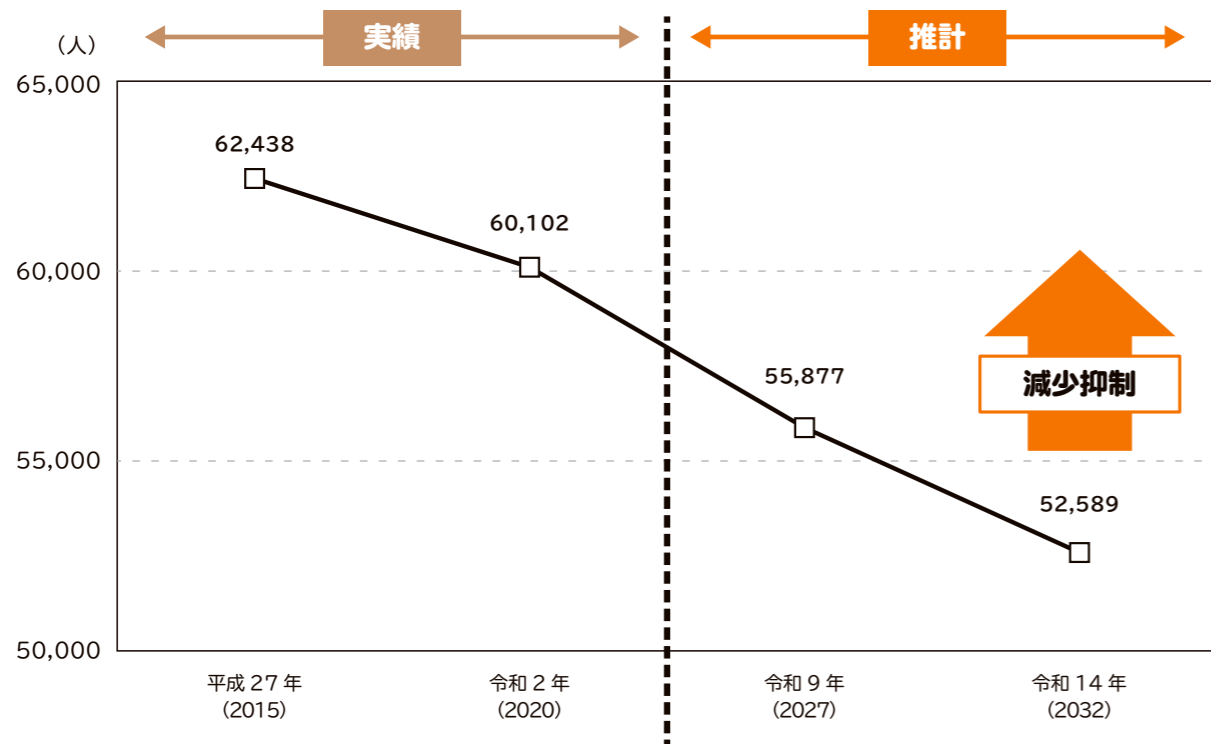
(3) 人口フレーム

まちの活力や規模を表す基本となる人口フレームについて、次の通り設定します。

定住人口の見通し

人口減少、少子高齢化が続く中、本計画の最終年度となる令和 14（2032）年の総人口は約 5.26 万人となることが推計されています。

本計画に基づく取組の推進により、出生率の向上や若年層の転出超過を改善することで、できるかぎり人口減少を緩やかにしていくとともに、人口が減少したとしても、誰もが住み慣れた地域での生活を継続できるまちづくりに取り組みます。



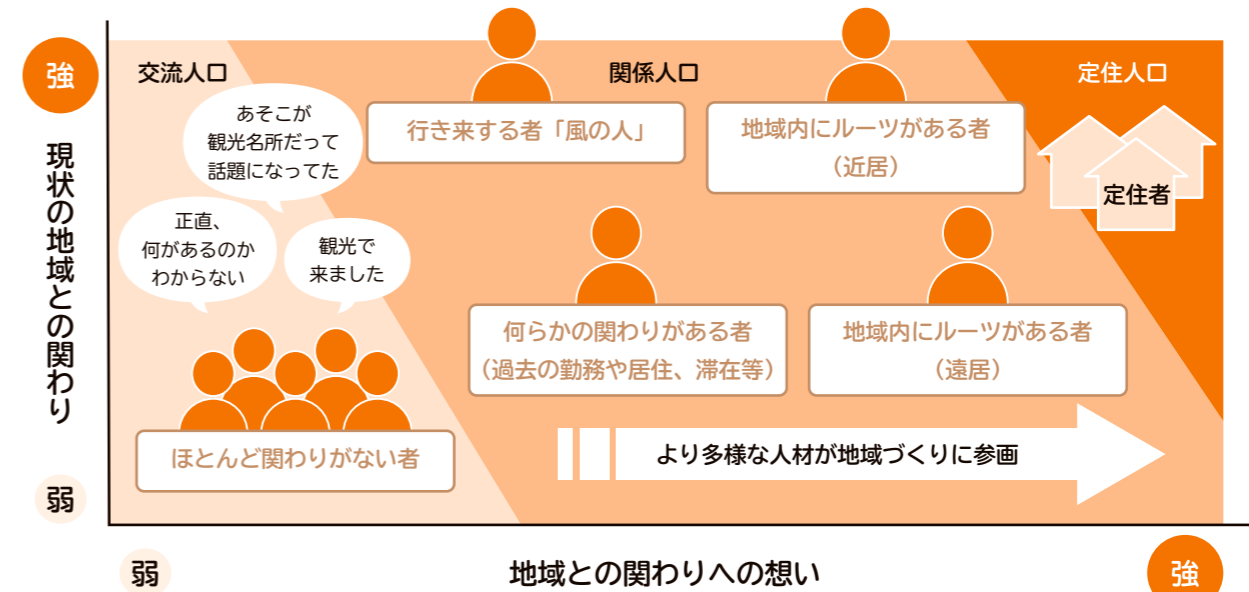
資料：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 30（2018）年推計）より算出

交流人口・関係人口から定住人口へ

① 交流人口・関係人口の考え方

「交流人口」は通勤・通学や観光による来訪者のことであり、「関係人口」は市外に住む出身者や本市のまちづくりに協働・賛同する人、市内で活動する人等、地域と多様に関わる人びとのことです。人口減少が進む本市においても担い手不足を補い、まちづくりに変化を生み出す地域外の人材として期待されます。

交流人口・関係人口・定住人口の関係イメージ



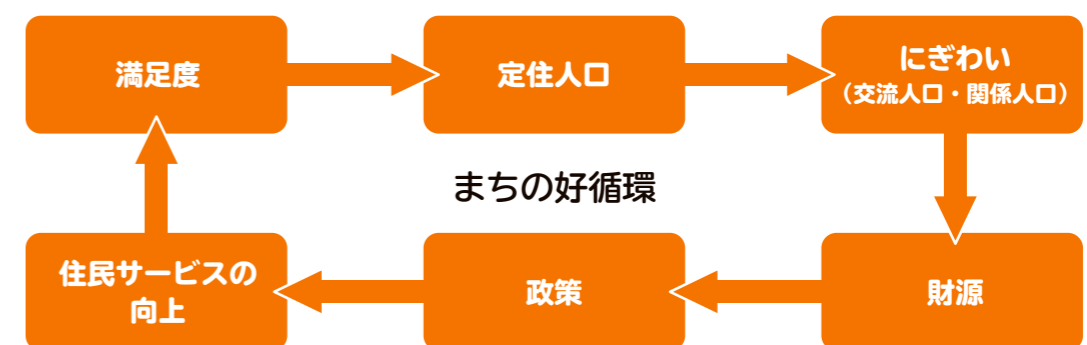
資料：総務省『関係人口ポータルサイト』

② まちの好循環の創出

本市では、将来的な定住人口の減少が避けられない状況が見込まれており、まちの活力が失われてしまうことが懸念されます。そのため、できるかぎり人口減少のスピードを緩め、定住人口を維持していく取組が必要です。

産業やレジャー等まちの魅力を高め、交流人口・関係人口を増やすことでにぎわいの創出につなげ、財源を確保します。さらにその財源を活用し、必要な政策を実施することで住民サービスを向上し、住んでいる人の満足度を高め、定住人口を維持することを目指します。

人口フレームからのまちの好循環のイメージ



(4) まちの構造

目指すべき将来像を実現するためのまちの構造のあり方について、次の通り設定します。

将来都市構造

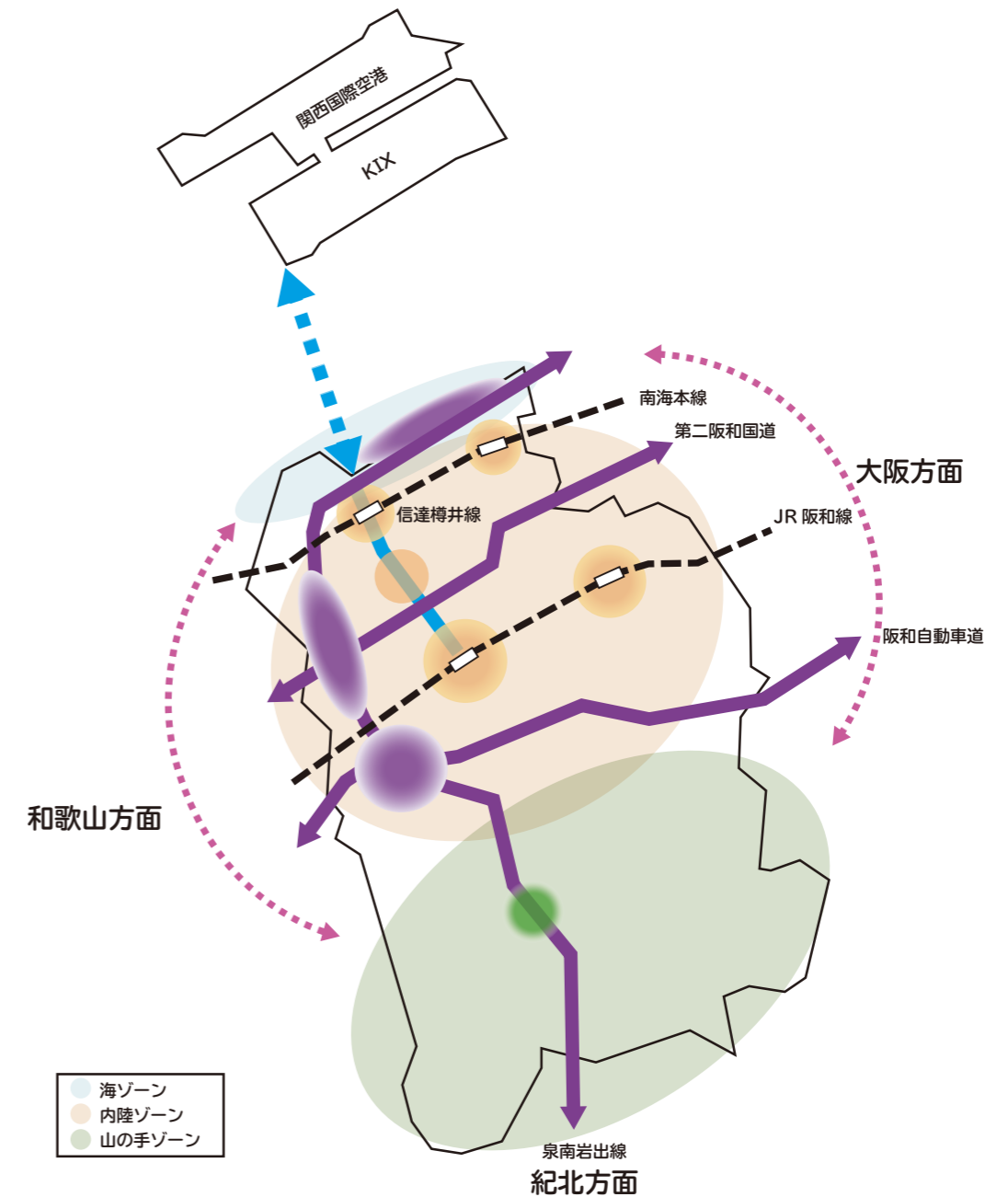
連携型集約都市 ～「住まう・楽しむ・働く」～

■ 都市近郊の農地や歴史的資源等、地域の資源を保全・活用しながら、4つの鉄道駅や市役所周辺を核として公共施設等の適正化を図り、都市機能や居住を誘導するとともに、自然環境と多様な都市機能が調和した土地利用により、利便性の高いコンパクトな都市構造を形成します。また、山麓部においては、将来にわたり持続的に集落で生活できるよう小さな拠点を形成することにより、公民連携を活用した持続可能な連携型集約都市「住まう・楽しむ・働く」の実現を目指します。

■ 都市核・拠点を結ぶ中心都市軸により、りんくうタウンや関西国際空港といった臨海部と山麓部の連携・交流を図ることで、まち全体を循環させ、市域全体ににぎわいを創出し、さらには、第二阪和国道（国道26号）、泉佐野岩出線や阪和自動車道といった広域交流軸により、人との大きな流れを呼び込むための取組を推進することで、広域的な結節点としての発展を推進します。



将来都市構造図（イメージ）



まちの構造

連携型集約都市 ～「住まう・楽しむ・働く」～

- | | | |
|--|------------|--|
| | ● 中心都市軸 | 海・山アクセス 都市核・拠点を結ぶ市の骨格 |
| | ● 広域交流軸 | 都市間アクセス（広域的結節点の発展）
道路沿道（IC周辺を含む）の土地利用の適切な誘導 |
| | ● まち全体の循環 | 臨海部と山麓部の交流ループ（地域活性化） |
| | ● コンパクトシティ | 都市機能及び居住の誘導 |
| | ● 小さな拠点 | 集落生活圏の維持 |
| | ● 公民連携 | 民間活力導入によるまちづくり（公共施設再編等） |

3 まちづくりの方向

まちづくりの分野別の取組の方向となる分野別政策と、分野別のまちづくりを的確に、より効果的に進めるための全体に関わる総合的政策を位置づけます。

分野別政策 1

『ひと』を育てる・輝かせる

- 性別や年齢、国籍等を問わず、誰もが個性と能力を発揮しながら、共に暮らし、活躍できる人権尊重・平和・多文化共生のまちづくりを推進します。
- あらゆる分野で男女平等参画の理念に基づく取組を進め、家庭や職場、地域における理解を浸透するとともに、男女共に活躍できる地域社会づくりを推進します。
- 子どもの健やかな成長と子育て家庭を支えるため、安心して子育てできる環境づくりとともに、就学前における教育・保育環境の充実に取り組みます。
- 子どもが、確かな学力とたくましく生きる力を身につけられるよう、家庭、地域、学校、行政が連携した地域ぐるみの学校づくりに取り組むとともに、生まれ育った地域に愛着、誇りを持つ子どもの育成に取り組みます。
- 生涯学習の充実や子どもから高齢者まで誰もがスポーツに親しむことができる環境づくり、家庭や地域の見守りや支援を通じた青少年の健全な成長を促進し、市民の生きがいや健康づくりにつなげるとともに、学びや活動の成果をまちづくりに還元できる人材育成や仕組づくりを推進します。
- 歴史・文化をいかしたまちづくりを通じ、文化の質が高い地域づくりを行い、ふるさとや地域への愛着、誇りを持つことができる市民の育成に取り組みます。



関連する施策

- | | | | |
|------|---------------|------|-------------------|
| 施策 1 | 人権尊重・平和・多文化共生 | 施策 4 | 就学前教育・学校教育 |
| 施策 2 | 男女平等参画・女性活躍 | 施策 5 | 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成 |
| 施策 3 | 子育て支援 | 施策 6 | 歴史・文化 |

分野別政策 2

『しごと』を生み出す・にぎわいを創出する

- 地産地消や地域ブランドの推進、6次産業化[※]等による新たな商品やビジネスの創出に向けた仕組の構築等、農業・漁業の振興に取り組みます。
- 広域的な交通アクセス等の立地をいかした企業誘致や市内事業者への支援の充実により、商工業の振興に取り組みます。
- 豊かな海・山等の自然や歴史文化を地域資源として活用した泉南市ならではの観光サービスや商品開発等を通じ、関係人口・交流人口の拡大に取り組みます。
- 農業・漁業、商工業、観光の振興により、雇用の場の充実に取り組みます。

関連する施策

- | | | | |
|------|-------|-------|----|
| 施策 7 | 農業・漁業 | 施策 9 | 観光 |
| 施策 8 | 商工業 | 施策 10 | 雇用 |

分野別政策 3

『くらし』を守る・快適にする

- 今後発生が懸念される大規模地震や津波、豪雨等の自然災害に対し、防災・危機管理体制の充実や地域における防災力の向上に取り組みます。
- 多様化・凶悪化する犯罪や消費者トラブル、交通事故等から一人ひとりの生命と暮らしを守るため、市民、地域、行政の連携による安全・安心なまちづくりを推進します。
- 本市の豊かな自然を守りながら、「2050年のカーボンニュートラル」を視野に入れた地球温暖化対策やエネルギー対策、ごみの減量化等、環境負荷の少ない循環型社会の構築に取り組みます。
- 市民生活に身近な道路の計画的な整備や、地域の特性に合った公共交通の維持・発展に取り組みます。
- 下水道等、生活基盤の強靱化や維持管理を計画的・効率的に進め、利便性が高い住まいの環境整備に取り組みます。

関連する施策

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 施策 11 | 防災 | 施策 14 | 道路・交通 |
| 施策 12 | 防犯・交通安全・消費者トラブル対策 | 施策 15 | 下水道・生活環境・住まい |
| 施策 13 | 環境保全・脱炭素・エネルギー | | |

※6次産業化：第1次産業としての農林漁業と第2次産業としての製造業、第3次産業としての小売業等を総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組

分野別政策 4

『健幸』を築く・つながりをひろげる

- 保健・医療・福祉の連携の推進等により、市民が健康増進に主体的に取り組めるよう支援を行い、生活習慣病やがん等の予防や早期発見ができ、医療が受けられる医療体制の充実に取り組みます。
- 生活困窮者に対する支援や、高齢者、障害のある人への生活支援・福祉サービス等、支援を必要とする人が適切なサービスや制度を利用できる体制づくりに取り組みます。
- 市民が生涯を通じて健やかに暮らすことができ、支援が必要になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、地域包括ケアシステムの充実等による地域共生社会の実現に取り組みます。
- 障害のある人やその家族が、地域の中で安心して生活を送ることができるよう、ユニバーサルデザインによるまちづくりや就労支援等の充実に取り組みます。



関連する施策

施策 16 医療・健康

施策 18 高齢者福祉

施策 17 地域福祉・困窮者対策

施策 19 障害福祉



総合的政策

『しくみ』をつくる・運営する

- 地域コミュニティ機能の低下や市民ニーズの多様化・高度化が進んでおり、個人の努力や行政だけの取組ではなく、あらゆる分野で市民、地域、事業者（企業）、団体等、多様な主体と行政の協働によるまちづくりを推進します。
- 市内外の人々が定住したいと思える魅力を高めるとともに、市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）等を醸成し、効果的に発信することで「選ばれるまち」としてのシティプロモーションの充実に取り組みます。
- 先端技術をまちづくりに取り入れながら、デジタル人材の育成・確保や、デジタルトランスフォーメーション（DX）を進め、誰もが暮らしやすく、便利で安全・安心なデジタル社会の実現に取り組みます。
- 安定的な財源確保や、効率的・効果的な行財政運営に努めるとともに、近隣市町との連携を検討しながら、行政の広域化に取り組みます。



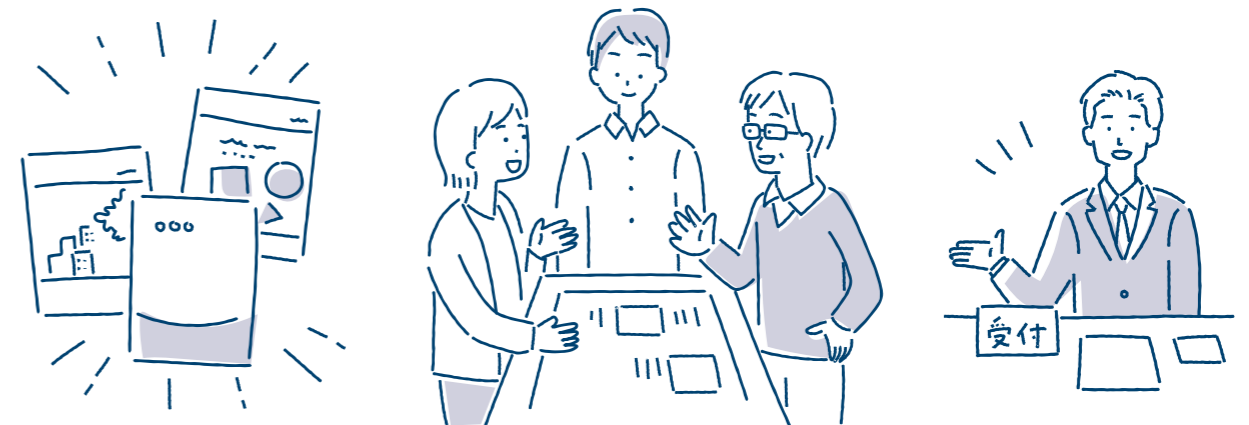
関連する施策

施策 20 協働・コミュニティ

施策 22 情報政策（DX）

施策 21 シティプロモーション

施策 23 行財政運営



計画の全体構成



第3部 基本計画

基本計画の見方

目指すまちの姿

この施策を通じて目指す10年後の姿です。

施策に関する成果指標

目指すまちの姿の実現のために達成すべき目標です。

施策に関する主な取組状況・背景

この施策に関する泉南市の現状です。

施策に関する主な課題

目指すまちの姿の実現に向けて解決すべき泉南市の課題です。

施策
1

分野別政策1 「ひと」を育てる・輝かせる

人権尊重・平和・多文化共生

目指すまちの姿
誰もがかけがえのない存在として、
一人ひとりの人権を尊重し合うことができるまち

性別や年齢、国籍等を問わず、市民一人ひとりがそれぞれの個性と能力を発揮しながら、お互いを認め合い、共に暮らすことができ、活躍することができる人権尊重・平和・多文化共生のまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

人権問題に関して理解が深まった人の割合（年平均）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 社会情勢等の変化により性別、子ども、高齢者、障害者、外国人、部落問題等、人権課題が多様化しています。
- 法律や条例、各種計画に基づき、行政と市民の協働による人権尊重のまちづくりに向けた取組を行っています。
- 「戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」を市民と共に考える、平和に関する様々な事業を展開しています。
- 総人口に対する外国人住民の割合が上昇しており、今後のさらなる外国人住民の増加が見込まれます。

施策に関する主な課題

- 多様化する人権課題に対する市民の人権意識の高揚やインターネット上の人権問題等、新たな課題への対策の強化が必要です。
- 世界では戦争が起こっている中、日本では戦争体験者やその遺族が減少しており、戦争を知らない世代への啓発を行うことで恒久平和の理念を継承していく必要があります。
- 国際化への意識啓発や外国人住民が地域住民との交流や生活文化の違いに対応するための支援が必要です。

関連する市民の意見・アイデア

誰もが個人を尊重することができる意識を育てるような学びの場があればいいなあ

50



基本計画 分野別施策1 「ひと」を育てる・輝かせる

関連するSDGs



実施する主な取組

- ①人権尊重の推進**
 - ◇市民や企業に対する人権に関する啓発活動の実施や、指導者の養成、情報収集・提供の充実を推進します。
 - ◇人権に関わる相談窓口や人権教育・保護に係る仕組の充実や、関係機関との連携強化を図ります。
 - ◇児童生徒が人権の意義や内容、重要性を理解できるよう、教職員への研修等を通じた人権教育・人権保育の向上を図ります。
 - ◇「泉南市子どもの権利に関する条例」に基づき、関係機関の連携による子どもの権利擁護をはじめとした施策や虐待防止等の取組を推進します。
- ②恒久平和の理念の継承**
 - ◇非核平和の集い・8月の非核平和月間等、市民に対する恒久平和の理念の啓発を行います。
 - ◇戦争の惨禍や悲惨さを伝えることにより、戦争を知らない世代へ生命の大切さや平和の尊さを学ぶ機会を提供します。
- ③多文化共生の推進**
 - ◇市役所や公共施設における外国人相談窓口の充実や、外国人住民の地域活動参加促進のための多言語による情報提供を行います。
 - ◇国際交流組織の育成・支援や外国人留学生のホームステイ促進等、国際交流に関わる取組の充実を図ります。
 - ◇国際化への意識啓発や国際理解教育を推進します。

関連する主な個別計画

- ◇泉南市人権行政基本方針
- ◇泉南市人権行政推進プラン
- ◇泉南市人権教育基本方針
- ◇泉南市人権教育推進プラン

関連するSDGs

この施策と関連するSDGsの目標を示しています。

実施する主な取組

この施策で取り組んでいく具体的な取組です。

関連する主な個別計画

この施策に関連する行政の個別計画です。

関連する市民の意見・アイデア

ワークショップやアンケートからのこの施策に関する市民の意見やアイデアをまとめたものです。

51

施策
1

分野別政策1 『ひと』を育てる・輝かせる

人権尊重・平和・多文化共生

目指すまちの姿

誰もがかけがえのない存在として、
一人ひとりの人権を尊重し合うことができるまち

性別や年齢、国籍等を問わず、市民一人ひとりがそれぞれの個性と能力を発揮しながら、お互いを認め合い、共に暮らすことができ、活躍することができる人権尊重・平和・多文化共生のまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

人権問題に関して理解が深まった人の割合（年平均）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

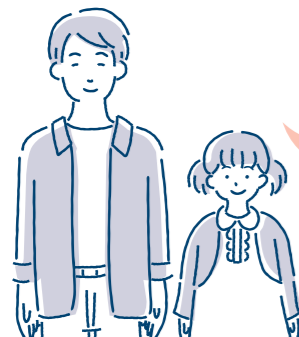
- 社会情勢等の変化により性別、子ども、高齢者、障害者、外国人、部落問題等、人権課題が多様化しています。
- 法律や条例、各種計画に基づき、行政と市民の協働による人権尊重のまちづくりに向けた取組を行っています。
- 「戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」を市民と共に考える、平和に関する様々な事業を展開しています。
- 総人口に対する外国人住民の割合が上昇しており、今後のさらなる外国人住民の増加が見込まれます。

施策に関する主な課題

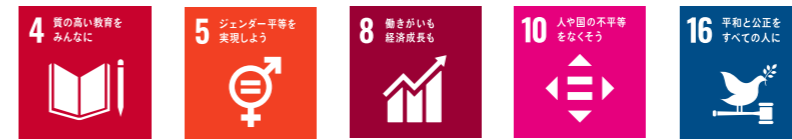
- 多様化する人権課題に対する市民の人権意識の高揚やインターネット上の人権問題等、新たな課題への対策の強化が必要です。
- 世界では戦争が起こっている中、日本では戦争体験者やその遺族が減少しており、戦争を知らない世代への啓発を行うことで恒久平和の理念を継承していくことが必要です。
- 国際化への意識啓発や外国人住民が地域住民との交流や生活文化の違いに対応するための支援が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

誰もが個人を尊重することができる意識を育てるような
学びの場があればいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①人権尊重の推進

- ◇市民や企業に対する人権に関する啓発活動の実施や、指導者の養成、情報収集・提供の充実を推進します。
- ◇人権に関わる相談窓口や人権救済・保護に係る仕組の充実や、関係機関との連携強化を図ります。
- ◇児童生徒が人権の意義や内容、重要性を理解できるよう、教職員への研修等を通じた人権教育・人権保育の向上を図ります。
- ◇「泉南市子どもの権利に関する条例」に基づき、関係機関の連携による子どもの権利擁護をはじめとした施策や虐待防止等の取組を推進します。

②恒久平和の理念の継承

- ◇非核平和の集い・8月の非核平和月間等、市民に対する恒久平和の理念の啓発を行います。
- ◇戦争の惨禍や悲惨さを伝えることにより、戦争を知らない世代へ生命の大切さや平和の尊さを学ぶ機会を提供します。

③多文化共生の推進

- ◇市役所や公共施設における外国人相談窓口の充実や、外国人住民の地域活動参加促進のための多言語による情報提供を行います。
- ◇国際交流組織の育成・支援や外国人留学生のホームステイ促進等、国際交流に関わる取組の充実を図ります。
- ◇国際化への意識啓発や国際理解教育を推進します。

関連する主な
個別計画

- ◇泉南市人権行政基本方針
- ◇泉南市人権行政推進プラン

- ◇泉南市人権教育基本方針
- ◇泉南市人権教育推進プラン

男女平等参画・女性活躍

目指すまちの姿

誰もが性別等に関わらず、あらゆる分野に参画し、
活躍することができるまち

まちづくりのあらゆる分野で男女平等参画の理念に基づく取組を進めることで、家庭や職場、地域における理解を浸透し、実践につなげるとともに、性別を問わず誰もが活躍できるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

行政委員・審議会委員等における女性登用率

現状値 (令和3年)	34.9%	目標値 (令和14年)	40.0%
---------------	-------	----------------	-------

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

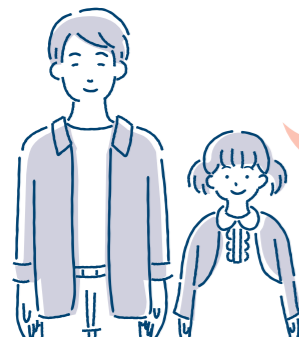
- 男女平等参画に向けた様々な法令に基づく男女平等参画社会の実現に向けた取組を行っています。
- 市職員において、女性職員は育児休業を100%取得していますが、男性職員の取得者が少なくなっています。
- 市職員における女性管理職の割合は13.85%（令和3年4月1日時点）で、国が掲げる「指導的地位に占める女性の割合30%程度」を下回っています。

施策に関する主な課題

- 社会における女性活躍の重要性が高まる中、さらなる男女平等参画推進のための仕組みづくりと市民の意識づくりが必要です。
- 管理職に占める女性割合の向上や、男性の育児休業・介護休業の取得促進等、市役所の率先した取組による市全体への浸透を図ることが必要です。
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現等、誰もがやりがいや充実感を持てるよう、多様な働き方を選択することができる環境づくりが必要です。
- 配偶者等からの暴力（DV）の防止や被害者への支援が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

男女共に気兼ねなく育児休業を取得したり、
多様な働き方が選択できる環境になったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①男女平等参画社会実現に向けた環境づくり

- ◇すべての人が性別に関わらず活躍できる社会を目指すため、男女平等参画に関する啓発活動や教育を推進します。
- ◇あらゆる人が自分らしく暮らすことができる地域社会づくりに向け、性の多様性を尊重する環境づくりを推進します。
- ◇行政委員や審議会委員、市職員における管理職の女性登用を拡大します。

②ワーク・ライフ・バランスの実現

- ◇仕事と子育てや介護等が必要な時期に多様な働き方を選択することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの考え方の普及を促進します。
- ◇泉南市役所における働き方改革や育児休業・介護休業の取得を促進します。

③あらゆる暴力の根絶

- ◇家庭、地域、企業、学校等あらゆる場面における暴力や虐待防止のための啓発を行います。
- ◇暴力や虐待の発生の未然防止や被害者を支援するため、関係機関との連携による相談窓口機能の充実を図ります。

関連する主な
個別計画

- ◇第4次せんなん男女平等参画プラン
- ◇泉南市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画



施策
3

子育て支援

目指すまちの姿

子どもや保護者が社会や地域に見守られ、
子育て環境が充実し、安心して子育てができるまち

子どもの健やかな成長と子育て家庭を支えるため、地域ぐるみで安心して子育てができる環境づくりを行い、就学前における教育・保育環境が充実したまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

この地域で今後も子育てをしていきたいと回答した人の割合



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 本市の年間の出生数は10年前と比較して100人以上減少しており、今後も減少することが見込まれます。
- 核家族化の進行や就労形態の多様化により、本市の認可保育施設利用希望者数は増加傾向となっています。
- ひとり親家庭や外国にルーツを持つ子ども、発達に課題のある子どもや医療的ケア児等、支援を必要とする子ども、家庭が増加しています。
- 各機関における子どもや子育て家庭を支援する機能の強化を図っています。

施策に関する主な課題

- 保育ニーズの多様化に対応し、保育を必要とする人が確実にサービスを受けられる体制づくりが必要です。
- 家庭で協力して子育てを行うことを促進するための啓発が必要です。
- 身近な子育て支援の場所へのアクセスの充実や、わかりやすい情報発信が必要です。
- 児童虐待件数が全国同様増加しており、発生予防に取り組む必要があります。

関連する市民の 意見・アイデア

いつまでも子育てがしやすく、
子どもがのびのびと暮らせるまちであってほしいなあ

関連する SDGs

実施する主な取組

①保育環境の充実

- ◇保育人材の確保や定着、キャリアアップの支援等を行います。
- ◇保育施設と児童発達支援を一体的に行うインクルーシブ保育や、療育支援に係る専門機関との連携を図ります。
- ◇保育施設・保育士等による地域の子育て支援や、保護者に対する助言等により、地域や家庭における保育の充実を図ります。
- ◇子育て関連施設の充実を図ります。

②子育てしやすい環境の整備

- ◇個々の家庭、子どもに寄り添い、それぞれに応じた切れ目のない、継続的な支援を行います。
- ◇就学前の子どもとその保護者の居場所づくりや、ふれあえる機会づくり、子育てに関する情報提供等の充実を図ります。
- ◇身近な子育て支援者の人材発掘、育成、見守りがある地域づくりを行います。
- ◇家庭で協力して子育てを行うための啓発活動を促進します。
- ◇児童虐待の発生を予防するため、面談等を通じ、保護者等への支援を行います。

③子どもと保護者の健康づくりの推進

- ◇妊娠中から出産、子育て期に至るまで、安心を確保できるよう、各機関の機能充実や連携強化、母子の健康管理、発達相談等を行います。
- ◇近隣市町や医師会との連携等による周産期医療や、小児医療の体制の強化を図ります。

関連する主な 個別計画

- ◇健康せんなん 21 (第2次計画)
- ◇第2期泉南市子ども・子育て支援事業計画

就学前教育・学校教育

目指すまちの姿

安全・安心な環境の中で、学力向上に取り組むことができ、
子どもたちの笑顔と健康が守られるまち

子どもが安全に安心して過ごせる教育環境の中で、確かな学力とたくましく生きる力を身につけられるよう、家庭、地域、学校、行政が連携した地域ぐるみの学校づくりに取り組むとともに、生まれ育った地域に愛着、誇りを持ち、明るく元気な子どもが育つまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

幼稚園・学校に行くのが楽しいと思う子どもの割合

現状値 (令和3年)	86.9%	目標値 (令和14年)	90.0%
---------------	-------	----------------	-------

※幼稚園児 98.9%・小学生 84.0%・中学生 77.8%の平均値

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校の連携により、集団での遊びの充実や自他を大切にすることの心の育成を図っています。
- 小中学校間を円滑に接続し、連続性を確保したカリキュラムや生徒指導を行う小中一貫教育を推進しています。
- 多様な学びに対応できる教育環境の整備や、安全・安心な学校給食の提供や食育の推進を図っています。

施策に関する主な課題

- 児童生徒数の減少に伴い、学校の小規模化・単学級化の進行が見込まれるため、学校規模の適正化が必要です。
- 多様な学びやICTの活用等、教育環境の変化に対応することができる教職員の育成が必要です。
- 行政と学校だけでなく、家庭や地域等も含めた教育を取り巻く環境を、地域ぐるみで整備することが必要です。
- 多様化する人権課題について、小中9年間での系統的な学習を行うことが必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

子どもたちが学ぶ中で、
家族以外の人たちとふれあう機会があるといいなあ



実施する主な取組

①就学前教育の充実

- ◇子どもたちが遊びと学びの連続性を確保するため、保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校の連携を推進します。
- ◇グローバル社会に対応し、多様な文化に触れながら豊かな心を育むため、就学前の段階からの国際交流を推進します。

②義務教育の充実

- ◇確かな学力を身につけ豊かな心を育むため、教職員研修の充実等、教職員の資質・能力向上を図ります。
- ◇学力の定着や教育内容の充実を図るため、家庭学習の支援及び小中一貫教育を推進します。
- ◇性別、国籍、障害の有無、生まれた環境等に関わらず自他を尊重できる子どもを育成するため、人権教育や外国語教育等を推進します。
- ◇いじめや不登校、問題行動等の生徒指導上の問題解決に注力するため、教育相談体制と子どもの心のケアの充実を図ります。

③安全・安心な教育環境づくり

- ◇すべての家庭が安心し、育てる喜びを感じることができるようにするための子育て・子育て支援の充実を図ります。
- ◇柔軟で創造的な学びに対応することができる教育環境の整備を図ります。
- ◇保護者や地域との連携による通学路の安全確保や、学校の防犯機能強化、避難訓練の実施等による子どもの安全確保を推進します。
- ◇防災拠点や地域コミュニティ拠点となる機能の付加や学校を核として各主体をつなぐ教育コミュニティ拠点となる開かれた学校づくりを行います。
- ◇子どもの健やかな心身の育成や、食を通じて地域や文化、自然の恵み、勤労の大切さを理解するため、安全・安心な学校給食の提供と食育の推進を図ります。

関連する主な
個別計画

- ◇泉南市教育振興基本計画
- ◇泉南市公共施設等最適化推進実施計画
- ◇泉南市公共施設等個別施設計画
- ◇泉南市立小中学校再編計画
- ◇泉南市人権教育基本方針
- ◇泉南市人権教育推進プラン

生涯学習・スポーツ・ 青少年健全育成

目指すまちの姿

誰もが生涯学習と健康なからだづくりを楽しめる、
心豊かな生活と学びを支えるまち

生涯学習の充実や子どもから高齢者まで誰もがスポーツに親しむことができる環境づくり、家庭や地域の見守りや支援を通じた青少年の健全な成長を促進し、市民の生きがいや健康づくりにつなげ、豊かな心を育み楽しく学び、活動ができるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

人口一人当たりの生涯学習施設の年間利用回数



※生涯学習施設（市民体育館、双子川テニスコート、市民球場、図書館、文化ホール、公民館、青少年センター）

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

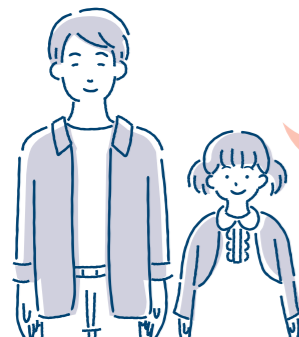
- すべての世代の人たちが生涯を通じて学ぶことができる学習機会の提供等、生涯学習活動の充実を図っています。
- 地域情報拠点として、図書・視聴覚・郷土資料等の収集と提供や、学校・園、関連機関との連携による読書活動の推進、居場所として、図書館の充実を図っています。
- 誰もがスポーツに親しみ、生涯にわたり健康で充実した生活を営めるようにするためのスポーツをする機会の提供を図っています。
- 多様な体験活動等の提供による豊かな人間性、社会性を身につけた青少年の育成を図っています。

施策に関する主な課題

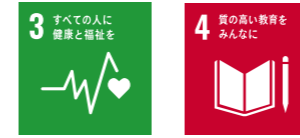
- これまでの生涯学習活動の継承や、世代を超えた交流、多様化する新たなニーズへの対応が必要です。
- 幼児期から体を動かす楽しさを体験することができる機会を提供し、各段階において継続してスポーツをする機会の充実を図ることが必要です。
- 青少年の健全な育成のために、引き続き地域や関係団体等との連携による非行防止活動の推進が必要です。

関連する市民の 意見・アイデア

SNSやITを活用した講座等、
幅広い生涯学習活動ができるようになったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①生涯学習の推進

- ◇生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供を行います。
- ◇関係団体の活動・発表・交流の場や機会の提供等、生涯学習活動の支援を行います。
- ◇読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、楽しみながら読書活動ができる環境の整備を図ります。

②スポーツ活動の推進

- ◇地域資源を活用したスポーツイベントの実施や開催支援、国際大会の誘致等、その経験や国際協力関係をいかした生涯スポーツ社会の実現に寄与します。
- ◇スポーツ、芸術、文化の分野で将来にわたり活躍が期待できる人を支援します。
- ◇あらゆる世代を通じたスポーツを楽しむ環境づくりや、泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）等を活用したスポーツイベントを展開します。

③青少年の健全育成

- ◇地域全体で子ども・青少年の健やかな育成に取り組む機運を高め、学校園を含む関係組織や団体との連携による子どもの居場所の確保と青少年の健全育成に取り組めます。
- ◇留守家庭児童会事業の充実、強化を図ります。

関連する主な 個別計画

- ◇泉南市教育振興基本計画
- ◇泉南市人権教育推進プラン
- ◇第3次泉南市子ども読書活動推進計画

- ◇第2期泉南市子ども・子育て支援事業計画
- ◇第2期泉南市まち・ひと・しごと創生総合戦略



歴史・文化

目指すまちの姿

歴史的・文化的な地域資源に親しみを持ち、郷土愛が育まれるまち

歴史的・文化的な資源をいかして文化の質が高い地域づくりを行い、市民がふるさとや地域への愛着、誇り等、郷土愛を持てるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

学習活動等に活用された文化財の件数

現状値
(令和3年)

118 件

目標値
(令和14年)

150 件

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

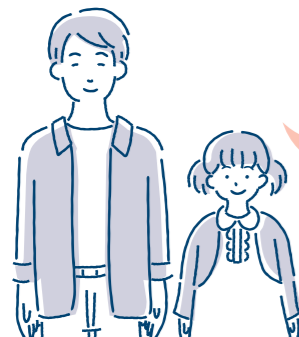
- 海会寺跡をはじめとした文化財の調査、価値づけ、活用を図っています。
- 小中学校園との連携により子どもたちに地域の文化財に興味を持ってもらえる取組を行っています。
- 市民協働による郷土の文化に係る事業実施や、地元の郷土史家等による市民向け講座を実施しています。
- 泉南市の歴史・文化・自然に関する紹介、企画展示等を開催しています。

施策に関する主な課題

- 市民にあまり知られていない文化財等の地域資源の周知が必要です。
- 文化活動の担い手の高齢化や後継者不足解消のため、担い手の育成が必要です。
- 多様な文化芸術に触れる機会の創出に向け、市民協働による取組が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

伝統的な建物や文化をいかしたイベントや事業を通じて、泉南市の魅力をもっと多くの人に知ってほしいなあ



関連する SDGs



実施する主な取組

①歴史的資産の活用

- ◇文化財や伝承の保存と活用、新たな地域資源の発掘や開発を行います。
- ◇地域の文化的財産に対する意識向上に向けた学習の場や、文化財・伝統芸能等を紹介・PRする機会を創出します。
- ◇小中学校園や埋蔵文化財センターを核とした人が集まれる仕組づくりや、子どもや家族向けの地域資源を活用したイベントを通じたPR活動を実施します。

②市民文化活動の充実

- ◇市民による自主的な文化活動に対する支援の充実を図ります。
- ◇広報紙やホームページ、SNS等を活用したPRによる自発的な文化活動への参加支援を行います。
- ◇多様な文化・芸術に触れる機会の創出や、市民ボランティアの育成等、市民の意見を取り入れた運営を実施します。

関連する主な
個別計画

◇泉南市教育振興基本計画



分野別政策2 『しごと』を生み出す・にぎわいを創出する 農業・漁業

目指すまちの姿

自然の恵みがいかされ、農業・漁業が活気にあふれるまち

山と海の資源をいかした地産地消や地域ブランドの推進、6次産業化等による新たな商品やビジネスの創出に向けた仕組の構築等を通じ、農業・漁業が活性化し、にぎわいのあるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

地域ブランド品目数

現状値 (令和3年)	1品目	目標値 (令和14年)	5品目
---------------	-----	----------------	-----

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

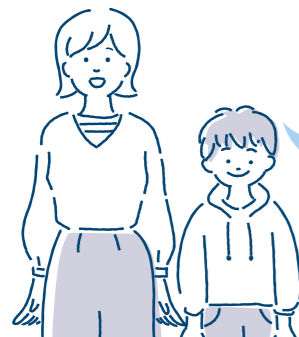
- 農漁業の従事者数の減少と高齢化が進行しています。
- 農業技術を習得し、農業経営を開始しようとする人を育成する泉南農業塾の創設による新たな担い手確保を行っています。
- 産官学連携による「泉南あなご」等、地域ブランド品を開発しています。
- 地元の農水産物を地元で消費する「地産地消」が重要な取組として全国的に実施されています。
- 泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）に隣接する泉南市総合交流拠点施設（サザンぴあ）では、地元農水産物等の直売等で多くの人でにぎわっています。

施策に関する主な課題

- 農業者の高齢化、農道やため池等の農業基盤の老朽化に伴い、後継者不足や有休農地の増加が課題となっています。
- 現行の地域ブランド品の知名度向上及び新たな地域ブランド品の開発が必要です。
- 生産性の高い農漁業の確立等による新たな担い手の確保・育成が必要です。

関連する市民の 意見・アイデア

泉南ブランドが高く評価され、農業・漁業が活発になることでたくさんの雇用が生まれたらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①農漁業の振興

- ◇農業用道路、農業用水路及び農地の保全等、機能の維持や、農業振興と生産性向上のため、意欲ある農業者への遊休農地の貸借促進や利用集積を図ります。
- ◇農作物、水産物等の販路の確保等、地域ブランド品の開発・展開を推進します。
- ◇漁業協同組合等、関係団体との連携強化や、地産地消を推進します。

②農漁業の担い手確保・育成

- ◇泉南農業塾の拡充や、就農希望者の受け入れ策の検討による担い手の確保・育成に取り組みます。
- ◇農漁業体験等、農漁業に興味を持つきっかけづくりの推進による担い手の確保につなげます。
- ◇移住者への支援による農漁業を生業とする移住促進を図ります。



施策
8

商工業

目指すまちの姿

商工業の活性化が地域に活力を生み、 笑顔とにぎわいにあふれるまち

広域的な交通アクセス等の立地をいかした新たな企業誘致や、市内事業者への支援の充実により、商工業の活性化を図ることで、市民の生活が便利で満足度が高く、にぎわいにあふれるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

市内事業所数（経済センサス）



※参考値：平成28年 2,128 事業所、平成24年 2,235 事業所

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

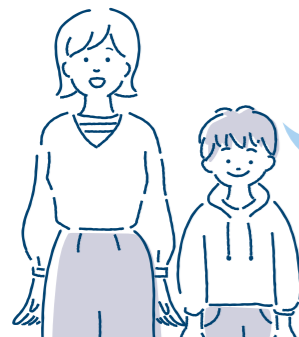
- 経営環境が変化していることや、経営者の高齢化や後継者不足により、本市でも地元商店が減少傾向にあります。
- 商工会及び金融機関等と連携して実施する特定創業支援事業による支援や空き店舗を活用した商店街の活性化や企業誘致の促進を図っています。
- 中小企業の経営安定化や、地場産業への支援、先端設備導入に対する支援を行っています。
- 地域ブランド確立による地域活性化に向けた取組を行っています。

施策に関する主な課題

- 市内企業の事業継承、後継者の確保、生産性の向上が必要です。
- 立地を検討する企業をサポートする体制の整備が必要です。
- 市民の高齢化や商業の廃業等により、買い物困難者が増加しています。
- 創業支援に関する情報提供と創業しやすい環境の整備が必要です。

関連する市民の 意見・アイデア

市民の“やってみたい”をいかして、
泉南市の新たな産業が生まれたらいいなあ



関連する SDGs



実施する主な取組

①商工業の振興

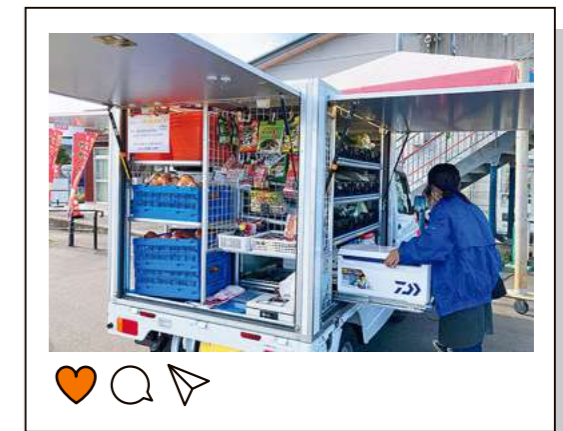
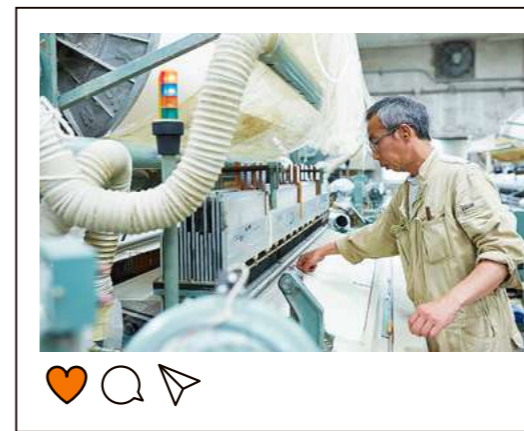
- ◇商工会との連携による異業種ビジネス交流会や若手経営者等の育成支援を行います。
- ◇企業の事業継承推進のため、経営者と新たな創業者とのマッチング機会の創出や、生産性向上に関する取組を支援します。
- ◇本市の立地特性をいかした企業立地を促進します。
- ◇市内の特色ある産品等を銘品として認定するとともに、認定品及び事業者の取組を市内外へ広く発信します。
- ◇空き店舗の活用や買い物困難者に対する取組等、地域商業の活性化を推進します。

②起業・創業の支援

- ◇商工会や金融機関等との連携による創業支援、創業後のサポート等、事業継続を支援します。
- ◇空き店舗活用による支援等、起業・創業の機会の拡充を図ります。

関連する主な 個別計画

- ◇第2期泉南市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ◇創業支援事業計画



観光

目指すまちの姿

地域資源がいかされ、人びとが行き交う観光・交流のまち

豊かな海・山等の自然や歴史文化を地域資源として活用した泉南市ならではの観光サービスや商品開発により泉南市を訪れる人を増やし、人びとが行き交うまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

休日滞在人口率



※数値：R3.1～12月の月平均を表示

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

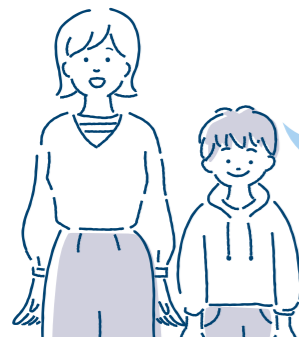
- 社会情勢の変化により、令和2（2020）年以降の訪日外国人旅行者が大幅に減少しているとともに、マイクロツーリズムへの需要が高まっています。
- 観光協会と連携した本市の観光魅力のPRや、デジタルサイネージを活用した観光情報を発信しています。
- 広域連携による地域の魅力向上、国内外に向けた情報発信を行っています。
- 農業・漁業体験と観光をつなげることによる多世代、多様な人びとによる地域活性化を推進しています。

施策に関する主な課題

- 市の魅力向上のため、市内の観光資源（自然・文化・歴史・産業）のさらなる磨きあげが必要です。
- 市の認知度向上のため、SNSの活用等、情報発信力の強化が必要です。
- 観光情報の多言語化等により、幅広い観光客層に対応する受け入れ環境の整備が必要です。

関連する市民の 意見・アイデア

泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）のほかに山側にも新たな観光魅力があったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①観光の振興

- ◇目指すべきコンセプト、ターゲットの明確化を通じた観光の振興を図ります。
- ◇泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）来園者を内陸部へと周遊させる取組を促進します。
- ◇インバウンドを含めた幅広い観光客層に対応する受け入れ環境の整備・向上を図ります。
- ◇農漁業体験と観光をつなげた体験型観光を促進します。

②観光魅力のPR

- ◇泉南市の地域資源や観光資源等を通じて泉南市の魅力を市内外へ広く発信するとともに、にぎわいづくりや知名度向上を図ります。
- ◇SNSやデジタルサイネージ等、様々な手段により観光情報を市内外へ発信し、観光資源の知名度向上と集客の促進を図ります。
- ◇広域連携により観光資源を結びつけ、PRしていくことにより幅広い集客を図ります。

関連する主な 個別計画

- ◇第2期泉南市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ◇泉南市観光振興ビジョン



雇用

目指すまちの姿 新たな雇用の創出による就業機会の拡充と 雇用環境の改善により、地元で安心して働くことができるまち

農業・漁業、商工業、観光等、それぞれの産業の振興により、多様な雇用の場を確保・充実することで、希望する人が市内で働くことができるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

従業者数（経済センサス）



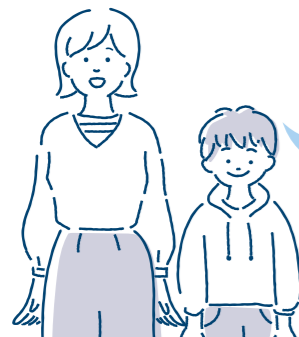
※参考値：平成28年 23,101人、平成24年 23,611人

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 生産年齢人口は平成8（1996）年以降減少を続けている中、完全失業率は低下している一方、社会情勢の変化により、契約社員やパート・アルバイトといった非正規雇用者が増加を続けており、今後、失業者の増加が懸念されています。
- 本市では、就職等をきっかけとする20代での転出超過が大きくなっています。
- 就労支援相談員による就労相談・支援や関係機関との連携により、就労機会を創出するとともに、社会保険労務士による労働相談や弁護士による無料法律相談により、労働環境の改善に向けた取組を行っています。

施策に関する主な課題

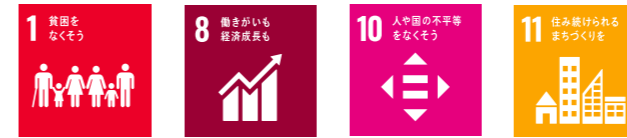
- 様々な世代が市内で働きたいと思える環境づくりが必要です。
- 労働環境の向上に向けた各種制度の普及や企業の福利厚生向上を促進する必要があります。



関連する市民の 意見・アイデア

仕事を探している人と、企業をマッチングすることで誰もが自分らしく働けるまちになったらいいなあ

関連するSDGs



実施する主な取組

①雇用・就業支援の推進

- ◇農漁業、商工業、観光振興に関する施策や企業誘致を推進することで、多様な雇用機会、働く場所を創出します。
- ◇就労相談による支援や関係機関との連携により、就業支援を行います。
- ◇商工会と連携し、雇用の受け皿となる事業者への家賃補助や、空き店舗と新規事業者のマッチング等ソフト支援策を充実します。

②労働環境の充実

- ◇労働相談、法律相談を通じ、専門的な見地からの助言を行い、相談者の問題解決や雇用・労働環境の改善を図ります。
- ◇商工会や企業が実施する福利厚生事業を支援し、労働者の福利厚生の向上を図ります。
- ◇働きやすい環境整備や労働条件の向上等、労働者が安心して就業できる環境づくりのため、企業への啓発を推進します。



施策
11

分野別政策3 「暮らし」を守る・快適にする
防災

目指すまちの姿

**災害による被害を地域の支え合いや民間企業等との連携で
最小化し、誰もが安全・安心に暮らし続けられるまち**

発生が懸念される大規模地震や津波、豪雨等の自然災害による被害を防災・危機管理体制の充実や地域住民同士の支え合い・助け合い、企業等との連携により最小限におさえるなど、誰もが地域で安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

自主防災組織の組織率（世帯按分）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 平成30（2018）年に発生した台風21号では、市内でも大規模停電や建物被害等が発生しました。
- 南海トラフ地震の被害を想定し、他自治体との連携を構築しています。
- 自主防災組織の設立を支援することで、地域における防災の拠点づくりを行っています。
- 民間住宅の耐震化の促進や避難行動要支援者の名簿作成等、災害被害の軽減に向けた取組を行っています。

施策に関する主な課題

- 大災害発生時に対応するため、さらなる防災協定の締結や庁内の連携体制の構築が必要です。
- 地域全体での防災体制の構築、各家庭での災害への備え等の意識向上が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

地域が主体的に防災訓練や防災リーダーの育成を行うことで、災害に強いまちになったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①防災体制の充実

- ◇大災害発生時に迅速な地域復興につなげることができるよう、事前の計画づくりや庁内連携体制を構築します。
- ◇避難所・備蓄拠点等の整備、庁内緊急出動体制の強化を図り、災害に備えます。
- ◇府内外の市町村や企業、関係団体等との防災協定の締結を促進します。
- ◇SNSの活用等、市民に対する防災情報の伝達手段の拡充を行います。

②災害に強い地域づくり

- ◇市民の防災意識を高めるため、各種講座や広報等による啓発、市民と行政との協働による防災訓練等の充実を図ります。
- ◇自主防災組織のさらなる設立支援や、その活動を支援するとともに、地域における避難行動要支援者の個別避難計画作成を促進します。
- ◇民間住宅の耐震化を促進するため、市民の周知啓発を図ります。

関連する主な
個別計画

- ◇泉南市防災計画
- ◇泉南市強靱化地域計画



防犯・交通安全・ 消費者トラブル対策

目指すまちの姿
犯罪と交通事故が少なく、
子どもから高齢者まで安心して生活を送れるまち

全国的に多様化・凶悪化する犯罪や消費者問題、交通事故等から、子どもから高齢者まで、一人ひとりの生命と暮らしを守り、被害に遭う人を最小限におさえることができる、市民、地域、行政の連携による安全・安心なまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

刑法犯罪種及び手口別発生市区町村別認知件数（大阪府犯罪統計）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 青色防犯パトロールや交通安全施設の整備、防犯カメラ及び防犯灯の設置等、関係団体との連携による防犯・交通安全対策を実施しており、犯罪認知件数と人身事故発生件数共に減少傾向である一方、車両相互の事故は増加傾向にあります。
- SNSを悪用した消費者トラブル等に対し、消費生活相談員や行政相談員による相談や、弁護士による無料法律相談を実施していますが、問題が多岐にわたり複雑化しています。

施策に関する主な課題

- 地域住民や関係団体等との連携による地域における子どもの見守り体制構築へのさらなる支援が必要です。
- 地域の理解を踏まえた防犯カメラ及び防犯灯の増設並びに適切な維持管理手法の確立が必要です。
- 通学時に起こりうる事件や事故への対策が必要です。
- 歩行者優先となる道路整備を行っていくとともに、ドライバーのマナー向上が必要です。
- 年々複雑・多様化する相談に加えて、成人年齢引き下げに伴う若年層の消費者トラブル増加への対応が必要です。

関連する市民の 意見・アイデア

防犯カメラや防犯灯を増やしたり、歩行者や自転車にもやさしい安全なまちになったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①防犯対策の充実

- ◇地域の関係団体等との連携による子どもの見守り活動等のさらなる支援を行うとともに、防犯カメラ及び防犯灯の設置、適切な維持管理を行うための仕組みづくりに取り組みます。
- ◇市民一人ひとりの防犯意識の向上を図るとともに、地域の自主防犯活動を支援します。

②交通安全対策の推進

- ◇地域の関係団体等との連携により、危険箇所の点検等、通学路の安全対策の強化を図ります。
- ◇歩行者優先社会づくりに向けた啓発や、交通安全施設の整備等、歩行者の安全確保を図ります。

③消費者トラブル対策の推進

- ◇市民一人ひとりの消費者トラブルの意識の向上を図るとともに、関係機関との連携により、見守りネットワークの構築に向けて取り組みます。
- ◇消費生活相談員や弁護士、行政書士等の専門家による相談体制の充実を図るとともに、消費生活に関する講座及び情報発信、啓発を行います。

関連する主な 個別計画

◇泉南市通学路交通安全プログラム



環境保全・脱炭素・エネルギー

目指すまちの姿

ごみの排出が抑制され、河川や森林に配慮した環境にやさしいまち

海・山・川等、本市の豊かな自然を守りながら、「2050年のカーボンニュートラル」を視野に入れた地球温暖化対策やエネルギー対策、ごみの減量化等、環境負荷の少ない暮らし方を浸透させることで、地球にやさしいまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

一人一日あたりのごみ排出量（家庭系ごみ）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- ごみの排出量、一人一日あたりごみ排出量共に横ばい傾向となっており、ごみの分別収集の強化（7分別）や、生ごみ処理機の導入促進等の取組を行っています。
- 山地美化キャンペーンや海岸美化活動等、環境保全に取り組んでいます。
- 国では、令和3（2021）年に新たな地球温暖化対策計画が閣議決定され、令和12（2030）年度に平成25（2013）年度比で46%減とする温室効果ガスの削減目標や、目標達成のために国、地方公共団体が講ずべき施策について示されています。

施策に関する主な課題

- 分別区分の調整や、ごみ出しに不便を感じている高齢者等のごみ出しに関するニーズへの対応、不法投棄、持ち去りごみ等への対策が必要です。
- ため池や里山の保全活動を周知・啓発し、さらに広げていく必要があります。
- 温室効果ガス排出量の削減目標に向け、地球温暖化対策の推進を図るなど、脱炭素社会実現に対する取組が必要とされています。

関連する市民の意見・アイデア

環境に配慮した暮らし方が浸透した地球にやさしいまちになったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①環境保全の推進

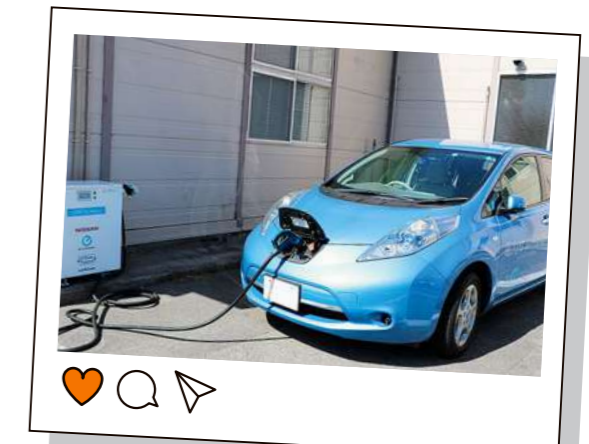
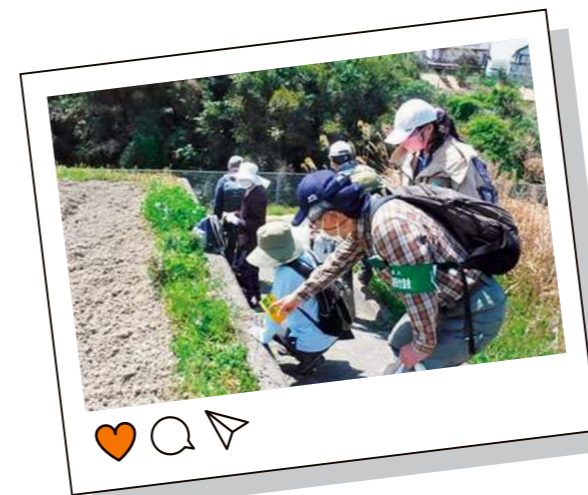
- ◇ため池や河川の改修・保全や管理を適切に行います。
- ◇市民やNPO団体等と協働し、里地里山の保全と活用を推進します。
- ◇ごみの収集方法や収集コースの見直しを行い、ごみ収集を適切に行います。
- ◇環境調査の実施や市民・企業と協力した公害の未然防止を図るとともに、水質保全のための取組を推進します。

②脱炭素社会の実現

- ◇ごみの排出抑制に向け、市民が環境にやさしい消費行動に取り組めるよう、啓発を図ります。
- ◇3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化）の普及を図るとともに、資源ごみの分別の徹底を図ります。
- ◇企業等と連携しながら、ごみ処理場の効率的な運転と適切な維持管理を行います。
- ◇自動車から出る二酸化炭素排出量削減のため、公用車の電動自動車導入や市民に対する自転車活用を推進します。
- ◇公共施設への再生可能エネルギーの導入や市民への啓発等、利用促進を図ります。

関連する主な個別計画

- ◇一般廃棄物（ごみ）処理基本計画
- ◇一般廃棄物（ごみ）処理実施計画
- ◇泉南市自転車活用推進計画
- ◇泉南市地球温暖化対策実行計画



道路・交通

目指すまちの姿

主要拠点にアクセスしやすい交通網が整備され、
誰もが快適・安全に移動しやすいまち

様々な拠点に行きやすく、市民生活に身近な道路の計画的な整備や、地域の特性に合った公共交通の維持・発展により、誰もが快適・安全に移動できるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

コミュニティバス利用者数



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 交通渋滞解消や災害時の交通機能維持のため、都市計画道路の整備や無電柱化等を進めるとともに、身近な移動手段として、自転車の活用を推進する取組を進めています。
- 老朽化した道路構造物の急増に備え、長寿命化計画に基づき、定期点検や修繕を行っています。
- コミュニティバスの路線の見直しやダイヤ改正、高齢者や交通弱者向けの補助金制度等を行っています。

施策に関する主な課題

- 交通渋滞解消や安全性確保のため、道路のさらなる効果的な整備が必要です。
- 自転車走行空間の整備と自転車の活用を市民に対し周知・啓発していくことが必要です。
- 老朽化した道路構造物の効率的な維持管理が必要です。
- コミュニティバスの路線の見直しやダイヤ改正等により、さらなる利用促進が必要です。
- 山側の交通弱者の支援や公共施設、観光名所を巡回する新たな公共交通の検討が必要です。
- 市域内の経済をより循環させるため、関西国際空港へのアクセス性の向上が必要です。

関連する市民の意見・アイデア

公共交通を便利にすることで車による移動を減らすなど、移動が便利になって、環境保全にもつながったらいいなあ



関連する SDGs



実施する主な取組

- ①道路環境の整備**
 - ◇拠点となる市役所や駅周辺において、安全で快適な徒歩・自転車・自動車の移動環境の確保を図ります。
 - ◇拠点間及び地域間をアクセスしやすい道路ネットワークの形成に取り組みます。
 - ◇ICTやAI等の新技術を活用し、メリハリの効いた道路メンテナンスを実施します。
- ②多様な交通手段の利用・導入促進**
 - ◇コミュニティバスについて、利用者の意見を踏まえ、路線の見直しを行うとともに、乗車割引制度の拡充を検討します。
 - ◇小型バス等を活用したデマンド型交通やカーシェアリングサービス等、多様な交通手段の導入を検討します。
 - ◇拠点間を連携する交通手段の一つとして、自転車ネットワークの形成を図ります。
- ③広域ネットワークの構築**
 - ◇近隣府県及び市町村と連携、協力し、関西国際空港を中心とした広域アクセス網の早期整備を求める要望活動を促進します。
 - ◇リスクマネジメントの観点から関西国際空港への代替アクセスとなる南ルートの実現を訴え、実現要望及び広報活動を積極的に展開します。
 - ◇紀北地域や広域拠点地域との連携を強化する広域幹線道路の整備を促進します。

関連する主な個別計画

- ◇泉南市自転車活用推進計画
- ◇泉南市都市計画マスタープラン
- ◇橋梁長寿命化修繕計画
- ◇道路舗装の個別施設計画



下水道・生活環境・住まい

目指すまちの姿

地域特性をいかした土地利用が促進され、自然環境とも調和した魅力的なまちなみを有し、多様なニーズに対応した快適で住みやすいまち

下水道等、生活基盤の強靱化や維持管理を計画的・効率的に進めるとともに、計画的な土地利用により、自然環境と調和しつつ、利便性が高く魅力あるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

拠点徒歩圏の新築件数の割合（拠点徒歩圏建築確認数 / 全建築確認数）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 下水道の整備により普及率は年々上昇していますが、大阪府下では依然として低い水準です。
- まちなみ景観の向上とあわせ、主要駅及び駅周辺のバリアフリー化を進めています。
- 老朽化した市営住宅や公園施設の更新、補修による長寿命化を図っています。
- 空き家の適正管理や利活用に関する啓発を実施していますが、空き家数は増加傾向にあります。

施策に関する主な課題

- 良好な生活環境の確保のため、下水道のさらなる普及率向上に取り組むことが必要です。
- 平坦部や幹線道路付近の農地の都市的利用への転換が必要です。
- 駅周辺を活性化していくため、コンパクトシティ形成のビジョンが必要です。
- 市内に点在する老朽化した公園の利活用についての検討が必要です。
- 未耐震の市営住宅の解消が必要です。
- 増加する管理不全の空き家への対策が必要です。

関連する市民の意見・アイデア

子どもや市民が関わって遊び場や公園の整備ができればいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①下水道の整備

- ◇下水道施設の計画的な維持管理と更新を行うとともに、効率的な下水道事業を進めます。
 - ◇下水道使用料の定期的な見直しや下水道普及率の向上を図り、安定的な運営を行います。
- ※水道事業については、平成31年4月から大阪府広域水道企業団に統合されました。

②都市再生の推進

- ◇コンパクト・プラス・ネットワーク（地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくり）の考え方に基づき、まちづくりを推進します。
- ◇農地等の有効活用を図るため、適切な土地利用の転換等を促進します。
- ◇公園の再編・集約化やバリアフリー化等、公園の魅力向上を図ります。
- ◇拠点集約型と幹線道路沿道型の土地利用を地域の特性に合わせて促進します。
- ◇公的不動産の有効活用や公民連携を推進し、多様なニーズに対応した都市再生を推進します。

③住まいの提供

- ◇市営住宅の計画的な改修や建替え等、安心して暮らせる住まいの提供を図ります。
- ◇空き家所有者による適正管理、空き家バンク登録の促進等、空き家対策に総合的に取り組みます。

関連する主な個別計画

- ◇泉南市都市計画マスタープラン
- ◇道路舗装の個別施設計画
- ◇泉南市自転車活用推進計画
- ◇泉南市下水道事業経営戦略
- ◇泉南市営住宅長寿命化計画
- ◇泉南市公園施設長寿命化計画
- ◇泉南市空家等対策計画



分野別政策4 『健幸』を築く・つながりをひろげる

医療・健康

目指すまちの姿

誰もがいきいきと健康に暮らせるまち

保健・医療・福祉の連携の推進等により、市民が健康増進に主体的に取り組めるよう支援を行い、生活習慣病やがん等の予防や早期発見ができ、医療が受けられる医療体制の充実により、誰もがいきいきと健康に暮らせるまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

健康寿命

現状値 (令和2年)	男性：78.1歳 女性：83.2歳	目標値 (令和14年)	大阪府平均以上
---------------	----------------------	----------------	---------

※令和2年の大阪府平均は男性79.32歳、女性83.85歳
※大阪府算出によるため、直近の公表データを現状値とする。

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

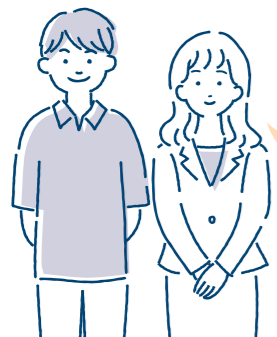
- 国民健康保険被保険者を対象に特定健診等の若い世代での受診を推奨することで生活習慣病の早期発見に努め、健康意識を醸成しています。
- 健診結果をもとに生活習慣病の重症化予防及び改善を推進するため、食生活・運動習慣・禁煙等の保健指導を実施しています。
- 後期高齢者医療被保険者を対象に、フレイル予防につながるため健康診査及び歯科健診等を実施しています。
- 関係機関と協力し、健康教室の開催や、健康づくりボランティアを育成しています。
- 市職員を対象として命を守るゲートキーパーの養成を行っています。

施策に関する主な課題

- 市内の産科、小児科が少ないため、広域での医療体制強化が必要です。
- 大阪府平均よりも短い健康寿命の延伸、自殺者数減少に向けたさらなる取組が必要です。
- 40歳～50歳代の特定健診受診率が低いため、健康づくりへの関心を高める取組が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

身近に体を動かす機会や場所があったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①安心できる医療環境づくり

- ◇公民共に連携強化を図り、広域での医療体制・救急救命力の強化に取り組みます。
- ◇医療と介護の連携を強化し、在宅医療・介護の充実を図ります。

②健康づくりの推進

- ◇各種健診・検診の周知及び受診率・予防接種率の向上を図り、健康づくりにつながる支援を行います。
- ◇企業や関係機関との連携により、市民の主体的な健康づくりを促進します。
- ◇国民健康保険、後期高齢者医療等の制度の垣根を越えて一体的に栄養・運動・口腔ケア等に関する保健事業を実施することで、将来の介護予防につなげます。
- ◇ゲートキーパーの育成をはじめ、市民のこころの健康づくりを推進します。

関連する主な
個別計画

- ◇健康せんなん21（第2次計画）
- ◇泉南市自殺対策計画
- ◇泉南市国民健康保険 第3期特定健康診査等実施計画
- ◇泉南市国民健康保険 第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）



地域福祉・困窮者対策

目指すまちの姿

誰もが取り残されることない、やさしさあふれる支え合いのまち

生活困窮者に対する支援や、高齢者、障害のある人への生活支援・福祉サービス等、支援を必要とする人が誰一人取り残されることなく、適切に利用できる体制づくりにより、やさしさがあふれる支え合いのまちづくりに取り組みます。

施策に関する成果指標

就労達成者数



※生活困窮者等の未就労者が自立支援プログラムを受講し、就労した人数

※令和2年度26件、令和元年度31件

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

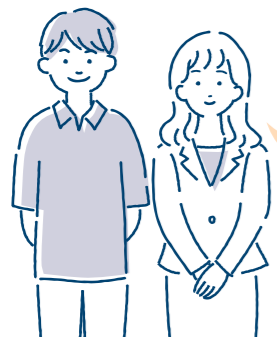
- 多様化・複合化する地域課題に対応するため、高齢者と地域とのつながりを維持する取組を行っています。
- 将来的な困窮世帯の減少につながるよう、各種相談、支援を行っています。
- 成年後見制度利用促進法が施行され、判断能力が不十分な方について、権利擁護の促進が求められており、市民後見人バンク制度による後見人の確保に努めています。

施策に関する主な課題

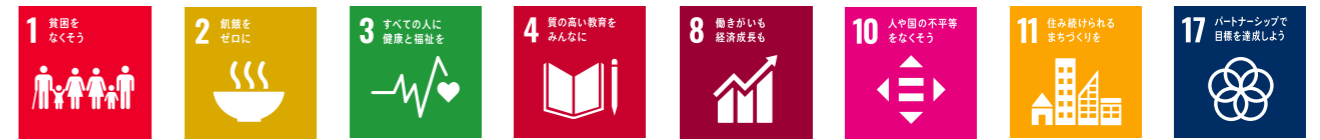
- 制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手の関係を超えて、地域住民や多様な主体が我が事として分野を超えて、丸ごとつながることが必要です。
- 地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備する相談支援体制の構築が必要です。
- 潜在的な生活困窮者の増加が想定される中、自立を支援する取組に加え、貧困の連鎖を断ち切る取組が必要です。

関連する市民の意見・アイデア

支援を必要とする人が安心して相談できる場所があったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①地域共生社会の実現

- ◇「属性を問わない相談支援」や「地域づくりに向けた支援」等を「多機関協働」により、一体的かつ重層的に整備する支援体制を構築し、誰一人取り残さない地域の実現を図ります。
- ◇市民主体の地域での見守り活動を促進させるため、様々なニーズに適した効果的な情報発信により理解を促すとともに、活動の担い手の発掘や育成を促進し地域の支援体制の強化を図ります。
- ◇成年後見制度に関する支援体制の強化を図るため、成年後見総合センターを中核機関として、地域における権利擁護の普及啓発や利用促進を進めます。

②生活困窮者福祉の充実

- ◇生活困窮者に対する緊急かつ一時的な各種給付や相談支援、就労支援により、その自立を支援します。
- ◇生活困窮者やヤングケアラー、引きこもり等の把握に努め、自立に至るまでの支援を行います。
- ◇貧困の連鎖により生活困窮に陥ることがないように、子どもに対する学習支援を行います。

関連する主な個別計画

- ◇泉南市福祉のまちづくり推進計画
- ◇泉南市第8期地域包括ケア計画
- ◇第5次泉南市障害者計画・第6期泉南市障害福祉計画・第2期泉南市障害児福祉計画



高齢者福祉

目指すまちの姿

健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域で
人生の最期まで自分らしく暮らし続けられるまち

市民が生涯を通じて生きがいを持ちながら健やかに暮らすことができ、支援が必要になっても住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムを深化・推進し、地域共生社会の実現に向けて取り組みます。

施策に関する成果指標

介護予防教室参加者数（延べ人数）



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

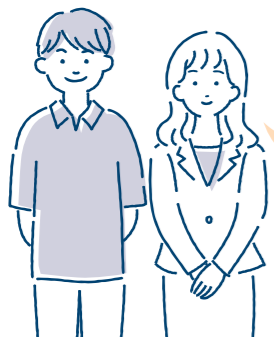
- 団塊の世代がすべて75歳以上となる令和7(2025)年、団塊ジュニア世代が65歳に到達する令和22(2040)年には、介護ニーズは一層増加し、多様化していくことが予測されます。
- 泉南市の高齢化率、高齢者人口に占める後期高齢者の割合は年々上昇しており、要介護・要支援認定者数も微増しています。
- WAO(輪を)！SENNAN(「W」忘れてもだいじょうぶ「A」あんしんと「O」おもいやりの町せんなん)を目指し、多職種協働で認知症施策に取り組んでいます。
- 医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組づくり(地域包括ケアシステム)に取り組んでいます。
- 介護予防の取組として、泉南市独自の介護予防体操「WAO体操2」の普及、市民向けの啓発「WAO地域」の開催、MCI(軽度認知障害)予防教室を開催しています。

施策に関する主な課題

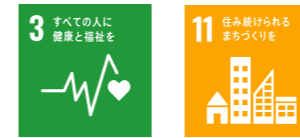
- 持続可能な介護保険制度の運営のため、適切な介護認定、サービスの確保及び費用の効率化が求められています。
- 多様化・複雑化する高齢者を取り巻く生活課題に対応するための地域づくりが必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

高齢になっても元気に暮らせるよう、
地域で健康づくりができる場所や機会があったらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①地域包括ケアシステムの推進

- ◇多職種による連携を強化し、地域の多様な主体による支援を行う生活支援体制の整備を図ります。
- ◇介護サービス充実と質の向上、担い手の確保を図り、「WAO(輪を)！SENNAN」の実現に向け、高齢者が要介護状況になった場合でも、可能なかぎり住み慣れた地域で安心して生活できるように、泉南市独自の地域包括ケア体制を深化・推進します。

②介護予防の推進

- ◇健康でいきいきとした高齢期を過ごし、健康寿命の延伸を実現するため、一人ひとりが健康意識を高め、望ましい生活習慣を身につけ、疾病予防や生涯にわたる健康づくりを支援する取組を推進します。
- ◇要支援者や自立した生活を維持することが困難な高齢者を対象に、介護予防や生活支援サービス等を総合的に提供します。
- ◇地域住民が気軽に集える居場所の普及啓発、実施場所が増えるよう立ち上げ支援を行い、高齢者の活動的な生活、社会的な交流、身体的・精神的な充足を通して介護予防を図ります。

③持続可能な介護サービスの充実・強化

- ◇高齢者一人ひとりができるかぎり住み慣れた地域で生活を続けられるようなサービス提供体制の充実を図り、保健、医療、福祉、介護サービスの連携強化を進めます。
- ◇要介護認定、事業者支援、給付実績の点検等を通じ、費用の効率化と介護給付の適正化を図ります。

関連する主な
個別計画

- ◇泉南市第8期地域包括ケア計画
- ◇泉南市福祉のまちづくり推進計画

障害福祉

目指すまちの姿

障害のある人への社会的な障壁を取り除く必要なサービスや支援により、住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるまち

障害のある人やその家族が、地域の中で安心して自分らしい生活を送ることができるよう、ユニバーサルデザインによるまちづくりや障害のある人への理解を促進し、それぞれのライフステージに応じて必要な障害福祉サービスの提供や相談支援体制の充実に取り組みます。

施策に関する成果指標

福祉施設から一般就労への移行者数



※福祉施設（就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型事業所）

※令和2年度14人、令和元年度14人

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- 障害者手帳所持者数については、身体障害者手帳所持者数が減少傾向となっている中、療育手帳所持者数及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向となっています。
- 関連する各種計画に基づき、障害のある人・子どもの日常生活と、療育、教育、就労、スポーツや文化活動等、多様なニーズにきめ細かく対応するために必要な障害福祉サービス等の見込量及び確保の方策を定め、サービスを提供しています。

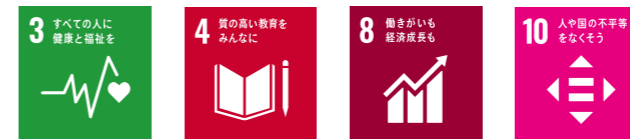
施策に関する主な課題

- 障害に関する理解を促進していくとともに、多様化・複雑化する福祉ニーズへ対応する分野を超えた総合的な相談支援体制が必要です。
- 障害のある人・子どもが社会参加活動や自立に向けて、住み慣れた地域でその人らしく生活を送ることができる支援体制を充実・強化することが必要です。

関連する市民の意見・アイデア

障害のある人・子どもと地域の住民が交流できる機会があったらいいなあ

関連するSDGs



実施する主な取組

①共生に向けた啓発の充実

◇多様な交流や啓発により障害者差別解消法や、合理的配慮等の障害に関する正しい知識を知ることにより、障害や障害のある人・子どもに対する正しい理解や認識を深めます。

②身近な地域で暮らすための支援

◇障害のある人・子どもの心身の状況やニーズを的確に把握し、心身の健康の維持・増進・回復を図るため、関係機関と連携しながら、リハビリテーション体制等の充実、必要な障害福祉サービス、障害児通所支援等への給付を行います。

◇障害のある人の相談支援の中核的な機能を担う基幹相談支援センターを設置し、関係分野との連携のもと、障害のある人の地域移行や権利擁護の推進、相談支援体制の充実を図ります。

③自立と社会参加の支援

◇療育から教育、就労へとそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援、スポーツや文化活動等、その人らしい生活を送ることができるよう、社会参加の促進に努めます。

◇就労支援事業所や企業等との連携、身近な地域での支え合い・助け合い活動を活性化し、障害のある人の就労機会の拡大、住まいの場の確保や住みやすい環境整備を進めます。

関連する主な個別計画

◇泉南市福祉のまちづくり推進計画

◇第5次泉南市障害者計画・第6期泉南市障害福祉計画・第2期泉南市障害児福祉計画



総合的政策 「しくみ」をつくる・運営する
協働・コミュニティ

目指すまちの姿

地域住民がコミュニティで気軽に集い、交流と助け合いがあるまち

地域コミュニティ機能の低下や市民ニーズの多様化・高度化が進んでおり、個人の努力や行政だけの取組ではなく、あらゆる分野で市民、地域、企業、団体等、多様な主体と行政が気軽に集い、交流する場があり、助け合うことができる協働によるまちづくりを推進します。

施策に関する成果指標

市民公益活動団体数



施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

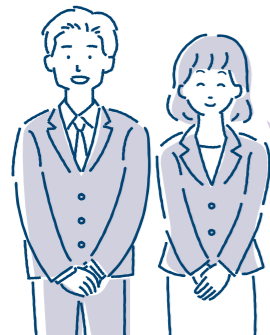
- 人口減少や高齢化が進む中、社会的に孤立する人の増加が懸念されています。
- 市民との情報共有を図るため、市民公益活動団体の情報を集約し公開しています。
- NPO団体数と区加入率、老人クラブ加入率は減少傾向となっており、区・自治会等の地域コミュニティが希薄化しているとともに、区長等の役員の後継者が少なく、高齢化が進んでいます。

施策に関する主な課題

- 地方分権の進展や市民ニーズの多様化により、行政だけでなく市民も役割を認識し、共につくるまちづくりが必要です。
- 地域において顔が見える関係づくりや、絆を深めていく取組が必要です。
- 既存のコミュニティは中心メンバーが高齢化しており、地域を支える人材の育成と確保が必要です。

関連する市民の
意見・アイデア

市民同士が気軽に交流できる機会があったらいいなあ



関連する SDGs



実施する主な取組

①市民参画・協働の推進

- ◇パブリックコメント制度や審議会・委員会への市民公募制度、またワークショップの開催等、市民がより市政に参画しやすい環境づくりを推進します。
- ◇市民、行政共に、市民協働の理解や参画が進むよう、協働の仕組の充実や情報提供を行います。
- ◇NPO団体等の設立や運営について、情報提供等の支援を行い、NPO団体や民間団体と連携してまちづくりを行います。

②地域コミュニティづくりの推進

- ◇地域コミュニティ活動の場を提供し、組織間の交流や連携を図るため、取組を支援します。
- ◇地域コミュニティ活動を活性化するため、地域を支える人材の育成と確保に努めます。
- ◇地域コミュニティの様々な課題を解決するために、コミュニティビジネスの取組を支援します。

市民、企業・団体等に期待する取組

- ◇市民は市政や地域のまちづくりに関心を持ち、地域コミュニティ活動や、各種会議、意見募集の場等に積極的に参加します。
- ◇企業・団体等は地域の一員として、自らの専門性や得意分野をいかしてまちづくりに還元します。



関連する主な
個別計画

◇泉南市市民協働推進指針

シティプロモーション

目指すまちの姿

市民がまちへの愛着や誇りを持ち、
魅力にあふれ、持続的に発展していくまち

市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド等）を醸成するとともに、市内外の人が定住したいと思える魅力を高め、効果的に発信することで「選ばれるまち」として持続的に発展していくことができるよう、シティプロモーションの充実に取り組みます。

施策に関する成果指標

定住意向



※第6次泉南市総合計画に係る市民意識調査より『住み続けたい』と回答した人の割合

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

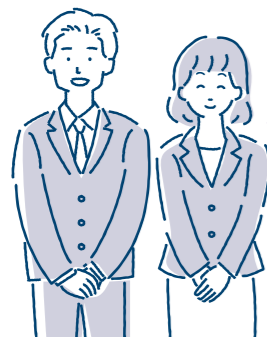
- 全国規模で移住・定住促進や観光誘客等に向けた取組が加速しています。現在、本市においては、誘客連携イベントや公民連携の取組を通して、関係人口や定住人口の獲得に向けた取組を強化しています。
- 市政情報や本市の施策、本市のプロモーションについては、広報紙及び本市ウェブサイト、SNSで情報を発信しています。

施策に関する主な課題

- 市民のシビックプライドを醸成するインナープロモーションが必要です。
- 市外における本市の認知度を高め、関心を得るアウトプロモーションが必要です。
- 持続的に発展を目指すため、それぞれのプロモーションにおいては、本市が持つ様々な資源をいかし、市内外を問わず多くの人びとから選ばれるまちとなる必要があります。

関連する市民の意見・アイデア

あらゆる手段を使って泉南市の魅力を全国に発信できたらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

①インナープロモーションの推進

- ◇市民が自らまちの魅力に気づき、シビックプライドを醸成するイベント等に取り組みます。
- ◇様々な媒体を活用し、市民がまちの魅力に気づくことができる情報発信に取り組みます。

②アウトプロモーションの推進

- ◇市外への情報発信を強化することで本市のブランドイメージを定着させ、まちの総合的な価値を高めます。
- ◇誘客連携イベント等によってにぎわい（関係人口・交流人口）を生み出し、認知度を向上させ、経済活動の活性化を促します。

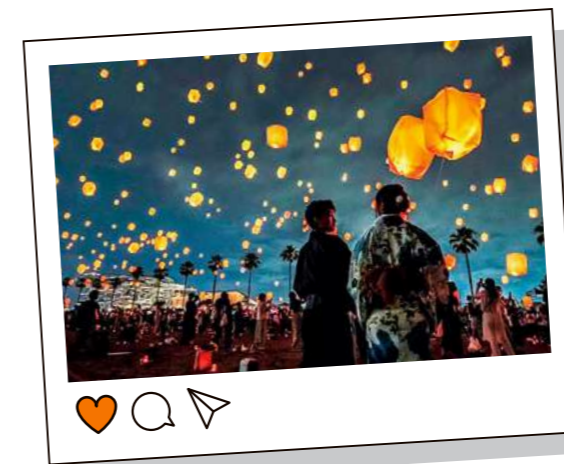
市民、企業・団体等に期待する取組

- ◇市民は泉南市の魅力に気づき、郷土愛を深め、SNSを活用した情報発信や口コミ等により、積極的に泉南市の魅力をPRします。
- ◇企業・団体等は自社・自団体のPRとあわせて泉南市の魅力をPRします。



関連する主な個別計画

◇第2期泉南市まち・ひと・しごと創生総合戦略



情報政策 (DX)

目指すまちの姿
誰一人取り残さない、
デジタルでつながる便利で安全・安心なまち

先端技術をまちづくりに取り入れながら、デジタル人材の育成・確保や、デジタルトランスフォーメーション (DX) を進め、誰一人取り残すことなく、暮らしやすく、便利で安全・安心なデジタル社会の実現に取り組みます。

施策に関する成果指標

オンライン手続利用率



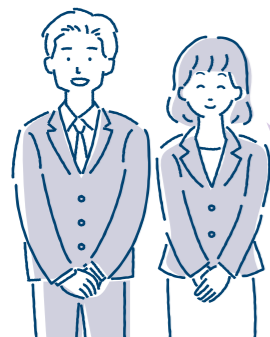
※地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続 (58 手続) のオンライン利用率

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

- マイナンバーカードの普及推進のためマイナポイント事業や、行政手続のオンライン化・キャッシュレス化に向けた検討・調整を行っています。
- 市民サービスの向上や業務効率の改善に向けた取組の情報収集や調査研究に取り組んでいます。

施策に関する主な課題

- オンライン化できる行政手続の整理や、行政事務の見直しが必要です。
- デジタル化の進展に伴う、情報セキュリティの向上が必要です。
- デジタル技術を有効活用できるよう、市民のデジタルリテラシーの向上が必要です。



関連する市民の意見・アイデア

誰もがデジタルを活用して、便利に暮らせるまちになったらいいなあ

関連する SDGs



実施する主な取組

①情報政策の推進

- ◇電子申請システムを導入し、各種行政手続等をオンラインで行えるよう、市民の利便性の向上を図ります。
- ◇民間事業者と連携し、市民の利便性の向上及び市の業務の効率化が図られるデジタル技術を活用します。
- ◇情報セキュリティの向上を図ります。

②デジタルリテラシーの向上

- ◇市民がデジタルを活用できるようにするための環境整備を進め、デジタルデバイドの解消を図ります。
- ◇市職員のデジタルリテラシーの向上に向けた教育・研修等を行います。

市民、企業・団体等に期待する取組

- ◇市民はインターネット上のルールやマナーを守りながら、オンライン申請等、生活の中でデジタル技術を有効に活用します。
- ◇企業・団体等は事業や活動に AI・RPA等を取り入れ、サービスや取組の充実を図ります。



関連する主な個別計画

◇泉南市DX推進計画



行財政運営

目指すまちの姿

持続可能で安定した行政サービスを受けられるまち

安定的な財源確保や、効率的・効果的な行財政運営に努めるとともに、近隣市町との連携を検討しながら、行政の広域化に取り組むなど、持続可能で安定した行政サービスを提供します。

施策に関する成果指標

経常収支比率（過去3年間の平均値）

資産老朽化比率（有形固定資産減価償却率）

現状値 (令和3年) **95.8** 目標値 (令和14年) **95.0 未滿**

現状値 (令和3年) **69.6** 目標値 (令和14年) **大阪府内市町村平均**

施策に関する主な泉南市の取組状況・背景

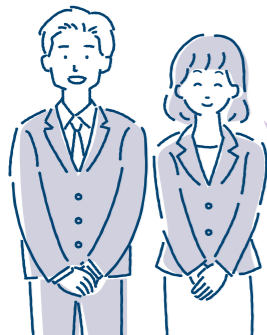
- 地方創生への取組や災害対策・感染症拡大対策等、基礎自治体として期待される役割は多様化・複雑化しています。
- 人口減少等により、行政サービスを維持するために必要な歳入の確保が困難となっており、費用対効果を踏まえた健全な財政運営に取り組んでいます。
- 時代の変化により自治体の独自性が求められる中、市民に信頼される柔軟な行政サービスを実行する能力が職員に求められています。

施策に関する主な課題

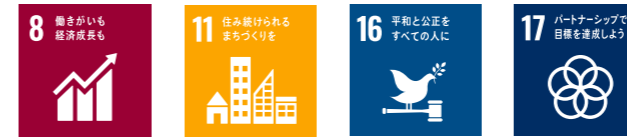
- 限られた人材で持続可能な行政サービスを提供し続け、市民福祉の水準を維持することが求められており、持続的な行財政運営のための対策が必要です。
- 行政課題が高度化・多様化しており、組織体制の強化や政策形成能力のある職員の育成が必要です。
- 実質公債費比率等の各種財政指標からみると、とりわけ経常収支比率が高く財政の硬直化が進行しているため、財政状況の改善が必要です。
- 公共施設が老朽化しており、このままでは維持更新に要する財政負担の増加が見込まれるため、長寿命化や複合化・統合・集約化の検討を含めた最適な配置が必要です。
- 人口減少等による複雑・高度化した行政サービスに対応するため、行政の広域化等、効果的な行政運営を行うことが必要です。

関連する市民の意見・アイデア

市民が安心して納得できる行財政運営が行われたらいいなあ



関連するSDGs



実施する主な取組

① 組織の適正化と人材の育成

- ◇施策や事業の見直しを通じて、組織や人員配置のあり方を検討し、効果の高い行政サービスを実現します。
- ◇各種研修の実施等、計画的な人材育成や人事評価制度の運用により、職員が持つ能力発揮と成長を促す組織風土の醸成を図ります。
- ◇民間企業との人材交流・協働等を通じ、ノウハウや技術、柔軟な発想を行財政運営に取り入れます。
- ◇まちづくりのあらゆる分野で地域の実情を捉え、それに対応する広域連携の取組を検討していきます。

② 健全な財政運営

- ◇市税をはじめとする多様な自主財源による歳入確保を図り、一方でファシリティマネジメントの推進等、効果的・効率的な歳出に努めるなど、戦略的な財政運営を図ります。
- ◇財政運営について市民の理解を得るため、わかりやすい財政状況の公表に努めます。

市民、企業・団体等に期待する取組

- ◇市民は泉南市の財政状況や市政運営の情報を収集し、関心を持つとともに、市政運営の積極的な参画と協働に努めます。
- ◇企業・団体等は市との人材交流・協働を通じてまちづくりに貢献する人材育成に協力します。



関連する主な個別計画

- ◇泉南市中期財政計画
- ◇泉南市人材育成基本方針
- ◇泉南市公共施設等最適化推進実施計画
- ◇泉南市定員管理計画
- ◇泉南市公共施設等最適化推進基本計画
- ◇泉南市公共施設等個別施設計画

第 4 部 資料編

第4部 資料編

1 策定の経過

日時	内容
令和3年 1月	市民意識調査の実施
令和3年 2月～3月	小中学生意識調査の実施
令和3年 7月～令和4年3月	せんなん子ども会議での検討
令和3年 10月～11月	市民ワークショップの実施（全4回）
令和4年 5月12日	第1回泉南市総合計画審議会 ■審議会会長の選出について ■総合計画審議会の運営に必要な事項について ■総合計画基本構想（案）について ■今後のスケジュールについて
令和4年 6月23日	第2回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本構想（案）について
令和4年 8月23日	第3回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本構想（案）について
令和4年 10月14日	第4回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本構想（案）について ■総合計画基本計画（案）分野別政策1～3について
令和4年 10月27日	第5回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本計画（案）分野別政策1～3について
令和4年 11月10日	第6回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本計画（案）分野別政策3～4、総合的政策について
令和4年 11月24日	第7回泉南市総合計画審議会 ■総合計画基本計画（案）総合的政策について
令和4年 12月～令和5年1月	パブリックコメントの実施

2 せんなん子ども会議での検討

■実施概要

日時	内容
令和3年 7月24日	■未来新聞について ・総合計画の説明、10年後の泉南市の検討
令和3年 9月11日	■未来新聞について ・テーマ別に意見だし【公園・学校・地域・防災・減災・交通安全など】
令和3年 10月30日	■新聞イメージの共有 ・新聞の作り方、意見の集約
令和3年 12月18日	■未来新聞の記事作成
令和4年 1月15日	■未来新聞の記事作成
令和4年 2月19日	■市長報告の準備
令和4年 3月12日	■市長報告

■「未来新聞」記事の内容

「ぼくたちの学校紹介」

- ・学校行事がたくさんある楽しい学校
- ・元気が一番、楽しく運動しよう
- ・みんなが安心して過ごせる学校にしたい

「チプステ号が私たちのまちにやってくる」

- ・子どもたちが生活している地域の周辺に文房具やお菓子を売っている店が少ないので、移動販売車で各校区に売りに来てもらう
- ・チプステ号とは、駄菓子のことを英語で「cheap sweets(チープスウィーツ)」、文房具を「stationery(ステーションナリー)」というため、あわせてチプステ号とした
- ・チプステ号がやってくると、虹の音楽がかかってくるので、車には虹の絵が描かれている



「幸せになるよ 泉南市」

- ・便利ロボット「セカンド・ママ」ができて、家事などをやってくれる
- ・足の裏が掃除機、手のひらでおもちゃの片付け、洗濯物を集めて洗って干すだけでなく、指の先から風が出て乾かし、乾いた服はたたんで片付けてくれる
- ・習い事の行き帰りは一緒について行って来て危険なことから守ってくれる
- ・暗い部屋では、電気のスイッチを入れてくれる

「SENKUMA（せんくま）公園がオープン」

- ・子どもから大人、障害のある人から高齢者まで、みんなが安心して利用できる公園
- ・天気に左右されずに遊ぶことができる室内公園
- ・段差や階段が少なく、スロープを多くしたバリアフリーの公園
- ・こけてもけがをせず安全に遊べるように、地面は柔らかい素材を使っている
- ・点字ブロックや音声でトイレの場所がわかるようにしている

■せんなん子ども会議から出た解決したい課題

ロボット

- DX の推進、先端技術の活用
- 母親の家事・育児負担の軽減
- 子どもの安全確保（防犯）
- 高齢者、障害者の介護・介助
- 買い物場所の確保
- レジャー、楽しみの充実
- 誰一人取り残さない

公園

- 公共施設・資源の有効活用
- 子どもの遊び場の確保
- 障害者の居場所の確保
- 公民連携によるまちづくり
- 泉南市の PR
- バリアフリーの促進
- 身近な緑の確保

移動販売

- 買い物場所の確保
- DX の推進、先端技術の活用
- 障害者等のコミュニケーション支援（音楽による伝達等）
- 環境配慮、カーボンニュートラル
- 子どもの安全確保（交通安全）
- 地域コミュニティの維持

学校

- アフターコロナにおける観光・交流ニーズの高まり
- 子どもの自主・自律
- 動物への理解、交流（生物多様性）
- キャリア教育の推進
- メンタルヘルス、いじめ防止
- 学校の居心地の良さの向上

■子どもたちが描いた泉南市の未来の姿

- 先端技術を活用したロボット等が生活に浸透し、より便利で快適に、犯罪や交通事故の危険性も少なく安全なまちになっている。
- バリアフリー化や各種支援制度の充実により、子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず誰一人取り残さない社会が実現している。
- 身近な買い物場所（方法）が確保され、多様なレジャーや交流を市内外で楽しむことができるなど、みんなが幸せを感じられるまちとなっている。
- まちづくりには子どもをはじめ市民が関わり、遊び場や憩いの場がデザインされるなど、市民協働・公民連携が進んでいる。
- カーボンニュートラルの実現や再生可能エネルギーの導入等、環境に配慮した暮らし方が浸透し、身近に緑を感じられ、自然と共に暮らせるまちとなっている。
- 子どもの安全、健やかに育つ環境が確保され、希望する仕事を見つけたり、可能性を高めるサポートが充実し、活躍する人材が育つ環境となっている。
- 子どもと地域のつながり、人と人との交流等、ぬくもりある人間関係が構築された地域コミュニティが形成されている。



3 市民ワークショップでの検討

■実施概要

日時	内容
令和3年10月16日	<ul style="list-style-type: none"> ■ キックオフ会議 ・ オリエンテーション ・ 泉南市の魅力（強み）・課題（弱み）の整理
令和3年10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ■ まち歩きフィールドワーク ・ まち歩きフィールドワークの実施 ・ まち歩きフィールドワークのまとめ及び共有
令和3年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ■ みんなで泉南を語ろう① ・ 魅力（強み）を活かした取組、課題（弱み）を克服する取組
令和3年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ■ みんなで泉南を語ろう② ・ 将来の目指す姿 ・ 取組アイデア



■【産業グループ（農業、漁業、商工業、雇用等）】

《結果のまとめ》

目指す姿		自然と産業の共存		
取組	短期（概ね5年）	<ul style="list-style-type: none"> ■自然を取り戻す（共存） ■生活の利便性と自然環境保全の両立 ■自然を活かした体験や観光プログラムを作る ■1次産業に興味を持つ人をつくる ■農地、空き地、空き家、廃校利用 ■体験プログラム（伝統文化、クラフト、農業、漁業）担い手や、1次産業に携わる人を発掘 ■Sennan Nature Schoolの拡散 ■豊かな農地保全 	<ul style="list-style-type: none"> ■IT ■ブランド化 ■高付加価値 ■泉南ブランドを作っていく ■ブランドを作るための研究費を用意する ■名産物のPR ■産業を活発にすることが雇用につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ほんものを作る ■自然回帰 ■交通の便の工夫→ちらばった魅力的な観光地や施設をつなぎ訪れやすくする ■条例変更、住みやすい ■企業が泉南市に来てもらえるような働きかけ ■企業同士のタイアップ ■技術力のPR
	中期（概ね10年）	<ul style="list-style-type: none"> ■産業、漁業に携わりたい人への補助→設備費用、弟子入り中の補助 ■自然環境教育に力を入れる→若い世代に農業、漁業に関心を持ってもらう（担い手育成） 	<ul style="list-style-type: none"> ■有機栽培→市全体→ブランド化して価格価値をあげる ■野菜、魚、物の商品価値を高める 	
	長期（概ね20年）	<ul style="list-style-type: none"> ■自然と人の関わり方 ■市全体のSDGs 	<ul style="list-style-type: none"> ■歴史的な街道と伝統文化の融合→伝統を受け継いでいる人を呼んできて、“伝統のまち”づくり ■環境に配慮された使いやすい魅力的な商品づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ■泉南市に住む若い人を増やす ■しがらみをなくす ■山から海へ電車を通す
その他		自然環境	産業（ブランド化）	インフラ・商工業
	その他	若者を支える大人の育成		

■【福祉・健康グループ（高齢者福祉、障害福祉・子育て、地域福祉、保健・医療等）】

《結果のまとめ》

目指す姿		枠を越えた 人と人との交流	
取組	短期（概ね5年）	<ul style="list-style-type: none"> ■つながりをつくる為のきっかけづくり ↓ ■多くの人、幅広い年齢層の方が参加できるボランティア活動の実施など（清掃活動とか） ■幅広い年齢層の多くの方々が同じ目標をもって活動できるイベント・ボランティア活動を実施し、泉南市民の絆を深める ↓ ■つながり・絆が強くなり交流が盛んになる ■高齢者、障害者、子どもなどの施設間の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者や子どもたちに農業を教える人の募集 ■休耕地の利用促進 ■農業をしたい人募集 ■空いている畑を把握する ■空いている農地の把握に加え、農家だけでなく、文化を伝承して下さる方の教えを把握する ■住民同士が交流できる機会づくり ■地区ごとの体育大会を開催
	中期（概ね10年）	<ul style="list-style-type: none"> ■介護施設・障害者施設の担い手を増やす。また、長く働けるよう支援する ■農業指導者の育成 ■ボランティア文化の育成 ■農業を通じた地域福祉 ■仕事・スキルの伝達、指導 ■空き農地を活用して、農業を通じ、文化の継承。また、子どもや障害者と交流し、それぞれの自律自立を目指す場とする ■高齢者の配食サービス ■小学校給食のシステムを活用し余力を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ■三世帯同居に対する減税などのハードルを下げる ↓ ■三世帯同居による市民人口の流出を低減する ■市民体育会の企画開催
	長期（概ね20年）	<ul style="list-style-type: none"> ■短期で清掃活動などを通じた世代間交流、つながりを強め、中期で空き農地を利用し、子どもや障害者の自律自立を目指す ■長期では農業に限らず、子育て、産業、身近な困りごとなどあらゆる場面で助け合える泉南市になる ■社会復帰のきっかけとしての仕事づくり ■働くよろこび ■農業振興 ■農業法人の設立 ■泉南ブランド、野菜の創出 ■高齢者の生きがいを再び感じて頂く ■夜間人口を増やす 	
その他	その他	市民病院（新しいスタイル）	

■【住環境・教育・歴史グループ（学校教育、生涯学習、スポーツ、歴史・文化、都市整備、移住・定住等）】

《結果のまとめ》

目指す姿		人が育ち、住みつづけたまち		
取組	短期（概ね5年）	情報活用 <ul style="list-style-type: none"> ■メディアの活用 ■コミュニティバス ■電光掲示板 ■ケーブルテレビ ■LINE、TikTok、Twitter、YouTubeをより活用する ■お年を召した方へのIT講習 	街づくり <ul style="list-style-type: none"> ■空き地の活用（カフェ） ■企業誘致（税、マッチング助成） ■歴史を活かしたプロモーション（映えスポット、〇〇聖地） ■映画、アニメ、ワーケーション誘致 ■古い街並を利用したイベント ■クラウドファンディングの活用 	教育 <ul style="list-style-type: none"> ■学力を上げる→自主性、個人意見の尊重 ■子ども会議 ■家族以外の人と関わる機会を増やす
	中期（概ね10年）	<ul style="list-style-type: none"> ■市の庁舎の建て替え ■市役所の建て直し（情報発信の場、市のシンボル） ■全ての情報がつまった案内所を増やす（区民センター、イオン、ロングパーク） 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民の収入を増やす ■事業所の成長支援 ■雇用が増える、人口減少をとめる ■商業の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ■小中一貫教育
	長期（概ね20年）	<ul style="list-style-type: none"> ■電子端末の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ■関空にもう一つ連絡橋をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学、専門学校を建てる（小、中、高生の目標となる）

■【防災・防犯グループ（防災・防犯、消防・救急、消費生活等）】

《結果のまとめ》

目指す姿		地域力をいかした安心安全な町づくり 共に守ろう！ずっと住み続けたいまち、せんなん！		
取組	短期（概ね5年）	緊急時のため <ul style="list-style-type: none"> ■災害時、消防団員にリーダーシップをとってもらえるようにしておく 	準備 <ul style="list-style-type: none"> ■地域の防災訓練 ↓ ■店舗を利用してPR（地域のイベントも利用） 夏祭り、秋祭りも ■地域ごとに、防災士の育成（講習代、試験代を市で補助） 	普段の安全のため <ul style="list-style-type: none"> ■知ってもらう機会を増やす（消費者相談、ハザードマップ等） ■自転車の左側通行指導
	中期（概ね10年）	<ul style="list-style-type: none"> ■自主防災組織と消防団員の協定 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校の避難訓練を強化（ケースに応じた避難場所の周知） 	<ul style="list-style-type: none"> ■電柱等を利用して、災害時に利用できるような数値や矢印を増やす（海拔表示みたいなやつ） ■通学路にガードレールを増やす
	長期（概ね20年）	<ul style="list-style-type: none"> ■自主防災組織で、「助ける」仕組みを構築 		<ul style="list-style-type: none"> ■自転車専用レーン ■人感センサー、街灯を増やす

■【観光・自然環境グループ（環境、自然環境等）】

《結果のまとめ》

目指す姿		自然と産業の共存	
取組	短期（概ね5年）	ソフト面 ■市民人材バンクの設立（登録者を募る） 観光資源に詳しいその道のプロを探す 人材育成	ハード面 気軽なモビリティの確立
	中期（概ね10年）		
	長期（概ね20年）	今の子どもたちも仕掛ける側になっているはず…？	
その他	■他の分野との連携 ■雇用、市内完結型、出ても戻って来てくれたら… ■継続的なワークショップ開催		

4 総合計画審議会委員名簿

区分	氏名	所属・役職等	備考
学識経験のある者	和泉 大樹	阪南大学国際観光学部教授	会長
	北村 元成	和歌山大学観光学部教授	副会長
関係団体の代表者	上中 喜美夫	泉南市区長連絡協議会	会長
	片木 俊昭	泉南市観光協会	会長
	上山 忠	社会福祉法人 泉南市社会福祉協議会	副会長
	土井 一茂	泉南市商工会	事務局長
	道場 和子	泉南市婦人団体協議会	会長
公募市民	松本 啓子	泉南市ABC委員会	会計
	若林 静代	泉南市文化協会	専門委員
	奥 加奈子		
	川田 直美		
	中澤 幹雄		
	前川 優		
	山中 菜々子		

敬称略 順不同

5 諮問・答申書

■ 諮問書

泉南政第92号
令和4年5月12日

泉南市総合計画審議会 会長 様

泉南市長 竹中 勇人

第6次泉南市総合計画について（諮問）

第6次泉南市総合計画（基本構想・基本計画）の策定にあたり、泉南市総合計画審議会規則第2条に基づき、貴審議会の意見を求めます。

■ 答申書

泉南総審第7号
令和4年12月1日

泉南市長 山本 優真 様

泉南市総合計画審議会 会長 和泉 大樹

第6次泉南市総合計画（案）について（答申）

本審議会では、令和4年5月に開催した第1回審議会を始まりとし、令和4年5月12日付、泉南政第92号により「第6次泉南市総合計画（案）」について諮問を受け、これまで全7回にわたり慎重に議論を重ねてきた。

審議の結果、諮問（案）については一部修正を加えた上で、おおむね妥当と認め、ここにその旨を答申する。

ただし、用語解説の作成など、各委員から出された意見を最大限に尊重して、今後成案を作成することを要望する。

市長は、答申の趣旨を尊重のうえ、本計画実現のため、市政のあらゆる場面への市民の積極的な参画を促すとともに、市民と協働して泉南市の地域資源の力を引き出し、主体的で独自性豊かなまちづくりのため、効果的な施策の展開を図られたい。

また、めまぐるしく変化する国内外の情勢や社会潮流を適切に把握し、常に計画の進行状況の確認と修正を行い、本総合計画がめざす泉南市の将来像が市民に周知・理解されるよう努めることを希望するものである。

さらに、この審議会の審議過程で出された提言・意見等については、資料としてとりまとめ、今後策定される諸計画や行政運営の中で、十分活用されたい。

6 泉南市自治基本条例

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、前文に掲げた理念に則り、泉南市における市民自治の基本原則、市民の権利と責務、市の役割と責務並びにまちづくりの仕組みを定めることによって、各主体が協働して個性豊かで魅力あるまちを創造するとともに自主、自立した自治体にふさわしい市民自治を実現し、もって市民福祉の向上を図ることを目的とします。

(条例の位置づけ)

第2条 この条例は、市民自治及びまちづくりの基本となる事項を定めるものであり、他の条例、規則等を制定改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、整合性を図るものとします。

2 市は、他の条例、規則、規程、計画等についてこの条例のもとに体系的な整備を図るよう努めます。

(基本となる用語)

第3条 (略)

第2章 基本原則

(市民自治の原則)

第4条 市民及び市は、互いに自主性を尊重しあい、市民の参画を得て市民の意思に基づき、さまざまな地域課題に取り組むことを原則とします。

(情報共有の原則)

第5条 市民及び市は、各々が保有する情報が共有財産であることを認識し、互いに共有し、まちづくりに活用することを原則とします。

(参画と協働の原則)

第6条 市民及び市は、多様な主体によるまちづくりを推進するため、それぞれの役割と責務に基づいて参画し、協働することを原則とします。

第3章 まちを創る市民

(市民の権利)

第7条 市民は、国籍、性別、年齢等に関わらず、平等にまちづくりに参画する権利を有します。ただし、参加、不参加に関わらず差別的な取り扱いを受けるものではありません。

2 市民は、法令等により制限される場合を除き、市政に関して全てのことを知る権利を有します。

3 市民は、良好な環境で暮らし、活動する権利を有します。

4 市民は、活動に関して自主性、自立性が尊重される権利を有します。

5 市民は、市が提供するサービスを受ける権利を有します。

(こどもの権利保障)

第8条 市は、こどもがまちづくりに関する意見を表明、表現することができる機会を積極的に設けるとともに、その意見を尊重するよう努めなければなりません。

(市民の責務)

第9条 市民は、まちづくりの主体であることを認識し、積極的にまちづくりに参画するよう努めなければなりません。

2 市民は、まちづくりの主体としての多様性を認め、全ての人権を守るとともに弱者や環境に配慮するよう努めなくてはなりません。

3 市民は、まちづくりを通じて良好な環境を次世代へ引き継がなければなりません。

4 市民は、まちづくりに参画するにあたって自らの発言、決定及び行動に責任を持たなければなりません。

5 市民は、第7条に定める権利の行使にあたっては濫用することなく、常に公共の福祉に配慮するよう努めなければなりません。

(事業者の責務)

第10条 事業者は、市民として責務を遵守することと併せ、社会的な責任を自覚し、市民及び市と協働しながら地域との調和を図るとともに、まちづくりの推進に寄与するよう努めなければなりません。

2 事業者は、事業活動を行うにあたり、自然環境と生活環境に配慮するよう努めなければなりません。

(コミュニティ活動)

第11条 市民は、コミュニティ活動に積極的に参画し、交流を重ねながら地域課題に取り組むよう努めます。

2 市民は、コミュニティ活動を展開していく中で、新たな人材の育成とともに参画しやすい開かれた体制づくりに努めます。

3 市民は、地域の絆を深めてより広域的な地域課題の解決に取り組むため、一定のまとまりのある地域においてコミュニティ活動を行う組織を設置することができます。

4 市は、コミュニティ活動の自主性及び自立性を尊重し、協働して地域課題の解決に取り組むとともに、その活動を守り育てるため必要な支援に努めなければなりません。

第4章 まちを創る仕組み(略)

第5章 まちを創るための議会(略)

第6章 まちを創るための行政

(市長の役割)

第21条 市長は、市民の信頼に基づく負託に応え、市政の代表者としてリーダーシップを発揮し、まちづくりのビジョンを示します。

2 市長は、市民参画と協働によるまちづくりを進め、市民福祉の向上をめざします。

3 市長は、経営感覚をもって効率的かつ効果的に市政を運営します。

(市長の責務)

第22条 市長は、まちづくりのビジョンを実現するため、俯瞰的に実情を把握し、総合的な市政運営に努め、市民への説明責任を果たさなければなりません。

2 市長は、市民福祉の向上を図るため、市民の視点に立って市民の参画を推進し、協働によるまちづくりの実現に努めなければなりません。

3 市長は、効率的かつ効果的に市政を運営するため、柔軟で機能的な組織づくりを行うとともに、職員の指揮監督に努めなければなりません。

(職員の責務)

第23条 職員は、全体の奉仕者として社会情勢や行政需要に的確に対応し、最少の経費で最大の効果をあげるため、市民の視点に立って公正、誠実かつ創意をもって政策課題に取り組みなければなりません。

2 職員は、市民との信頼関係を築き、積極的に協働して地域課題に取り組み、説明責任を果たさなければなりません。

3 職員は、その専門性と政策能力の向上をめざし熱意をもって自己研鑽に励むとともに、職務について責任を持ち、不断の改善に努めなければなりません。

(総合計画)

第24条 市長は、本市の将来の姿を明らかにし、政策資源を有効に活用して市政を総合的かつ計画的に運営するため、議会の議決を経て、めざすべき将来像を定める基本構想及び構想を実現するための基本計画（以下「総合計画」といいます。）を策定します。

2 総合計画は、市の政策を定める最上位の計画であり、執行機関が行う政策等は原則としてこれに基づかなければなりません。

第25条 (略)

第26条 (略)

第27条 (略)

第28条 (略)

第29条 (略)

第7章 連携と交流 (略)

第8章 実効性の確保 (略)

7 SDGs について

平成 27 (2015) 年に国連で採択された持続可能な開発目標－SDGs は、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるための 17 の目標と 169 のターゲットを定め、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる幅広い分野の課題に取り組む国際社会の普遍的な目標として、あらゆる主体が取り組むことが求められています。

■ SDGs の 17 の目標



目標 1 【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



目標 2 【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



目標 3 【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標 4 【教育】

すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標 5 【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児のエンパワーメントを行う



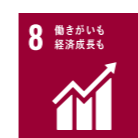
目標 6 【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標 7 【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する



目標 8 【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する



目標 9 【インフラ、産業化、イノベーション】

強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る



目標 10 【不平等】

国内および各国家間の不平等を是正する



目標 11 【持続可能な都市】

包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する



目標 12 【持続可能な消費と生産】

持続可能な生産消費形態を確保する



目標 13 【気候変動】

気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標 14 【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



目標 15 【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する



目標 16 【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



目標 17 【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化化する

8 用語解説

ア行

■ ICT

Information and Communication Technology の略。情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。

■ 空き家バンク

空き家の有効活用により、移住及び定住等による地域活性化を推進するため、空き家の売買・賃貸借を希望する所有者等が物件を登録し、その情報を空き家の利用希望者へ紹介する制度。

■ RPA

Robotic Process Automation の略。コンピュータ上で行われる作業を人の代わりに自動で実施する技術のこと。

■ 医療的ケア児

日常生活を送るために痰の吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子どものこと。

■ インクルーシブ保育

インクルーシブ (inclusive) は、「包括的な、すべて含んだ」という意味で、インクルーシブ保育は子どもの年齢・国籍・障害の有無などの違いを受け入れ同じ環境で教育を受けさせる保育のこと。

■ インバウンド

外国から訪れてくる旅行者のこと。

■ インフラ

infrastructure の略。産業や社会生活の基盤として整備される建築物や道路・橋梁などの施設・設備。

■ AI

Artificial Intelligence の略。人間の知的営みをコンピュータに行わせるための技術のこと、または人間の知的営みを行うことができるコンピュータプログラムのこと。一般に「人工知能」と和訳される。

■ SNS

Social Networking Service の略。個人間のコミュニケーションにより社会的なネットワークを構築するインターネットを利用したサービス。

■ NPO

Non-Profit Organization の略。福祉・まちづくり・環境保全・国際交流・災害支援などの場面で組織として活動する民間の非営利組織。

■ 温室効果ガス

大気中に存在する地表から放射された赤外線の一部を吸収することで、温室効果をもたらす気体の総称。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素等があり、これらの排出には人間の生活・生産活動が大きく関与している。

カ行

■ カーシェアリングサービス

登録した複数の会員が自動車を共同利用するシステム。

■ カーボンニュートラル

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

■ 関係人口

移住してきた「定住人口」でも、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人びとと多様に関わる人びとのこと。

■ 希望出生率

若い世代の結婚や出産の希望がなくなったときの出生率の水準。国の実施した調査の結果から、夫婦が予定する子どもの数 (2.07 人) に離婚等を勘案し、1.80 と想定している。

■ 休日滞在人口率

滞在人口 ÷ 国勢調査人口 (総務省「国勢調査」夜間人口) で表される滞在人口のうち休日の率。指定地域の指定時間 (4 時、10 時、14 時、20 時) に滞在していた人数の月間平均値を表している。

■ 共助

地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。

■ 協働

市民事業者、行政などの社会を構成する各主体が立場と役割を相互に理解し、一つの目的に向かって協力、連携して取り組むこと。

■ グローバル社会

個人・企業・団体の行いが合理的な選択を求めて国際的に広がっていく社会。

■ 経済センサス

事業所及び企業の経済活動の状態、産業構造を明らかにするとともに、事業所・企業を対象とする各種統計調査の実施のための母集団情報を整備することを目的として総務省統計局が実施する調査及びその結果。

■ 経常収支比率

地方税、地方交付税、譲与税・交付金などの経常的な一般財源が、どの程度経常的な経費に充てられているかを示す指数で、財政構造の硬直度を表すものさしとされている。

■ ゲートキーパー

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人のこと。

■ 健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間。

■ 合計特殊出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率 (母の年齢別年間出生数 ÷ 年齢別女性人口) を合計したもの。1 人の女性が一生の間に出産する平均の子どもの数とみなされる。

■ 公助

個人や地域で解決できない問題について行政が支援すること。

■ 交通弱者

公共交通機関の利用が困難な土地に住んでいる、自家用車両を所有していないなどの理由で交通手段に制約がある人の総称。

■ 公民連携

自治体と民間事業者等が連携して公共サービスの提供を行う仕組。社会経済情勢の変化や住民の暮らし方の変化によるニーズの多様化に対応するため、自治体が民間事業者の知識や技術、資源を活用し、公共サービスを継続的に実施していくための手法。

■ 合理的配慮

障害のある人から、社会の中にあるバリア (障害となることやもの、状況など) を取り除くための対応が求められたときに、負担が重すぎない範囲でバリアの除去を行うこと。

■ 交流人口

通勤・通学や買い物、観光などのため、その地域に訪れる (交流する) 人のこと。

■ 子育て支援センター

乳幼児親子が気軽に集える場を提供し、親子の交流や学びの講座、育児相談、情報提供などを行う施設。

■ コミュニティバス

公共交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村が交通事業者に委託して運送を行う乗合バスや、市町村自ら交通事業者として行う有償運送のこと。

■ コミュニティビジネス

市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業の総称。

■ コンパクトシティ

住まいと生活に必要な機能 (医療、福祉、商業など) を一定範囲に集約し、効率化した持続可能な都市のこと。

サ行

■再生可能エネルギー

石油や石炭、天然ガスといった化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった資源など自然界に常に存在するエネルギーのこと。

■自主防災組織

地域住民による自主的な防災活動に取り組むことを目的として結成された組織。

■自助

災害への備えなど、自分でできる対策は自分で行うこと。

■実質公債費比率

過去の地方債の返済にかかる元利償還金及びそれに準じる額の総合的な負担を表す指標で、元利償還金等が標準財政規模に占める割合。

■シティプロモーション

まちの魅力を市内外にアピールし、人や企業に関心を持ってもらうことで、人や企業の誘致や定着化を図り、将来にわたるまちの活力を得ることにつながっていく取組のこと。

■シビックプライド

特定の地域に対する愛着や誇りに加え、地域をよりよくするために貢献しようとする心意気または感情。

■市民後見人バンク

認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でないため自分で契約や財産管理などの法律行為を行うことが難しい場合、家庭裁判所から選任された成年後見人等がその援助をする市民後見人として活動してもらうために登録する制度。

■周産期医療

妊娠 22 週から出生後 7 日未満までの期間を周産期といい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間における医療のこと。

■循環型社会

環境への負荷を減らすため、リサイクルなど限りある資源を効率的に利用することで廃棄されるものを最小限に抑える社会。

■小中一貫教育

小学校と中学校の教育内容の連携を進めて、目指す子ども像を共有し、一貫したカリキュラムや生徒指導を進めること。

■食育

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に着け地域の自然、食文化、産業等について理解を深めること。

タ行

■脱炭素社会

地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会のこと。国では「2050 年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言し、再生可能エネルギーの拡大や省エネルギーの促進等に取り組んでいる。

■多文化共生

国籍や民族などの異なる人びとが、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きていくこと。

■団塊ジュニア世代

1971 年～ 1974 年頃の第 2 次ベビーブームに生まれた世代。「団塊世代」の子ども世代。

■団塊の世代

1947 年～ 1949 年頃の戦後の第 1 次ベビーブーム時代に生まれた世代。

■男女共同参画社会

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思で社会のあらゆる場における活動に参画する機会が確保され、均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

■地域共生社会

制度や分野ごとの縦割りや支え手・担い手という役割を超え、地域住民や地域の様々な主体が『我が事』として地域に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民の暮らしや生きがい、地域を共に創っていく社会。

■地域包括ケアシステム

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する仕組み

■地産地消

地域で生産された農林水産物などを、その地域内で消費すること。

■地方分権

国の権限や財源を地方（都道府県や市町村）に移し、地方の自主性と自立性を高める取組。

■DV

ドメスティック・バイオレンスの略。配偶者や恋人など、親しい人間関係にある、またはあった者からの暴力のこと。殴る、蹴るといった身体的なものだけでなく、精神的・性的なものなど、様々な形がある。

■デジタルサイネージ

ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムの総称。「電子看板」を意味し、主に広告媒体として利用されている。

■デジタルデバインド

情報通信技術を利用して恩恵を受ける人と、利用できずに恩恵を受けられない人との間に生ずる、知識・機会・貧富などの格差。

■デジタルトランスフォーメーション (DX)

情報通信技術の浸透により、人びとの生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。

■デジタルリテラシー

デジタル技術を理解して適切に活用するスキルのこと。

■デマンド型交通

需要に応じて柔軟に運行する利用者主導型の交通。定時・定路線のバス運行に対して、電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の形態。

■テレワーク

Tele（離れて）と Work（仕事）を組み合わせた造語で、本拠地のオフィスから離れた場所で、ICT などを使って仕事をする事。

■都市計画道路

都市の基盤施設として、都市計画法に基づく都市計画決定による道路。

ナ行

■南海トラフ地震

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域である南海トラフにおいて発生が予測される地震。

ハ行

■パブリックコメント

市が重要な政策を策定するときに、その原案を市民に公表し、寄せられた意見・情報を政策形成に反映していく制度。

■避難行動要支援者

高齢者、障害のある人、妊産婦などの防災対策で特に配慮を要する人（要配慮者）のうち、災害発生時、または発生するおそれがある場合に、自ら避難することが困難であり、迅速な避難のために特に支援を要する人のこと。

■ファシリティマネジメント

組織活動のために施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動のこと。

■フレイル

加齢により心身が衰えた状態。

■ポストコロナ

新型コロナウイルス感染症が流行したことで、流行以前と生活様式が変化した後の状態のこと。

マ行

■マイクロツーリズム

自宅から1～2時間圏内の地元、または近隣への宿泊観光や日帰り観光。

■マイナポイント

マイナンバーカードを新規に作り、マイナンバーカードに「健康保険証の利用登録」「公金受取口座の登録」をすることによりもらえるポイントのこと。

■マイナンバーカード

国民一人ひとりに固有の番号を割り当て、複数の機関が保有する個人の情報を同一のものとして特定できるようにしたカード。

■ママサロン

子育て中のママたちの交流の場。

■無電柱化

道路の地下空間を活用し、電力線や通信線などを収容する電線共同溝などの整備による電線類地中化などにより道路から電柱をなくすこと。

ヤ行

■ヤングケアラー

本来大人が担うと想定される家事や家族の世話を日常的に行っている子どものこと。

■Uターン

大都市圏の居住者の地方移住の一つで、出身地に戻る形態。

■ユニバーサルデザイン

障害の有無や年齢、性別、国籍などに関わりなく、誰もが使いやすく、安全で便利な都市や建物、製品や道具を実現しようとする考え方。

ラ行

■リハビリテーション

障害児者を援助し、可能なかぎりその機能を発揮できるように、社会の中に統合できるように、医学的・社会的・教育的・職業的な手段を組み合わせる実行する過程で障害児者の自律と参加を目指す考え方。

■類似団体

人口と産業構造により設定された類型により、全国の市区町村を大都市、特別区、中核市、特例市、都市、町村ごとに団体を分別したもの。

■連携型集約都市

都市機能が集約した鉄道駅や市役所周辺などの都市核や、山麓部の集落における小さな拠点を形成し、それらを交通ネットワークで結ぶことで臨海部と山麓部の連携・交流によるにぎわいを創出し、広域交流も含め、人とももの大きな流れを呼び込むことを目指す泉南市の将来都市構造。

■6次産業化

第1次産業としての農林漁業と第2次産業としての製造業、第3次産業としての小売業等を総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組。

ワ行

■ワークショップ

一般的な会議とは異なり、少人数のグループでの検討やゲーム形式での実施など、気軽に意見を出し合える雰囲気での検討する会議の形態。

■ワーク・ライフ・バランス

仕事（ワーク）と、育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった生活（ライフ）との調和をとり、その両方を充実させるという働き方・生き方。

第6次泉南市総合計画

ちよつとええやん なかなかええやん

～かんじる つながる ひろがる 住人十色のまち せんなん～

発行：令和5年6月

発行者：大阪府泉南市

〒590-0592

大阪府泉南市樽井一丁目1番1号

編集：泉南市政策推進課

TEL：072-483-0004



第6次
泉南市総合計画
2023 ▶ 2032

